

履物、安全靴に関する意識・実態調査 (対象：日本フットケア・足病医学会会員)

集計報告書



日本フットケア・足病医学会
補装具委員会 安全靴に関するWG

【調査目的】

1. 日本フットケア・足病医学会員の履物に関する指導状況の実態を明らかにすること
2. 日本フットケア・足病医学会員における安全靴（プロテクティブスニーカー含む）等による障害の有無、安全靴使用者への免荷療法の実態を明らかにすること

【調査対象】

日本フットケア・足病医学会に所属し、メールアドレス登録がある

医師会員：1,326名

義肢装具士会員：125名

その他医療・福祉資格を有する学会員：3,753名

【調査方法】

日本フットケア・足病医学会事務局からDM配信による横断的ウェブ調査

【調査期間】 2025年6月16日～2025年7月29日

【調査主体】 日本フットケア・足病医学会 補装具委員会 安全靴に関するWG

補装具委員会担当理事：門野邦彦、委員長：菊池恭太、副委員長：上口茂徳

安全靴に関するWG長：有園泰弘

安全靴に関するWG委員：今岡信介、上口茂徳、大窪伸太郎、春日麗、富田益臣

【 結 果 目 次 】

医師会員対象

1.調査協力者の背景と回収率	3
2.靴に関する指導状況、実態	6
3.安全靴等に関する診療、実態	9
4.安全靴等使用者の足の傷診療、実態	12
5.フリーコメント	15

義肢装具士会員対象

1.調査協力者の背景と回収率	19
2.靴に関する指導状況、実態	21
3.安全靴等使用者への装具の提供実態	24
4.安全靴等使用者の足の傷診療、実態	26
5.フリーコメント	28

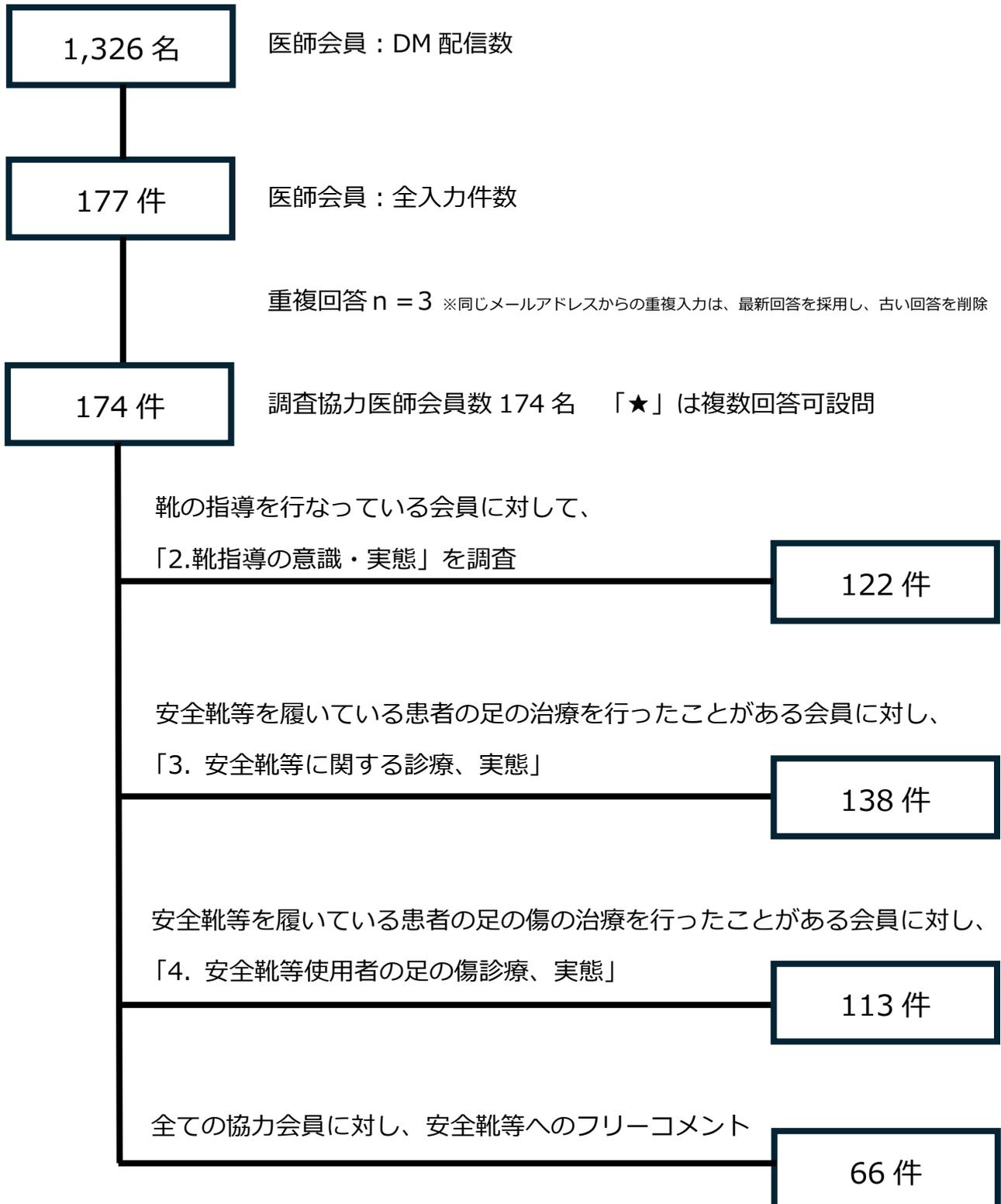
医療専門職種会員対象

1.調査協力者の背景と回収率	30
2.靴に関する指導状況、実態	34
3.安全靴等に関する診療、実態	37
4.安全靴等使用者の足の傷診療、実態	40
5.フリーコメント	42

1. 調査協力者の背景と回収率

1-1. 調査協力者内訳

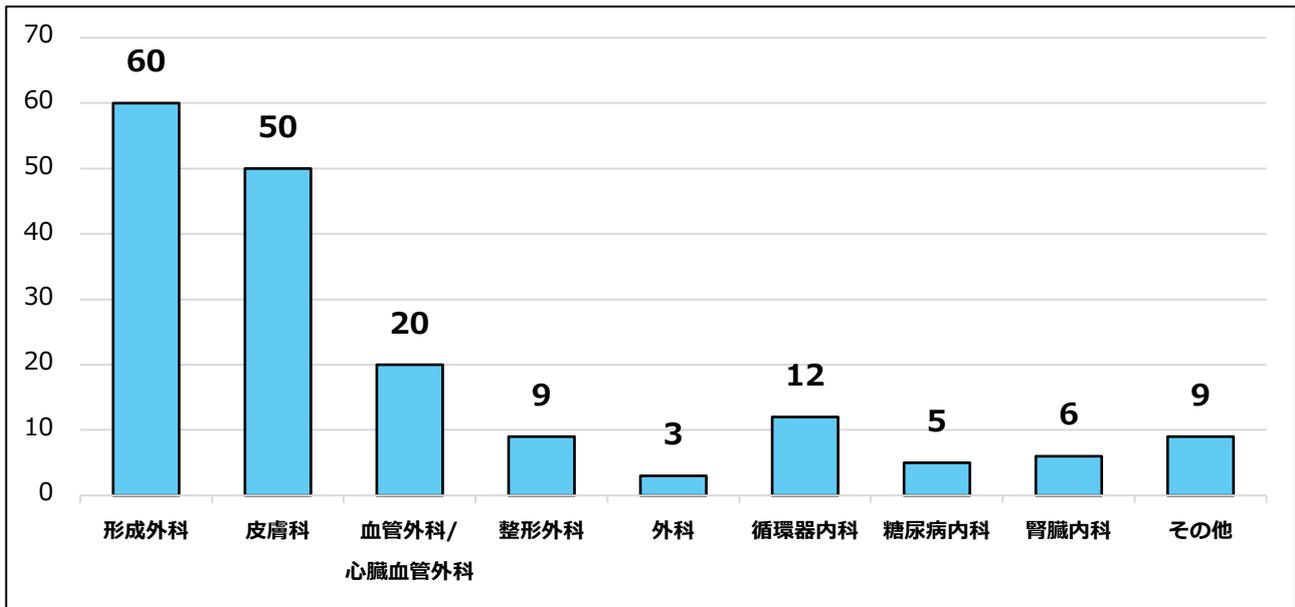
医師会員



1-2. 全体回収率

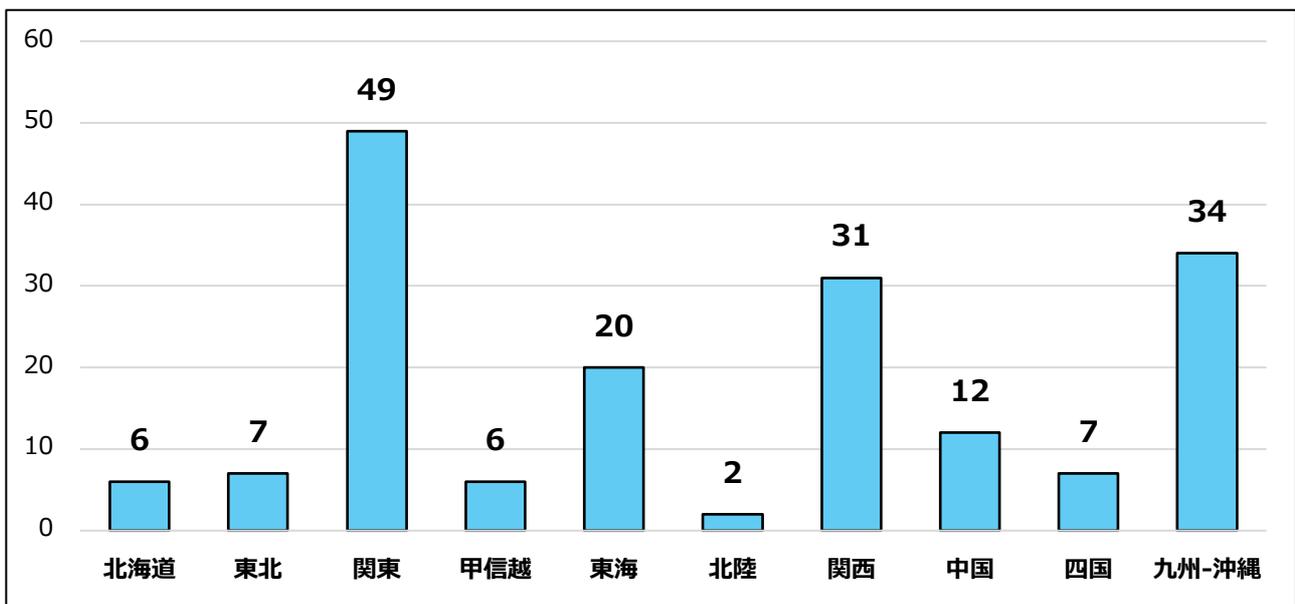
医師会員 174/1,326 13.1%

1-3. 診療科別回収件数

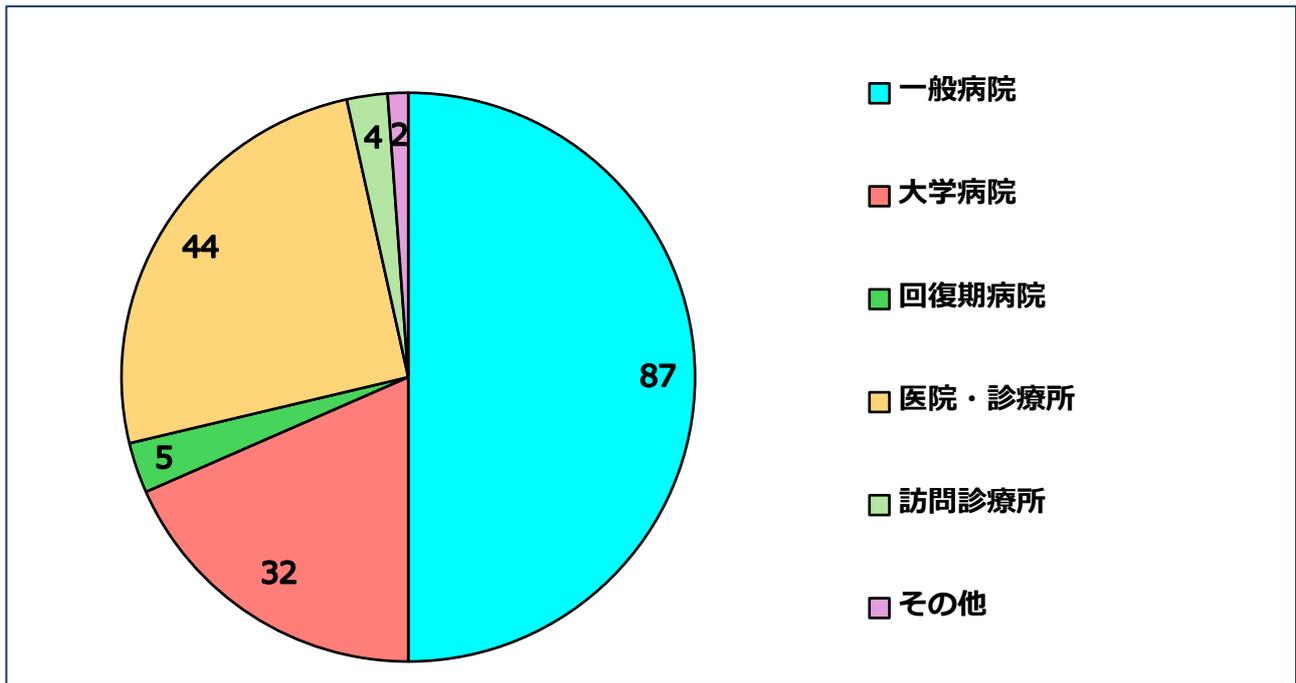


その他内訳：内科 2、リハビリテーション科 1、泌尿器科 1、循環器科・足病科・血管外科 1、足病科 1、老年内科 1、呼吸器外科 1、透析 1

1-4. 地域別回収件数

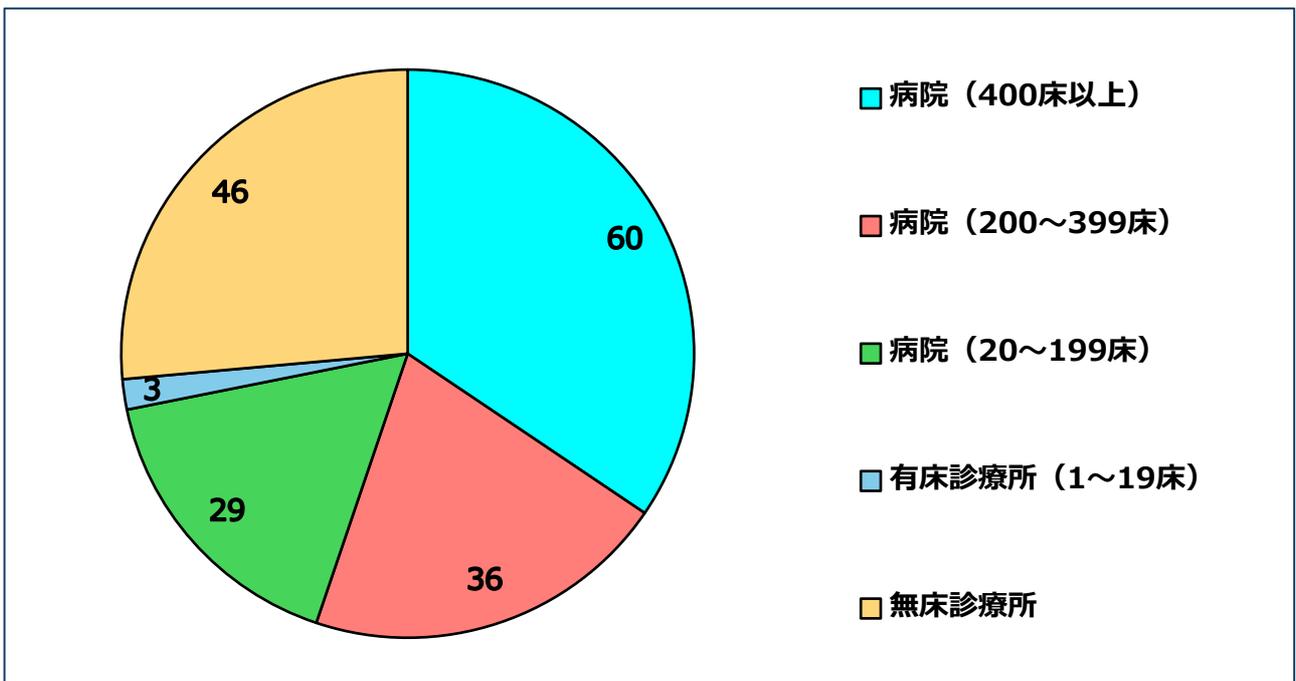


1-5. 調査協力者の所属施設

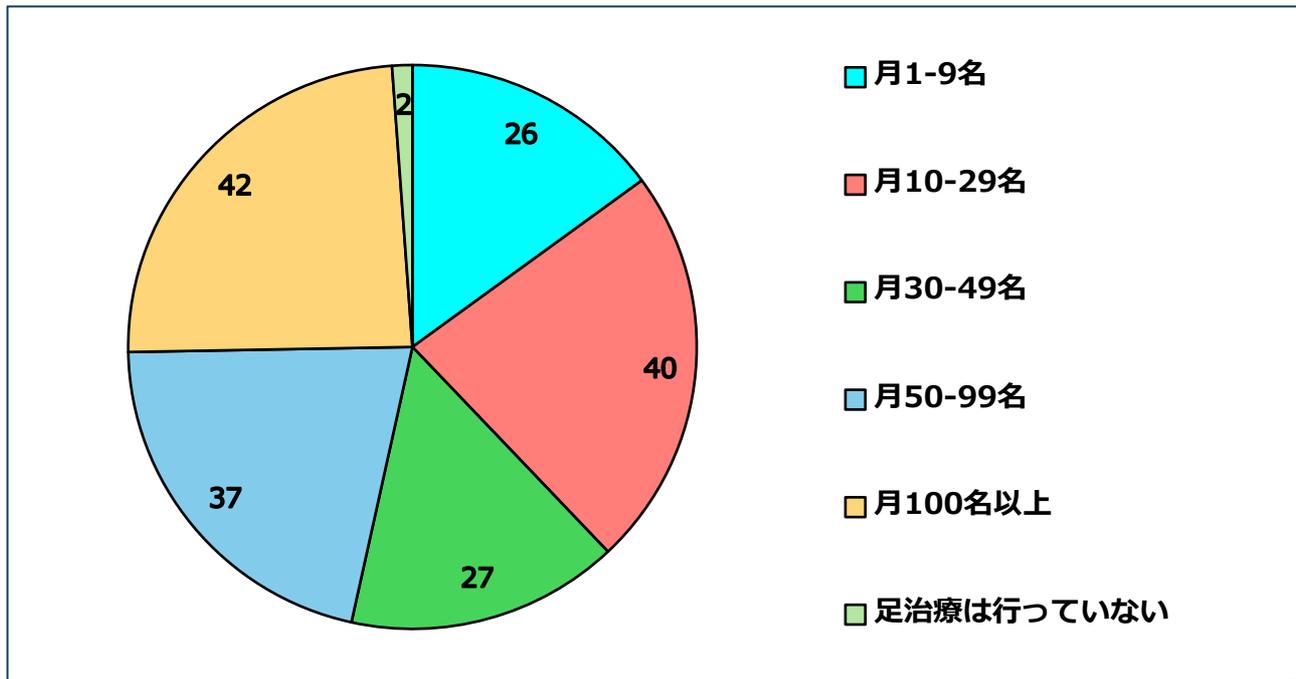


その他内訳：施設特定情報があるため表記しない

1-6. 所属施設の規模

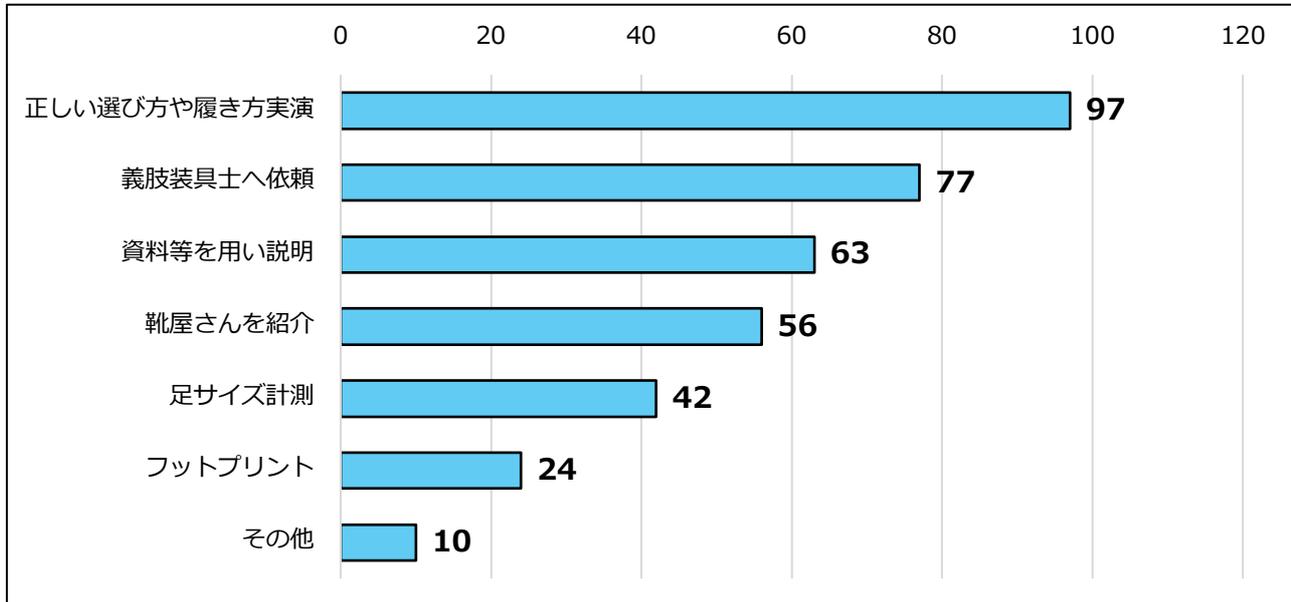


1-7. 足病変患者の診療状況（実人数）



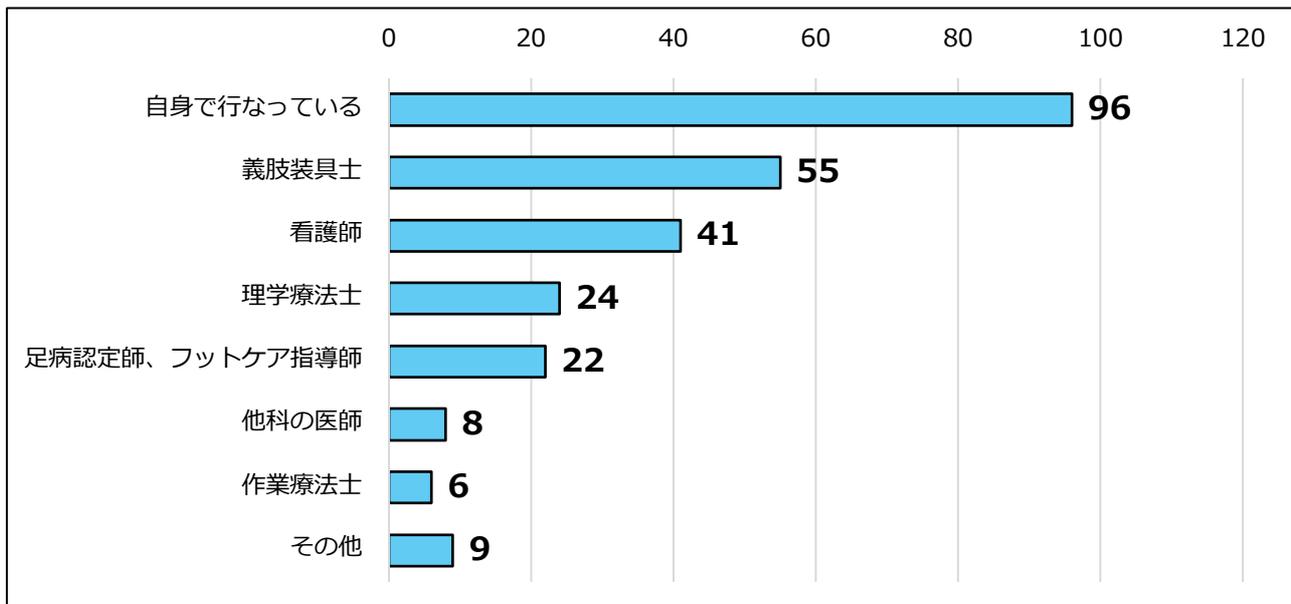
2. 靴指導の意識、実態 (n=122)

2-1★. 行なっている靴の指導内容 (指導者はスタッフ含む)



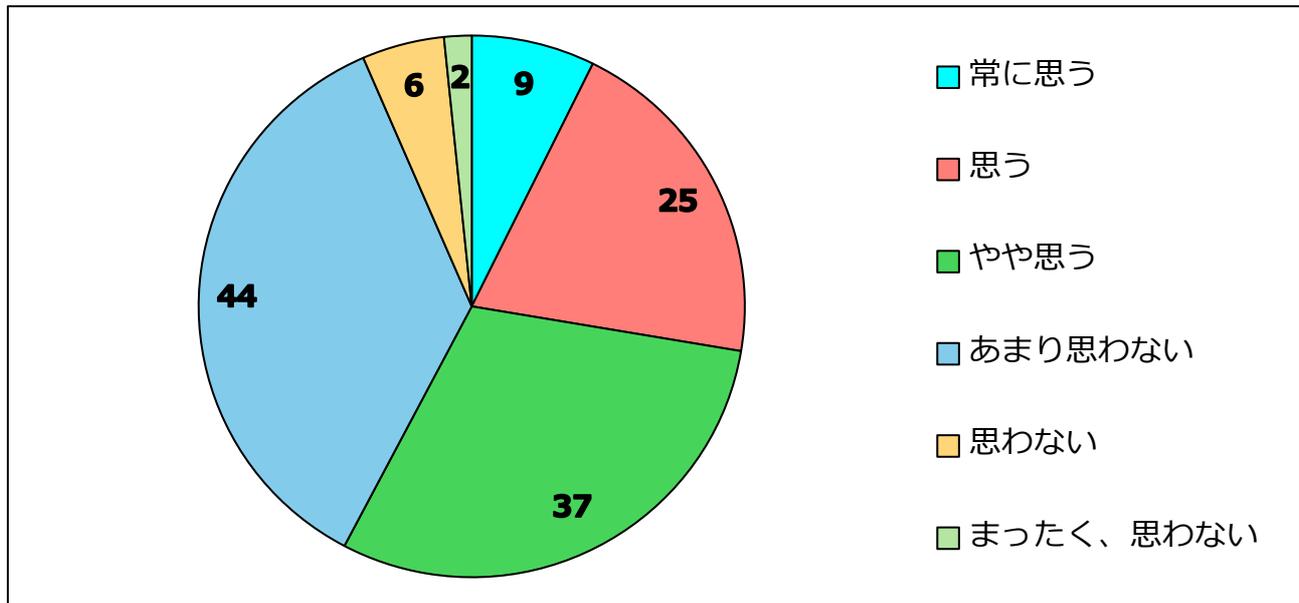
その他内訳：院内に訪問していない義肢装具士へ依頼する1、サイズ選びに関するアドバイス程度1、口頭での説明、本人が持っている靴を用いての説明、インターネットサイトを用いた説明1、リハ(PT)、義肢装具士と連携、足圧評価/歩容確認しインソールや靴を検討1、資料、実演なしで、説明している1、義肢装具士の製靴所を紹介する1、直営の靴屋兼リハ・鍼灸院への紹介1、PT・OTの作業内容については把握しきれていない1、インソールの入れ替え手技の指導、靴やインソールの掃除の仕方を指導1、インソールを院内で計測して、後日納品1

2-2★. 貴施設での主な靴の指導者は？

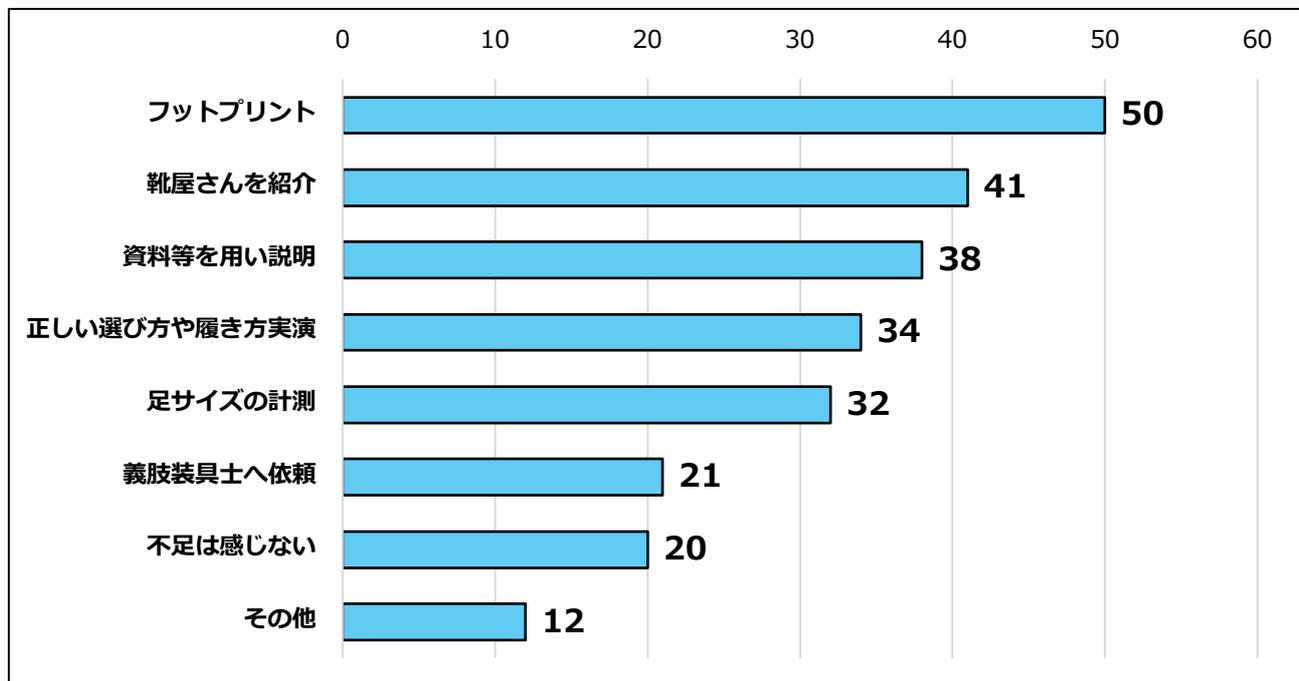


その他内訳：事務スタッフ以外のスタッフ全員で行なっています1、民間資格をもったシューフィッター1、セラピスト1、リハビリ医1、「足と靴のフットケア協会」認定インストラクター1、靴店が来院している1、ドイツフットケアセラピスト、ドイツ整形靴マイスター1、糖尿病看護認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師1、自分以外の皮膚科医1

2-3. 靴の指導は十分に行えているか？

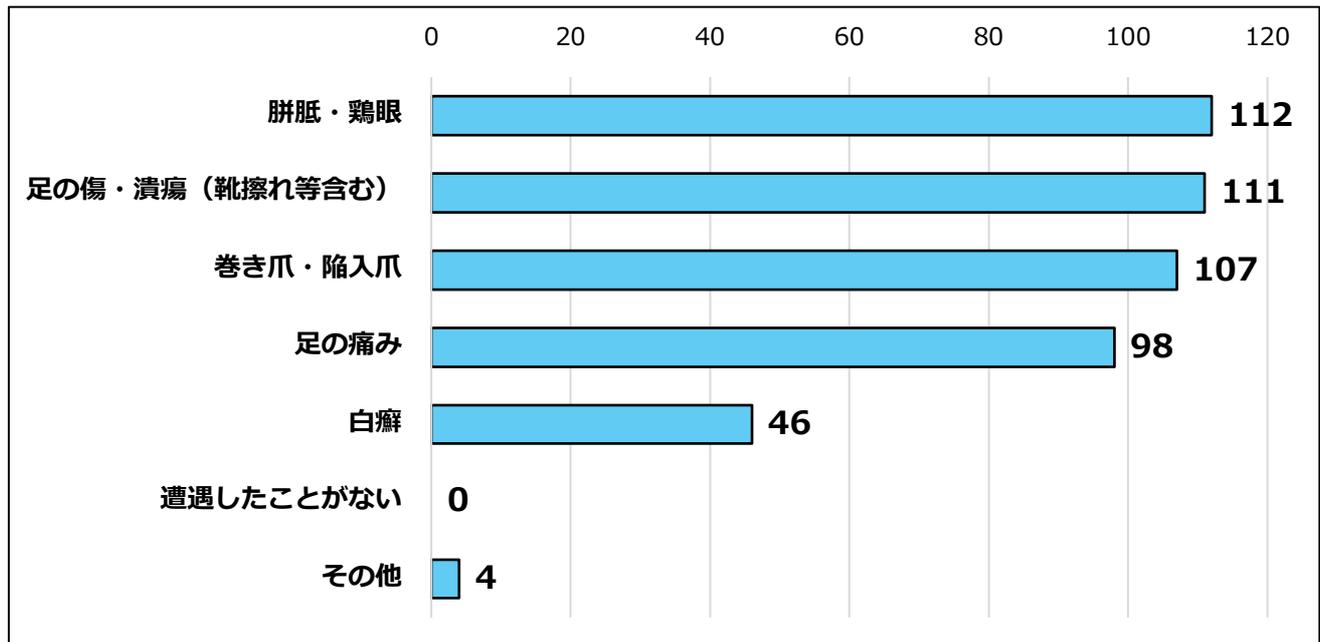


2-4★. 靴の指導で不足している点は？



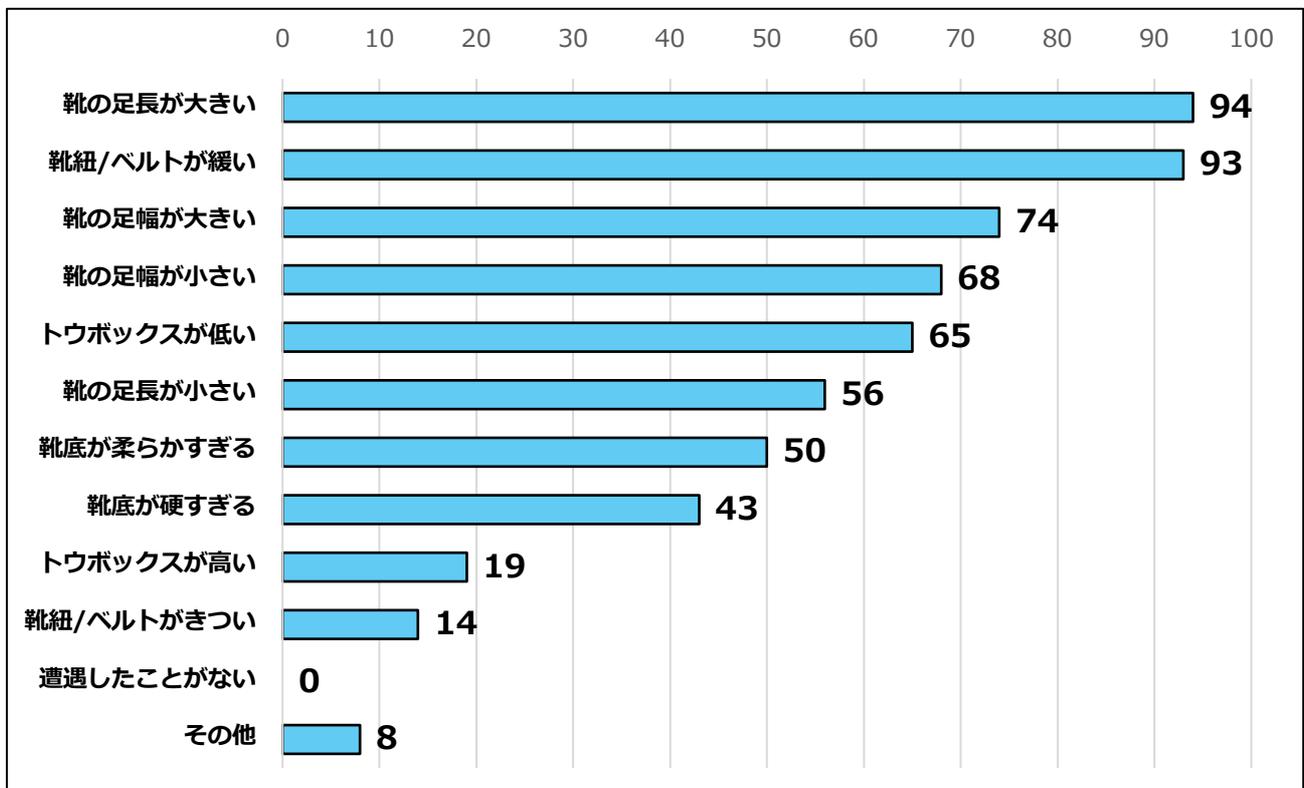
その他内訳：ほとんどが歩かない患者さんが対象のため1、リハビリまでは実施できていない1、人手と時間1、説明に時間をかけられない1、いい靴や装具を紹介しても値段で折り合いがつかない1、時間1、患者さんの理解を得るまで説明を繰り返し行う時間が足りないと感じます1、足底圧測定を全例行えたらと思うことがしばしば1、行政や教育委員会との連携1、患者数に対して、説明できる院内スタッフが少ない。また、靴の重要性を理解している医療従事者が少ないため、患者に説明しても納得してもらえない1、靴の購入は靴屋任せになるところ1、不足しているとは思いますが、何が不足しているかわからない1

2-4★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様に生じている病態・症状は？



その他内訳：足以外の痛み 1、外反母趾やクロウトウなどの変形 1、外反母趾などの足趾変形 1、壊疽（潰瘍に含みますか？）難治な疣贅 1

2-5★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様の状態で遭遇するものは？

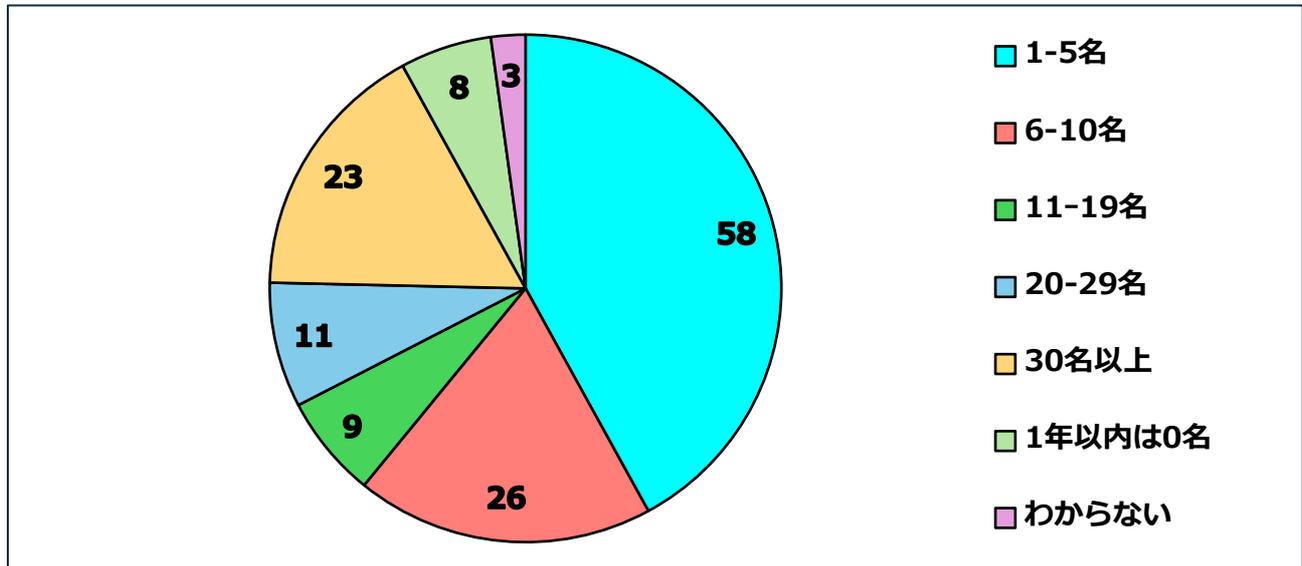


その他内訳：スニーカーの紐の結び直しをしないで履いている。踵を潰して履いている 1、足にトラブルのある方ほど靴紐のない靴（クロックスや編み生地の靴）が好まれる傾向にあると感じます 1、紐しめっぱなし、踵踏んでる、クロックス、など 1、なかなか靴を新調しない 1、不適切な装具 1、紐や固定具を使用していない 1、劣化した靴を足に馴染んでいるからといって買い換えようとならない 1、インソールに穴が開いている 1

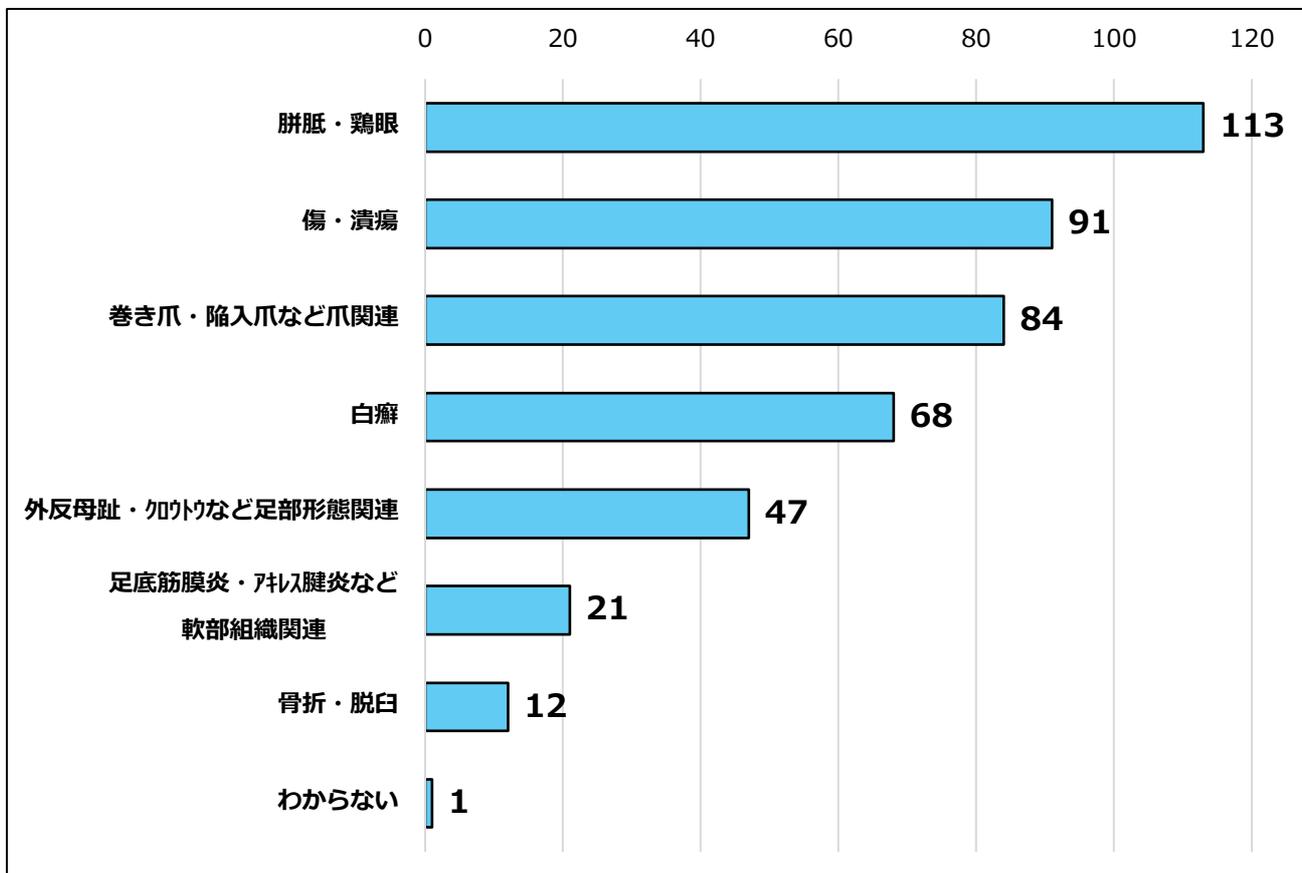
3. 安全靴等に関する診療、実態 (n=138)

3-1. 過去1年以内、安全靴等を履いている患者様の足の診療状況

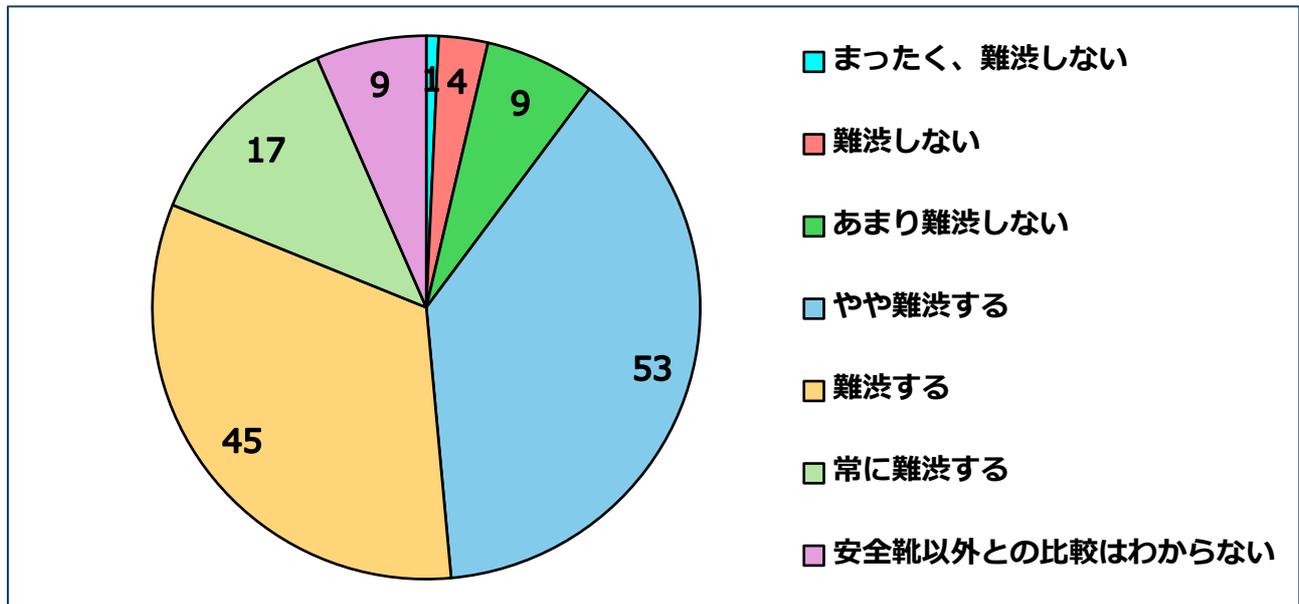
※傷、胼胝、爪切り、白癬、骨折など全ての治療を含んだ実人数



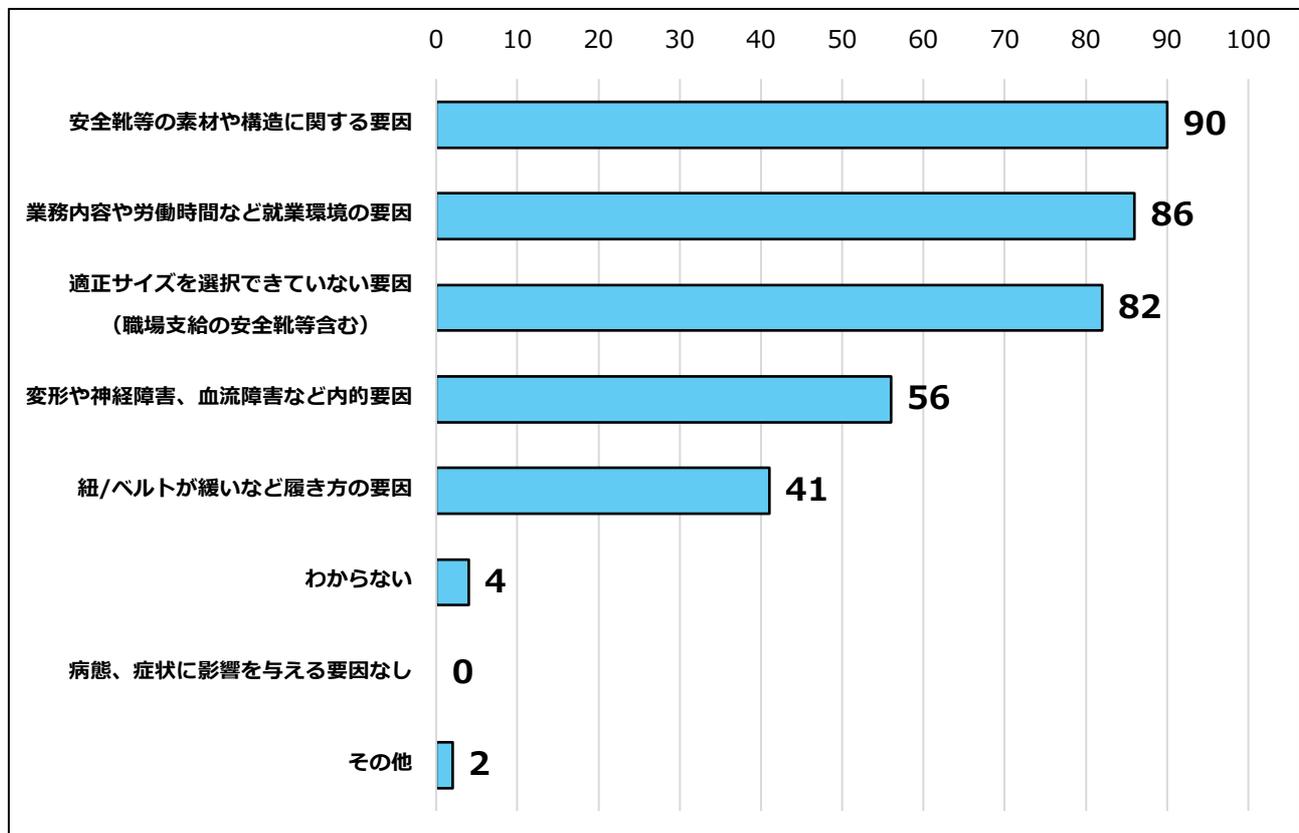
3-2★. 安全靴等を履いている患者様の足の病態、症状は？



3-3. 安全靴等を履いている患者様の足病変治療は、他の靴を履いている患者様よりも難渋するか？

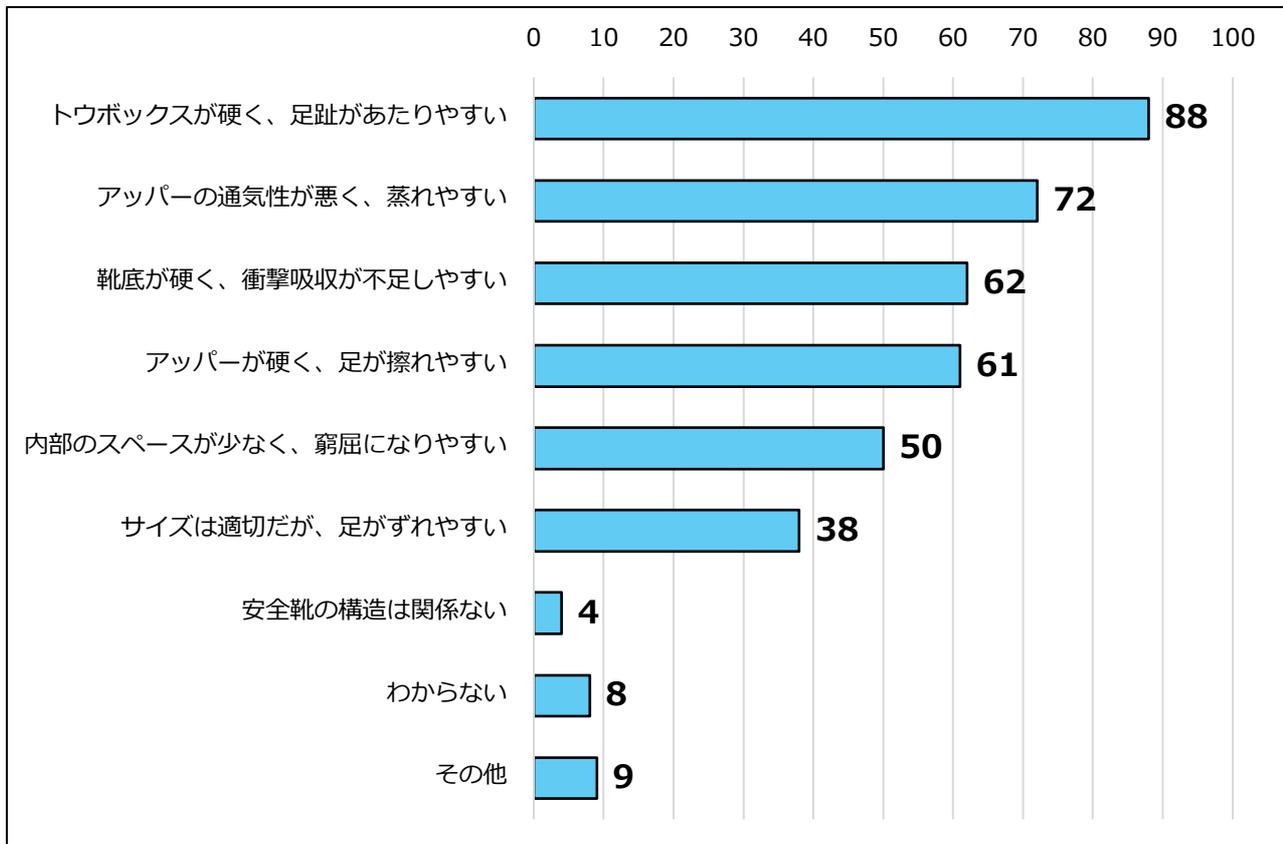


3-4★. 安全靴等を履いている患者様に生じた足病変の病態、症状に影響を与える要因は？



その他内訳：知的レベルが低く、靴の重要性への理解が乏しい。貧困が背景にあることが多く、靴を買い替える金銭的余裕がない1、歩数が多い職業には適していない1

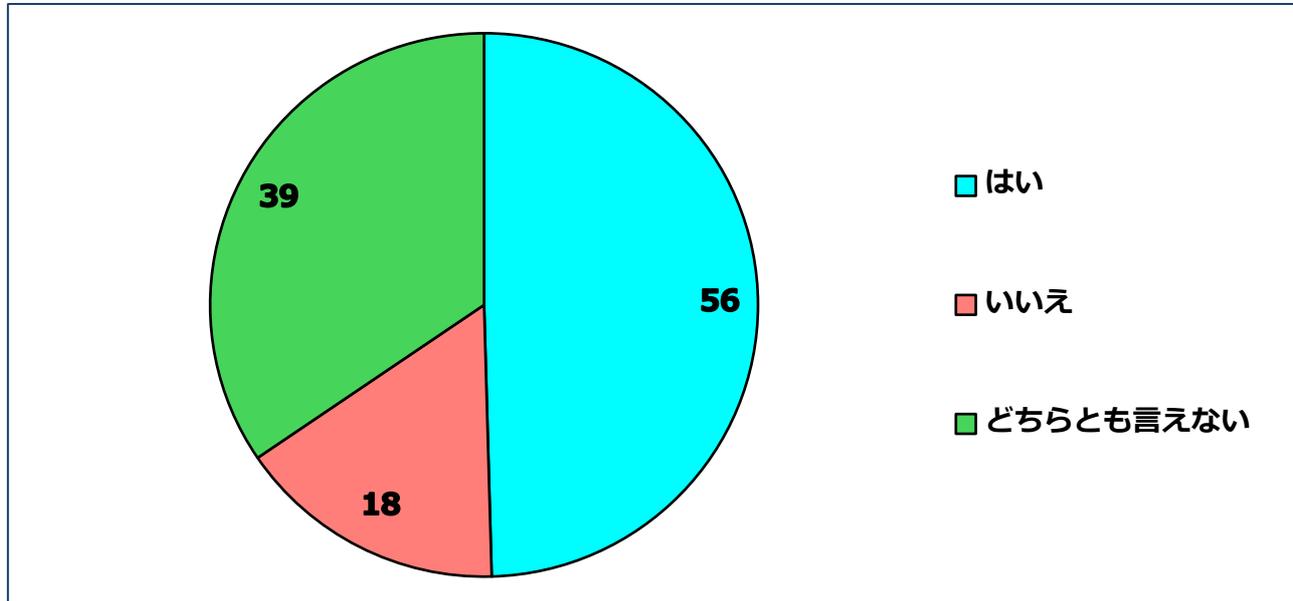
3-5★. 安全靴等を履いている患者様に生じた足病変の病態、症状に、素材や構造等が関係あるか。もし、あるとすればその要因は？



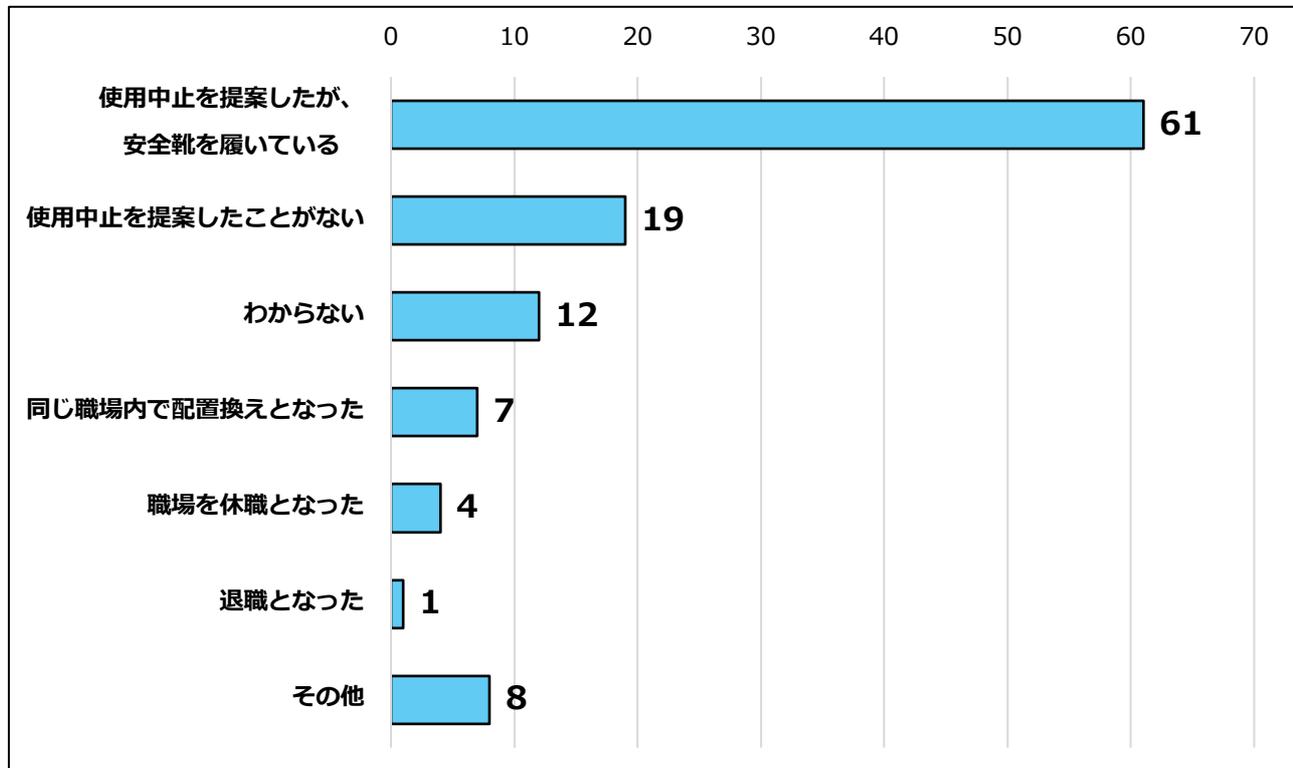
その他内訳：当たると痛いからと言ってサイズの大きい靴を選び足背の固定が不十分で靴内で足が動いているケースがある1、その人の足と安全靴の相性による1、ソールが硬く屈曲しないため、足趾で蹴って歩行することができない1、安全靴にもいろんな商品があるようで、一概にいえないと思います1、インソールが交換できない1、デザイン1、構造的にスリップオンなものが多いのが困る。インソールを入れるスペースがないものもある1、安全靴を使用している患者の足病変に対する理解不足、患者が仕事を優先せざるを得ず通院治療が継続できない1、大きければ良いと思って大きすぎる安全靴をはいていることが多いです1

4. 安全靴等使用者の足の傷診療、実態 (n=113)

4-1. 感染、虚血を伴わず骨まで達しない足の傷を、外来で治療する場合、安全靴等の使用中止を提案しますか？



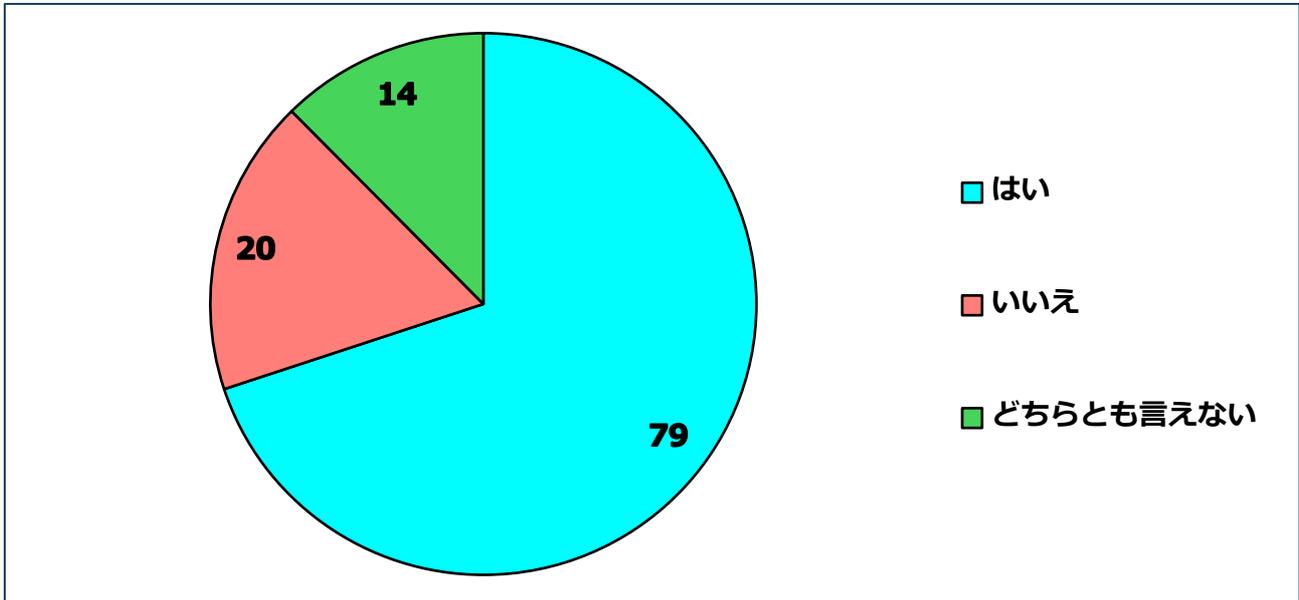
4-2★. 安全靴等の使用中止を提案後、患者様の就業状況で多いものは？



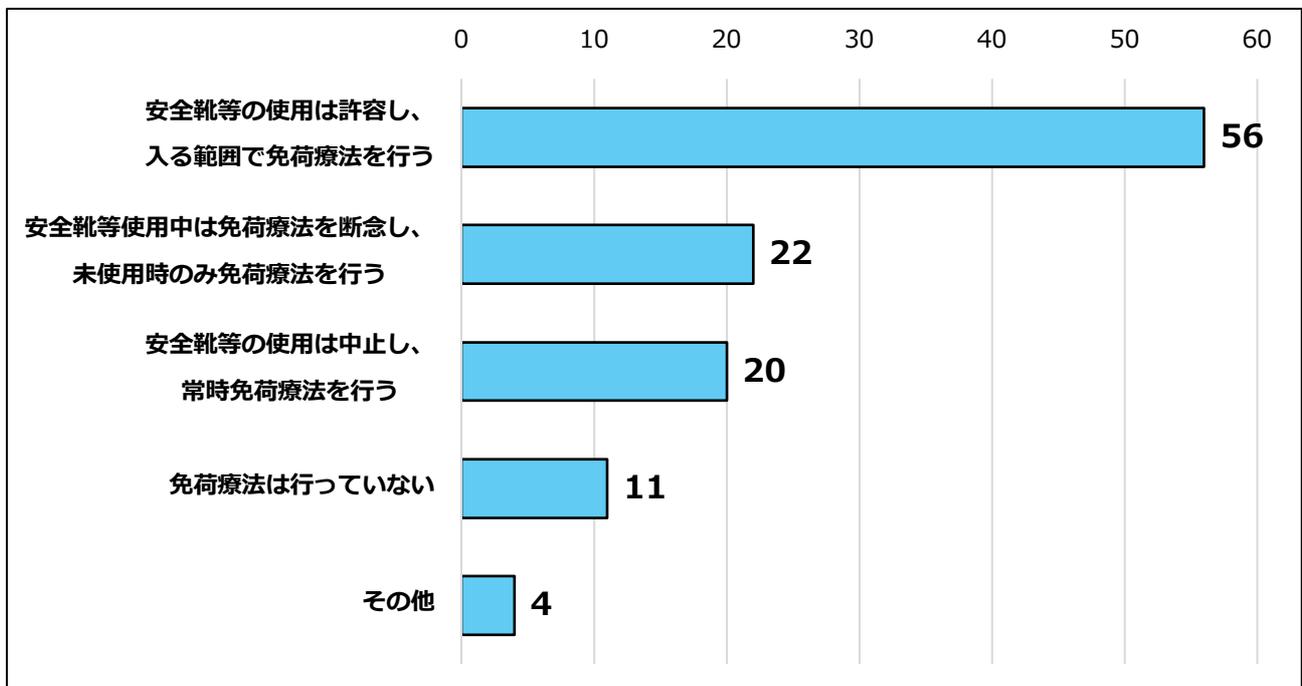
その他内訳：会社に靴の変更を依頼したが拒否された。患者は継続してはかざるを得ない状態 1、個別対応で色々です 1、業務転換、しばらくの安全靴の着用を休む 1、まずは提案しますが、履き続ける人、転職する人様々です 1、提案していない 1、状況によるので、どれということはない 1、安全靴を使用している方に使用中止を求めた場合、休職や配置換え、退職などが懸念され、こちらも強く使用中止を勧められない 1、安全靴の変更を指示し、なるべく働き続けられる環境を提供している 1

4-3. 安全靴等使用者の感染、虚血を伴わず骨まで達しない足の傷を、
外来で治療する場合、免荷療法を行いますか？

※免荷療法とは、歩行を維持しながら治療サンダル等の装具やフェルトで、限局的に潰瘍部を免荷する治療とします。



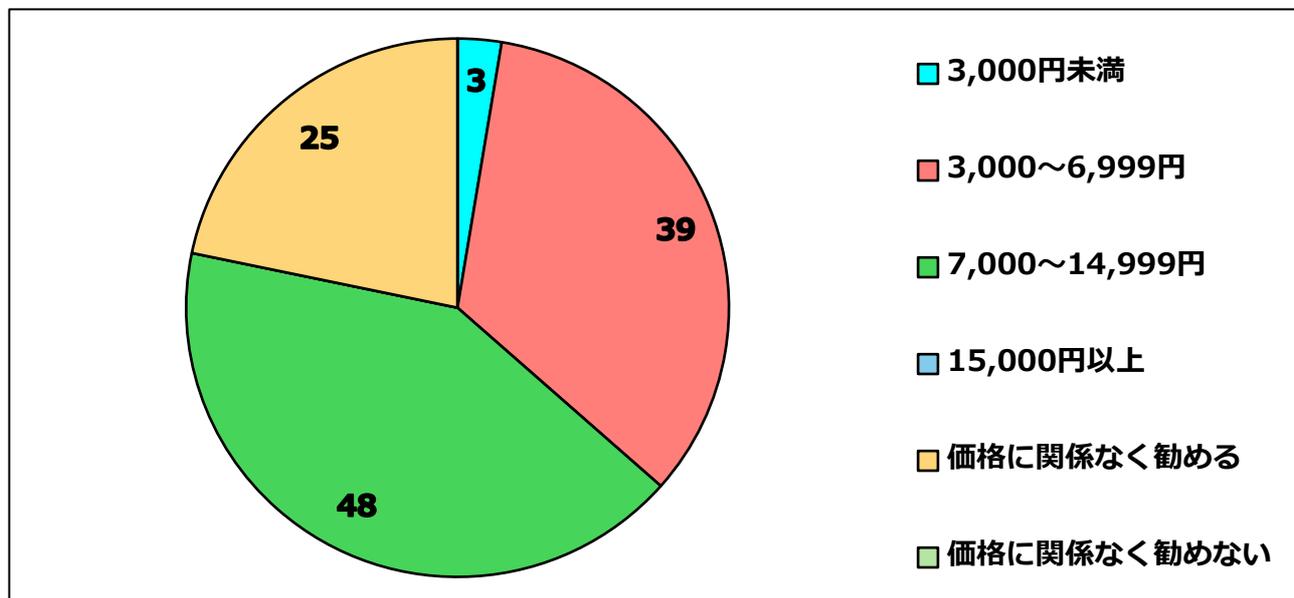
4-4★. もっとも多く行なっている免荷療法は？



その他内訳：患者事情にて安全靴の継続が多い。免荷両方の同意が難しい1、状況によるのでどれということはない1、患者の病状の程度によると思います1、靴の中にフェルトを入れると内腔が狭くなるため、靴底にウェッジを装着するなどして局所の免荷を図っている1

4-5. 免荷療法を阻害しないコンセプトの安全靴等が開発された場合、
いくらなら患者様へ購入を提案できますか？

※参考：市販されている安全靴、作業靴は3,000～15,000円程度



5. 安全靴等についてのフリーコメント (n=66)

“原文のまま”

- ・あった靴を選べるように、安全靴も選択肢が広がればいいと思う。
- ・いることはわかっていたがあまり意識していなかった。
- ・いわれて、あらためて思い出しました。
- ・ギリシャ型足への適合性不良。
- ・このアンケートのゴールを私が読み取れていなかったら申し訳ないが、保険収載が目的なら、結局疾患を生じてから税金を使って安全靴を作ることになる。安全靴の問題は予防医学の領域と私は考えるので、メーカー・現場・医療の三方の声を反映させた疾患予防のための安全靴を継続して商品化する必要があると思う。そのためにまず、フットケアから安全靴を考えるという観点で靴医学会、足の外科学会などの関連学会でも同様のアンケートをとるか共同して、nを大きくして説得力をあげる必要があると思う。
- ・サイズ、幅、蒸れなど機能的に選択肢が広がるといい。
- ・サイズや形状など思うところはあるのですが、安全のために硬いのは仕方ない、また安全靴を履く職業は収入も高いことが多く値段の高い靴は気軽には買えないことを考えると、限られた条件で知恵を絞るのが我々の仕事と思っています。履かないことを提案＝仕事を奪う、と思いますので中止はできるだけ提案しません。
- ・さいたま市において安全靴に関して詳しく相談できる方がどこの施設にいるのかわかりません。どのような症例をどこの施設のDrに依頼すればよいのかわかりません。フットケアに詳しい看護師が所属している透析病院は近郊にいくつかあるようです。
- ・ソールの堅さが選択できる安全靴があるとよいと思われる。
- ・つま先が硬そうなくらいです。すみません。
- ・デザイン、インソールが外せれば特に問題なし。
- ・よいもので興味があるが、どこから始めてよいかわからに。
- ・安全が第一の構造であり、普通の靴とは考え方が違う。普通の靴並みの快適性があれば勧めたい。
- ・安全のため必要なものとは思いますが、足の健康も守るものであってほしい。
- ・安全を保持できる靴と良い歩行ができる靴は相容れない。
- ・安全靴が画一化しており、足の現状には合っていない。業界へのアプローチが必要だと感じる。患者さんの話では足が靴にあっていない仲間がたくさんいると言っていました。
- ・安全靴が傷を発生させる要因となっているかどうかは検討が必要と考えますが、大きい問題は安全靴を選ばなければならない段階で、自由度が低い点にあると思います。また現行販売されている安全靴は外傷から足を守る点に注力されていますが、もともとの足の変形や疾病に対応しているものは皆無です。作業環境管理の観点から、作業を安全に遂行する環境を靴の中で考えたときに十分とは言えないのではないかと思います。
- ・安全靴が必要な職場で働いている患者さんには、安全靴を履かないという選択肢は存在しないと思われる。安全靴を支給する会社側に働きかけないとあまり意味がないと思う。
- ・安全靴と言っても使う環境が様々であり、摩耗する頻度も様々である。安全靴だけでなく、長靴についても検討すべき課題であると感じている。長靴も仕事内容(調理、農業、家畜)によって様々であり、足に全くフィットしていない長靴を履いて長時間仕事をしている人が多すぎる。
- ・安全靴について一般的な知識が足りない。
- ・安全靴による足潰瘍への弊害は多いですが、職場の安全上、こちらから一方的に中止することもできず、難渋することも多いため、これが何かのお役に立てれば幸いです。
- ・安全靴によるべんち(多発していること多数)は非常によく遭遇する。大体が疼痛を伴うタイプのべんちにも関わらず、安全靴を中止することが難しいために、頻回のべんち処置を必要としており、患者側からも医者側からも如何ともし難い問題である。ぜひフットケアの観点を取り入れた安全靴が広く広がればと思う。

- ・安全靴はその方々の労働環境下で自身を怪我などから守る役割をしている大切な作業道具です。ただ、その靴の設計が過去には安全に特化しすぎて足に合わない、履きにくいものだったと思います。しかし、少しずつ改良はされているのだと感じることもあります。軽量化や通気性、素材の変化など。ですが、会社からの支給品がそこまで考慮されていなかったり、そもそも使用されている方々自身が安全靴に対する理解が乏しく、靴の履き方などももちろん不十分であることから疾患が生じていることは否めないと思っています。安全靴製作会社さんには、安全靴を履くことで生じる疾患があること事業者さんには様々な安全靴があること、またその選択の仕方支給の仕方の適正化してほしいこと(数年に一回、交換できないなど言われたことがあります。)使用されるご本人には、安全靴の重要性と靴の履き方、選び方の指導などがあれば少しは安全靴による障害を減らせるのでは無いかと考えています。よろしく願い致します。
- ・安全靴は法によって強制される履物であるため、職場での正しい運用についても法によって管理されるべきではないか、と感じています。
- ・安全靴をはくことで外傷は予防することはできているが、衛生面での安全は担保されていない印象です。また安全靴は硬いことで虚血患者にとっては良くない面も多いと感じます。
- ・安全靴を実際に目にすることができないため、適切な大きさであるのか、適切は履き方がされているかが分からないため、指導が困難である。工作上必要だと言われて、履かないことを許容されることがないので、免荷が可能な安全靴が開発されれば是非勧めたい。
- ・安全靴を履いている患者はほとんどいらっしやらない。
- ・安全靴を履いて働いている人の診療をしたことがないです。
- ・安全性等を考慮すると現実的に使用中止は難しい。
- ・以前日赤救護班でも常用していたがとても快適とは言えなかった。JIS規格にある耐衝撃・耐圧迫性能また甲被素材の規定などが当然優先されるが、いわゆる「良い靴」としての要素も積極的に取り入れ、いずれはトレッキングシューズや登山靴のような運動性や快適性またサイズ等の豊富な選択肢、との両立が望ましい。
- ・意識は低いです。
- ・引き続き、委員会に協力させていただきます。
- ・会社で支給の場合、選ぶ選択肢がないこともある。当地はトヨタを始め製造系の工場が多く、安全靴でのトラブルは日常茶飯事。昨日も陥入爪で安全靴が履けず配置転換(転職)を余儀なくされた青年が来た。長時間履くものであるから、品質や構造が適切であることや選択の自由が必要。足の先端だけ安全にしている意味が無いのではないか？
- ・各個人にあった安全靴を作ってほしい。
- ・頑丈でもつぶれていた。
- ・危険な業務から足を守るために必要なものであることは間違いないのですが、サイズや形、素材などの調整が効きにくいことが多いと思います。患者には安全靴の使用を中止できるかどうか、サイズや素材の変更ができるかどうか、それも難しければ安全靴を使用していない場合にどうするか、といった形で個別に相談するようにしています。結果として安全靴を履かなくて良い部署へ変更となった方もおりますし、サイズや素材を変更して症状が改善した方もいました。
- ・靴だけでなく作業環境と労務時間が問題。
- ・靴の変更が必要な場合でも、説明しても受け入れられない。
- ・靴は職場で決められたものを着用しなければならないと言い、自分だけ違うものが購入できない、違う靴の着用を管理者に上申するとクビになるのではないかと恐れている人がいました。一般企業より弱い立場の労働者が多く、また靴の重要性についてもなかなか理解が得られにくい傾向にあります。
- ・結構いろんなタイプがあるので、患者が使い慣れたものを基準に治療を進めるようにしています。

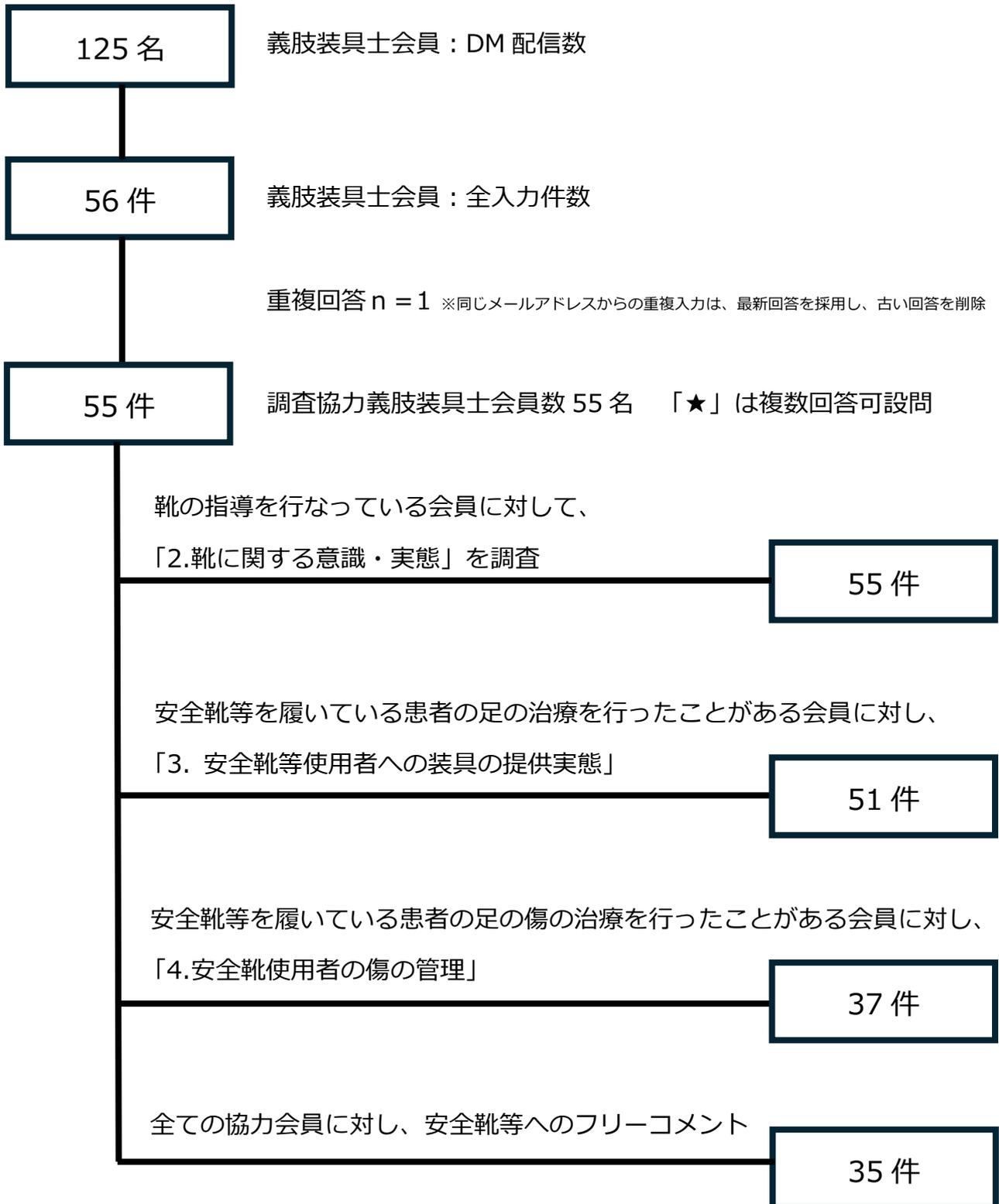
- ・個人的には、安全靴の必要性は理解しているが、必要時以外の着用は避けるべきだと思う。また、構造的に改善の可能性を模索してもらいたいと思っている。
- ・工事作業のみならず、調理関係でも安全靴を履いておられる方が多く、必ずしも男性が履くものではない、ということもあり、サイズ展開が難しいと思います。
- ・工場が多い土地柄か、母数は分からないのですが女性の安全靴による足トラブルが多い印象。
- ・硬くて蒸れる。当たって痛いという訴えが多い。
- ・考えたことも無かった。面白い調査です。
- ・高率に足白癬に罹患しているイメージです。
- ・作業の安全性については必要と考えられるが、トラブル発生時の対応も難しい。
- ・作業内容や作業環境がわかりませんので、指導がしにくいです。
- ・仕事の継続と創傷治療の継続との天秤になりいつも迷います。
- ・仕事を継続するなら、患者に選択の余地がないと思う。
- ・仕事上 安全靴使用中止できない方が多い。
- ・自由にサイズを選ぶのが難しいのかサイズが合わせにくいのか、タコなどができやすい気がします。
- ・選択できる靴の種類が少ない。
- ・創傷外科医の立場からは最悪の靴であるが、産業医の立場からは適切な防護具として指導しなければならない。一方で、安全靴が足部変形をきたしている因果関係は立証できそうなので、JIS企画に安全靴の内部構造について足部にやさしい規定を設定して欲しい。
- ・足にとっては最悪の靴ですが、労働安全法規と合わせて対応が必要となる領域。
- ・足首の固定がより容易にできて、緩衝材を必要に応じてつま先に入れられるとよい。
- ・太陽光により熱された鉄板の上を多く歩くことのある職種（安全靴着用の必要性は業務上ないが職務規定で履かないといけない）の方に安全靴をやめ靴型装具を提案し一度は快諾されたが、鉄板に長時間触れることでアウトソールが溶けてしまい交換頻度が早くなる可能性が懸念され断念せざるを得ないことがありました。先程の質問内容にもあった安全靴様の汎用性の高いフットウェアが登場してくれることを期待しておりました。
- ・通気が悪い。個人の足に合わないまま履いている。ただしそれほど診察経験数は多くないので詳しい調査に協力するのは難しいです
- ・働いている企業や会社との話し合い。
- ・内科領域での理解が不十分と感じる。
- ・分厚く硬い金属の板が入っているものを想像するが、もっとしなやかで丈夫な素材はないものか。通気性の面でも。
- ・保険適応範囲がない。
- ・歩行のための靴ではない。いったん創が出来ると、安全靴を併用しながら治癒に持ち込むのは難しいと思っています。しかし安全のためには履かざるを得ない。
- ・免荷がしづらい形状だと感じます。
- ・落下物などに対する安全のみを考えてある。作業環境に基準として、他の靴を履く特例はもらえず。靴に足を合わせろでは、糖尿病を持つ方々の足は、安全を守りにくい。
- ・履かないことでの足への外傷よりも、履いていることによる足への障害の方が圧倒的に多いと思います。

以上

1. 調査協力者の背景と回収率

1-1. 調査協力者内訳

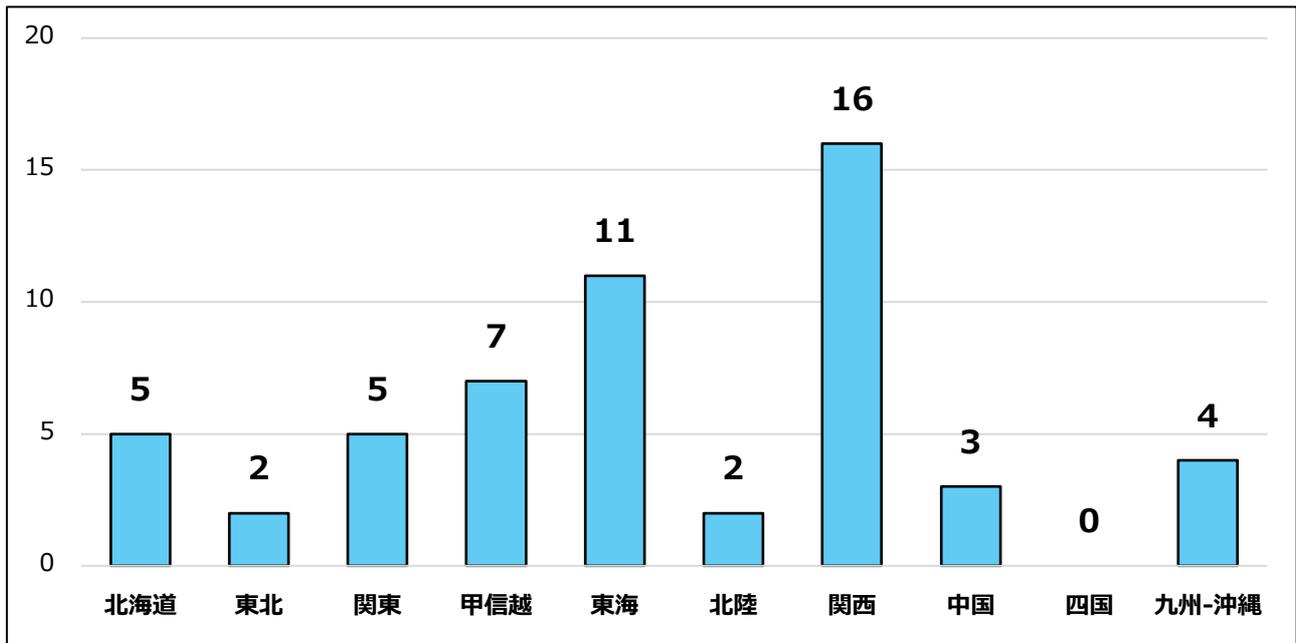
義肢装具士会員



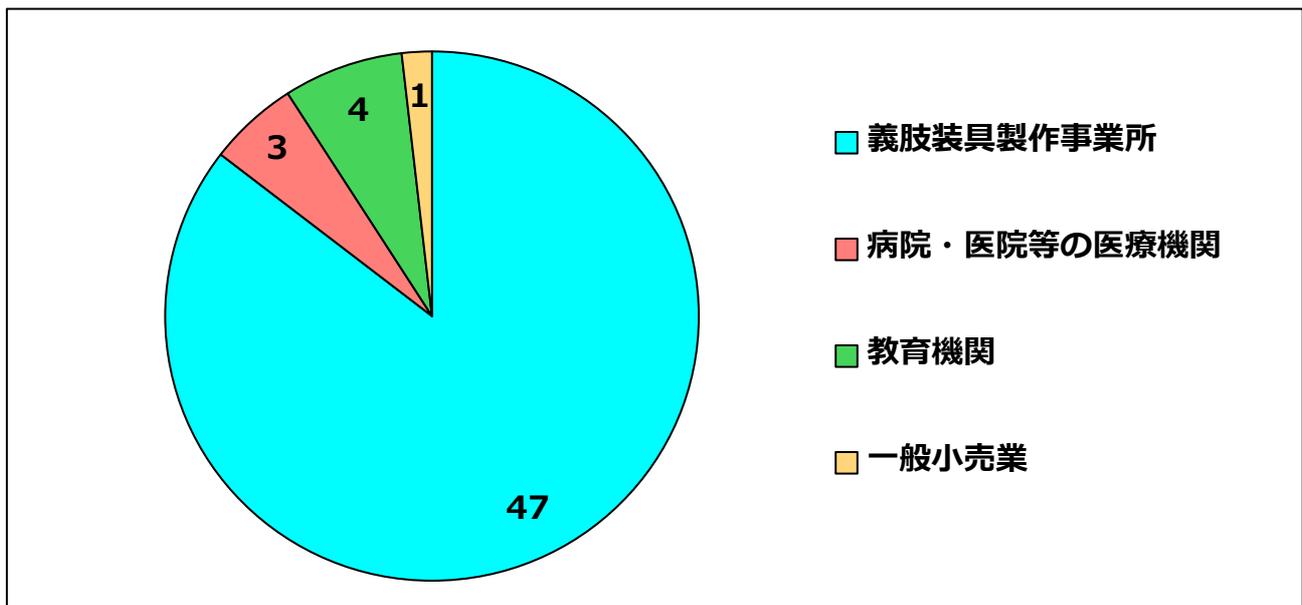
1-2. 全体回収率

義肢装具士会員 55/125 44%

1-3. 地域別回収件数

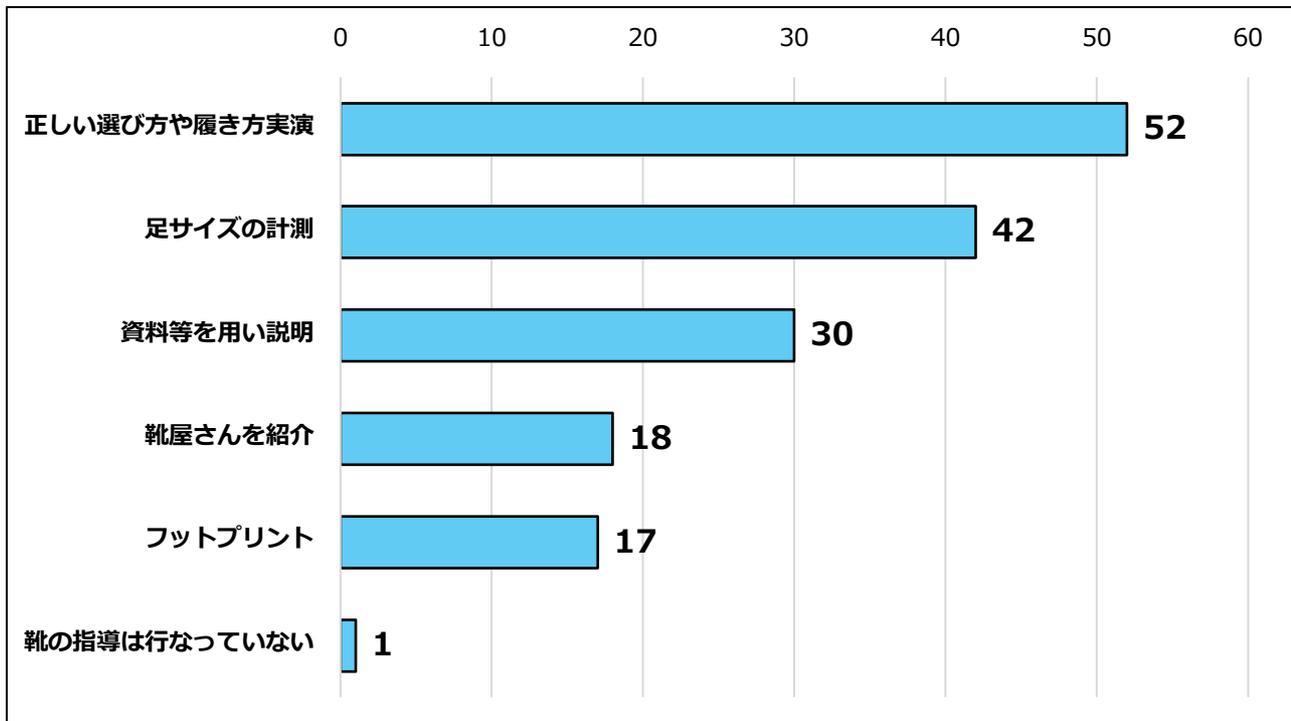


1-4. 調査協力者の所属施設

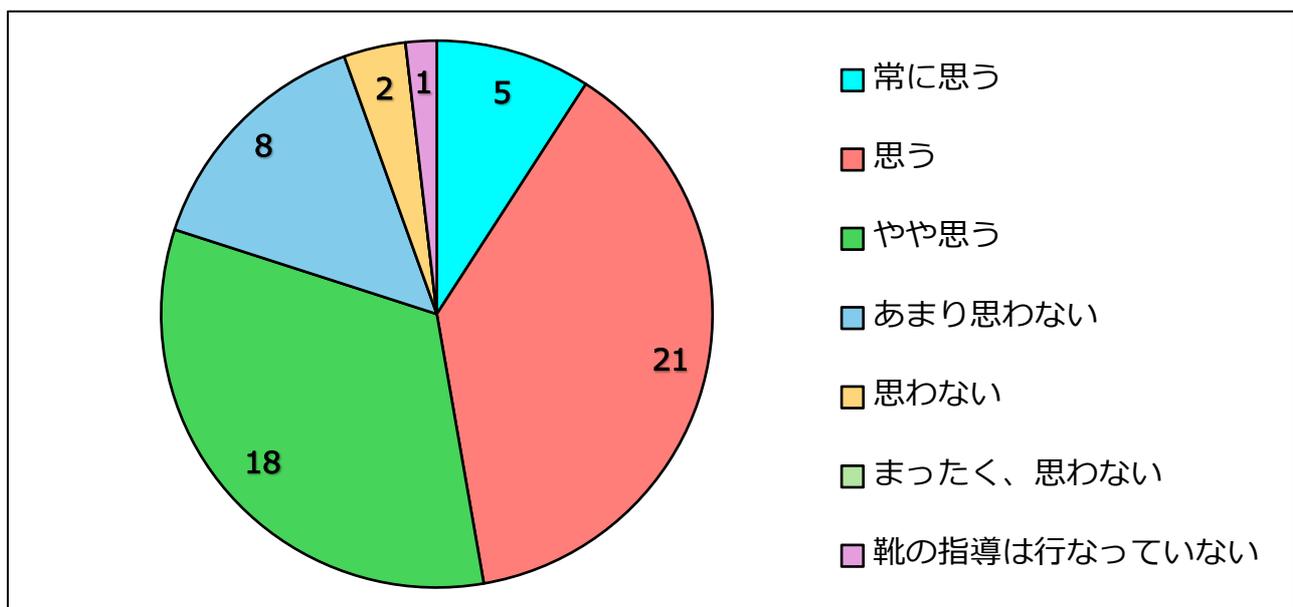


2. 靴に関する指導状況、実態 (n=55)

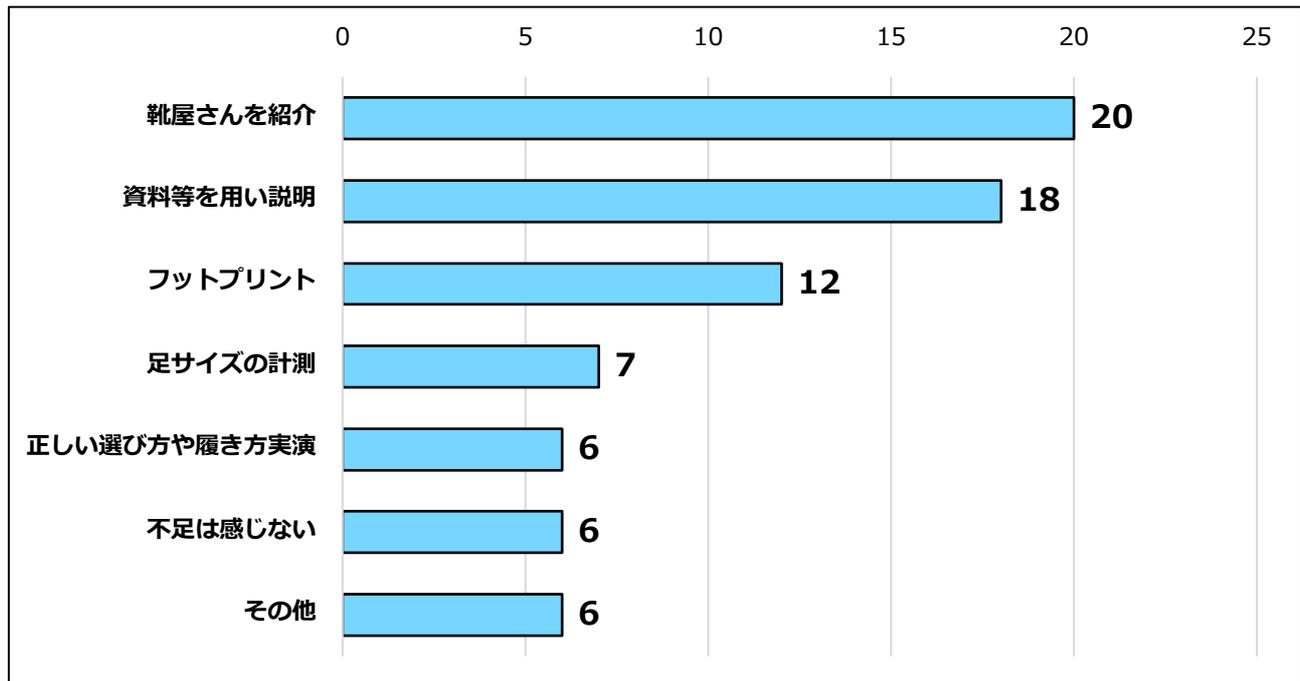
2-1★. ご回答者様が行なっている靴の指導内容



2-2. ご回答者様は、靴の指導について十分に行えていると思いますか？

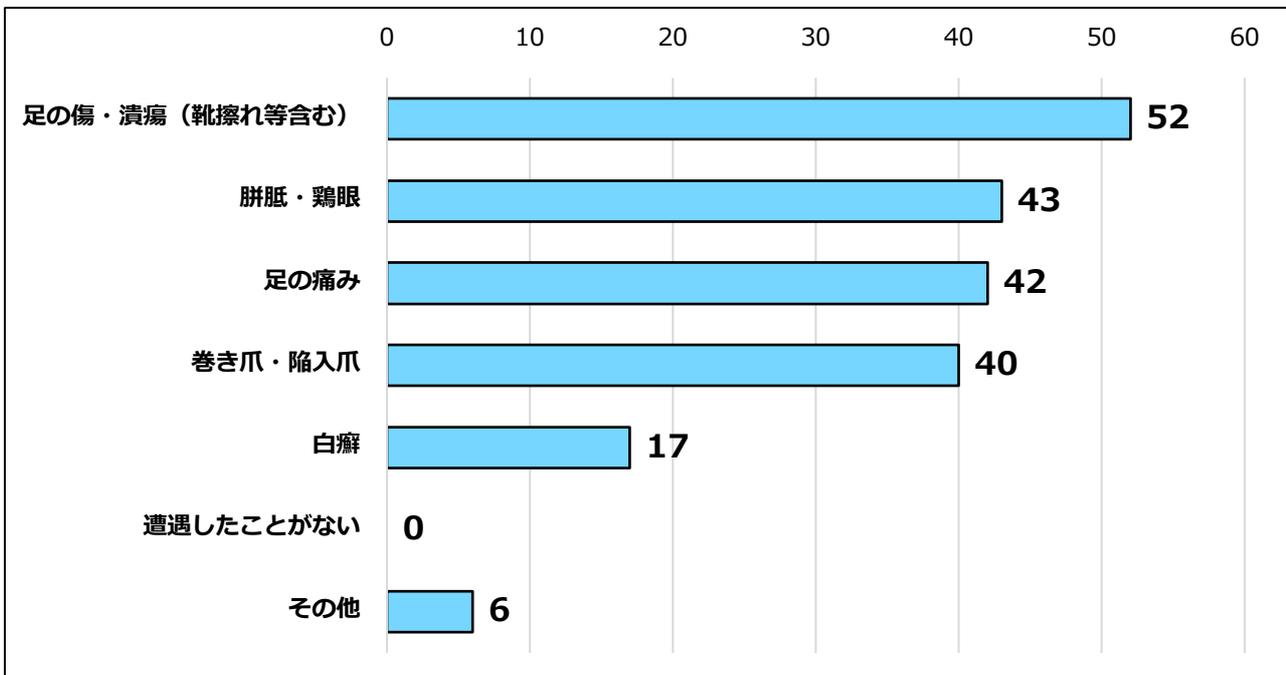


2-3★. 靴の指導で不足している点は？



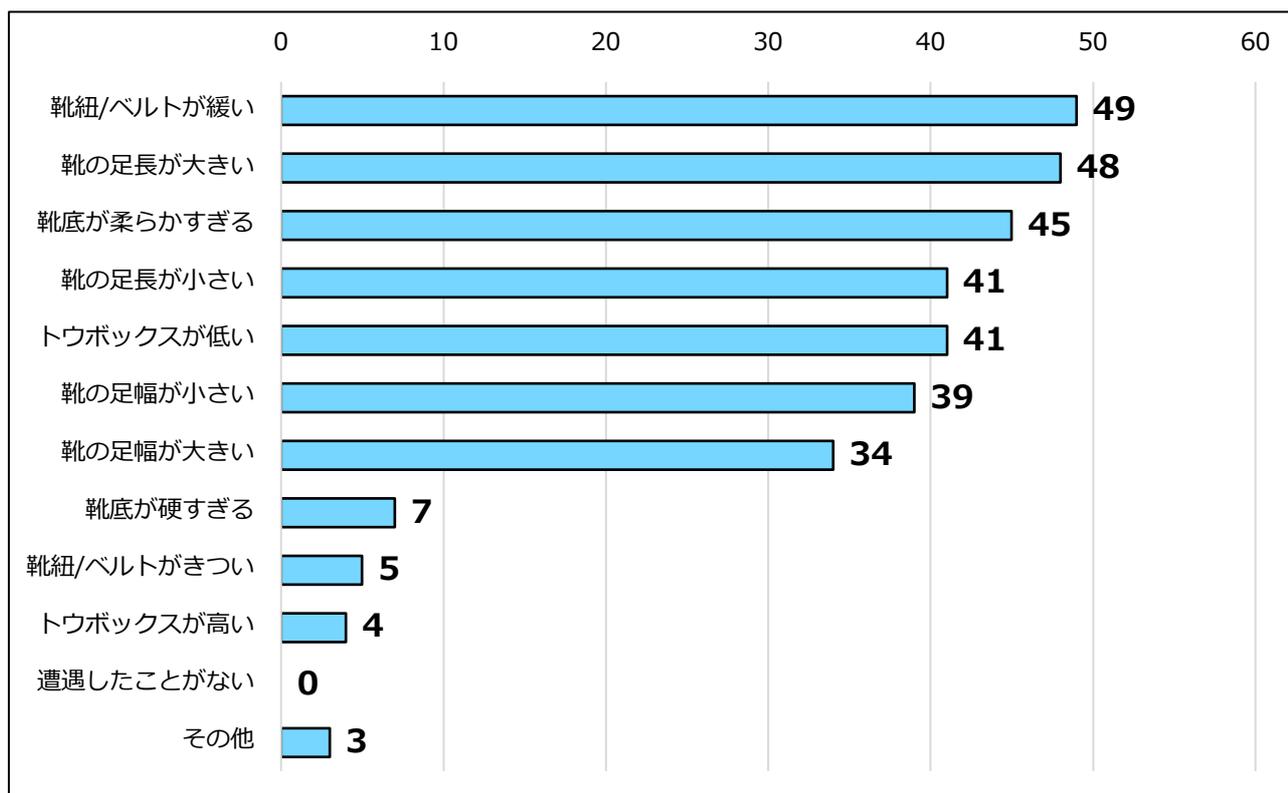
その他内訳：医療機関でお話しできる時間が限られているので、十分に至らない1、教育機関に所属しているので、不足すると感じることはありません1、患者さまの履いている靴が合っているのか、こちらの指導する靴が本当に患者さまにとって良い物なのかの判断が難しい1、正しい選び方や履き方を実演する1、適切な靴のサイズを教育する事。捨て寸を理解させる事が困難1、時間の制限が大きい病院では、十分に時間をとって行えない時がある1、限られた時間では全ての説明は難しい 時間が足りない1

2-4★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様に生じている病態・症状は？



その他内訳：アライメント不良、歩行不良1、膝、股関節の痛み1、外反母趾、内反小趾1、外反母趾ほか1、指定の靴が足に合わないとわかっているが、履かなくてはならない時1、変形の悪化1

2-5★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様の状態で遭遇するものは？

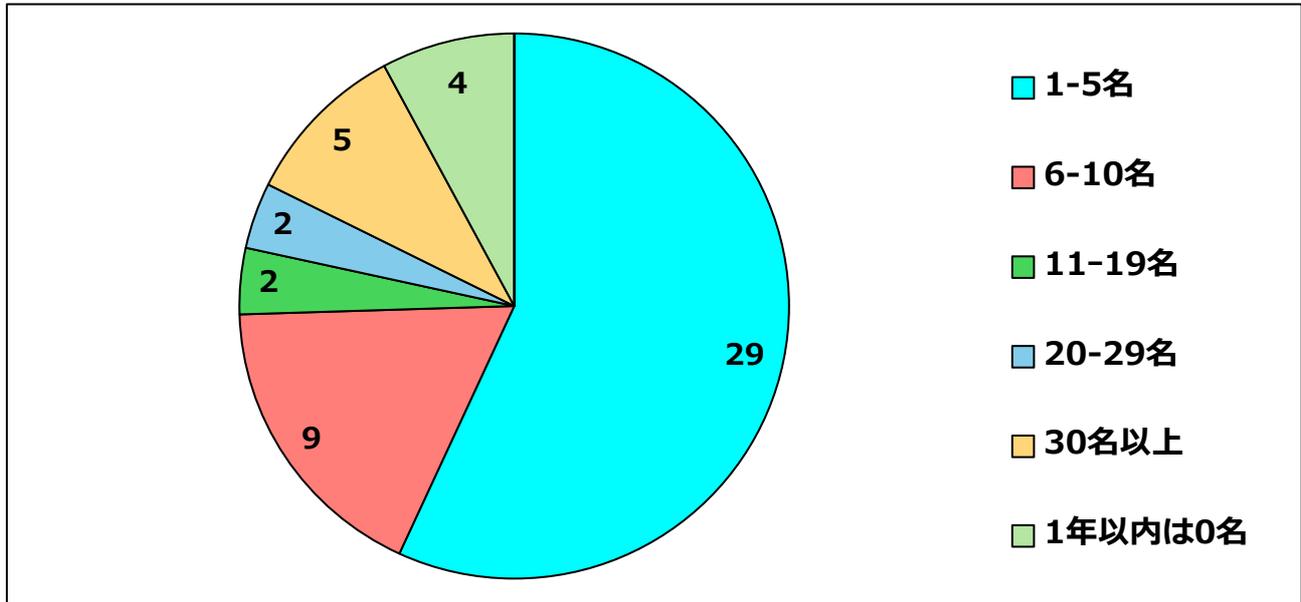


その他内訳：アウトソールが減り過ぎてアライメントが不良となっている1、長靴を履かなくてはならない時1、スリッポンのような靴紐がない靴1

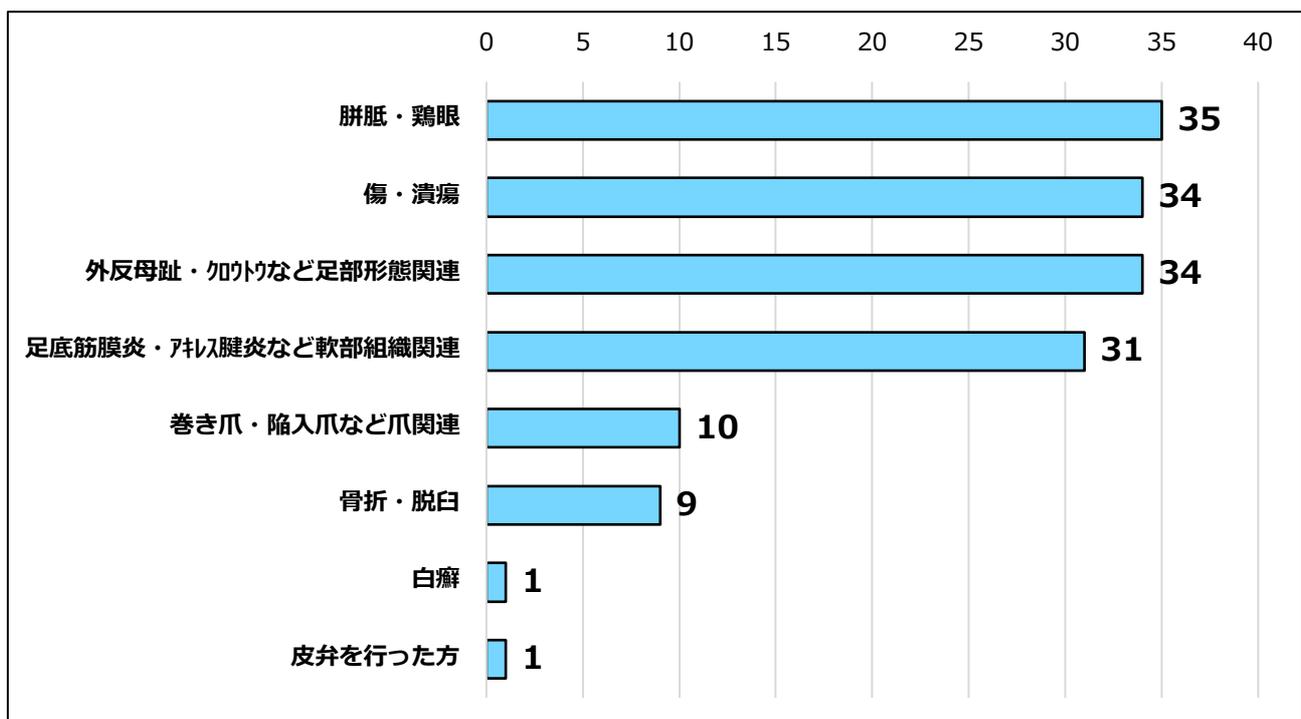
3. 安全靴等に関する診療、実態 (n=51)

3-1. 過去1年以内、安全靴等を履いている患者様への下肢/靴型装具の提供状況

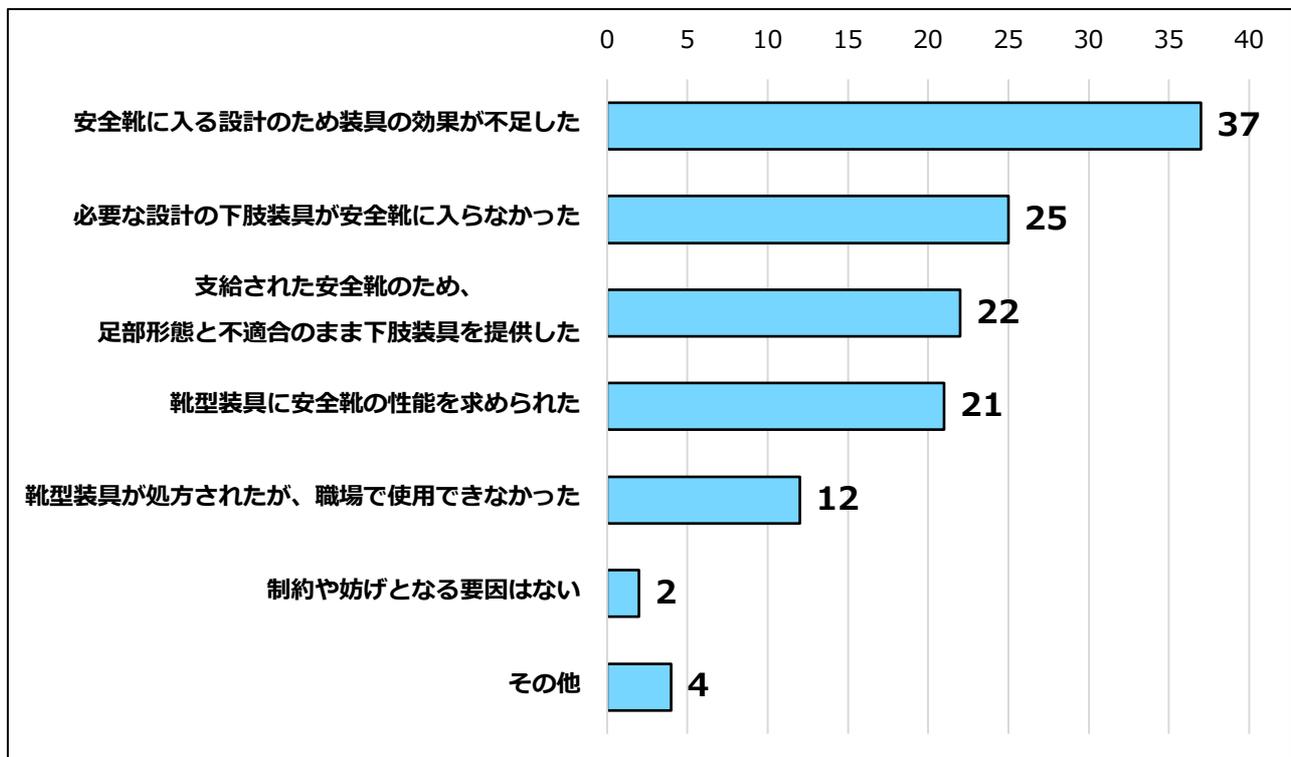
※傷、胼胝、爪切り、白癬、骨折など全ての治療を含んだ実人数



3-2★. 装具を処方された安全靴等を履いている患者様の病態、症状は？

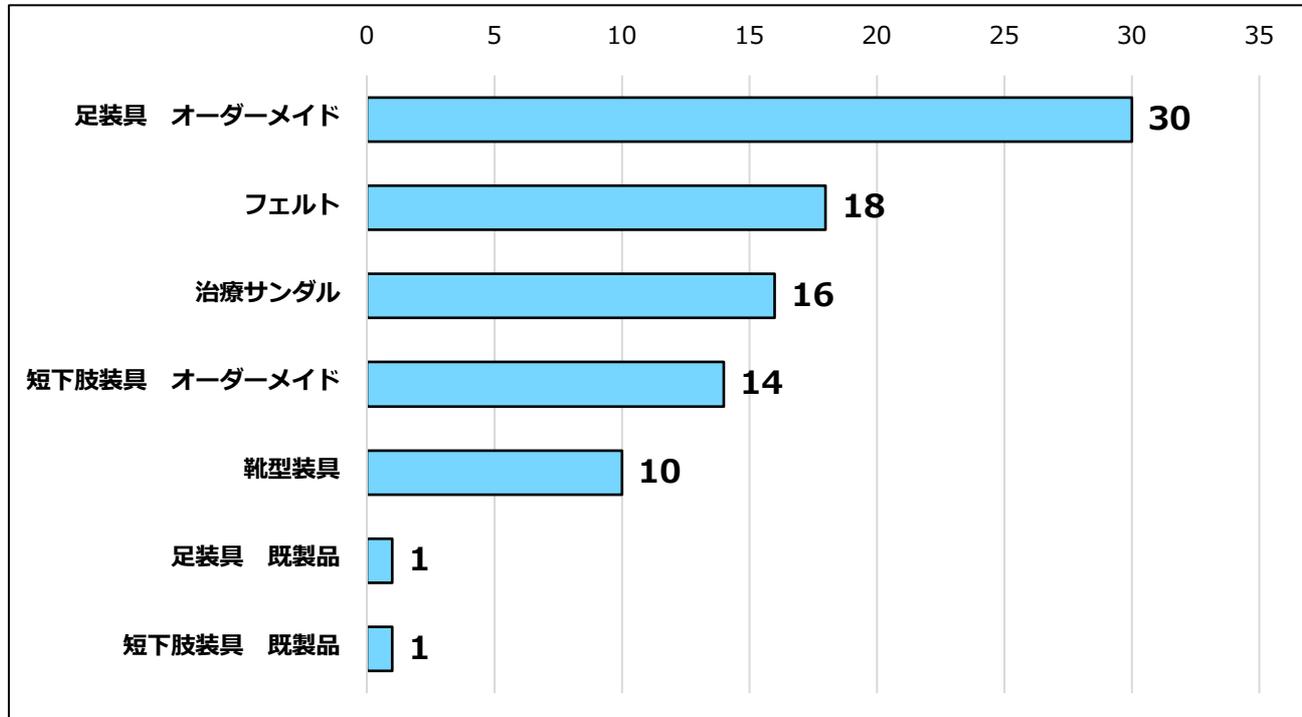


3-3★. 安全靴等を履いている患者様へ下肢/靴型装具を提供する場合、他の靴を履いている患者様より制約や妨げとなる要因がありましたか？

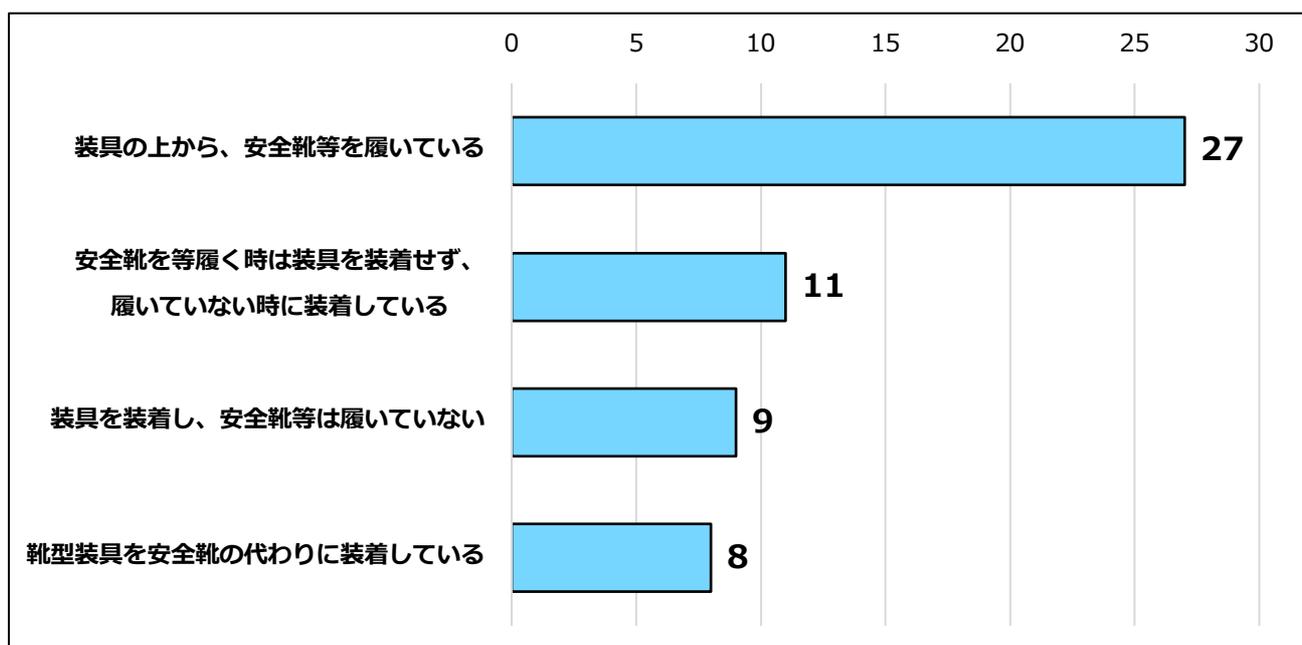


4. 安全靴等使用者の足の傷診療、実態 (n=113)

4-1★. 安全靴等を履いている患者さまのうち、足に傷が生じた患者さまへの
免荷目的の下肢/靴型装具はどのような装具が多いですか？

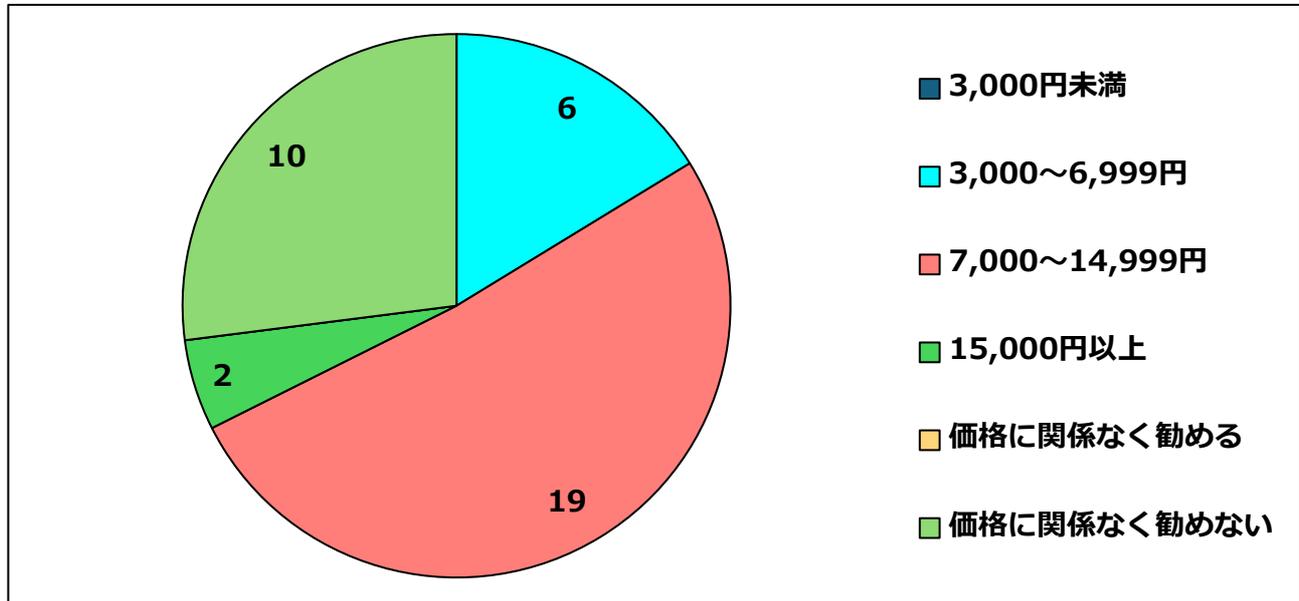


4-2★. 安全靴等使用者へ提供した免荷目的の下肢/靴型装具の使用状況は？



4-3. 免荷療法を阻害しないコンセプトの安全靴等が開発された場合、
いくらなら患者様へ購入を提案できますか？

※参考：市販されている安全靴、作業靴は 3,000～15,000 円程度



5. 安全靴等についてのフリーコメント (n=35)

“原文のまま”

- ・内部の足を守る構造や考え方は不足していると感じる。
- ・踏みかえしがしにくいことによる足趾への負荷が増える。ウィズが大きい靴がほとんど。
- ・5mm以上の厚みの中敷が取れるようになってると便利。
- ・安全靴をオーダーメイドで製作することは可能であるので、足病変があり装具が必要となる患者さんにはオーダーメイドの安全靴を保険適応で認めていただければ、全ての問題が解決すると思われます。
- ・就業時間中歩き続けるのに、適合していない靴を履かなくてはならないので疲れが出やすく、足や足関節、膝や腰など近位の関節に支障が出やすくなる。
作業の安全面だけでなく、パフォーマンスが上がるように靴適合を上げる試みが必要なのではないかと。
- ・海外と比較して日本では安全靴の種類が限られており、足に負担のかかりやすい靴であるにもかかわらず、選択肢が少ないことで、足に適さない靴を履かざるを得ない事例が生じやすいように感じます。
- ・安全靴の患者様に会うのは少ないが、そこまで弊害を感じたことは少ないです。
- ・安価な安全靴を履かれている方が多く、ソールが柔らかかったり、紐やベルトのない履くだけの靴を使用している方もいる。
- ・靴ひもなどで締めるようなタイプではなかったり、靴についているインソールが外れないなどが多いので適合が難しい印象があります。代替案の靴を変更するなどができず、同じメーカーでの靴を使用することを求められるなど根本的な解決ができないことが多いです。
- ・JIS規格やJSAA規格と同等のものを担保できることが少ない。その上でお勤め先で決められたものがそれに準していなければならない場合に、特殊で仕事が可能か確認してもらうための時間が一旦必要になるのでいつもより慎重になります。先芯はともかく耐油や対粉塵、静電帯電防止の滑り止めは業界から入手がしにくい上に製作時にコツがあるのでPO業界としてはやりにくさは感じられてるのでないかといつも考えます。
- ・ミドリ安全は提案を受け入れない企業であるので共同研究は拒否された。
- ・安全靴はトゥボックスが固く前足部の当たる部分に胼胝や潰瘍を形成する事が多く感じます。また足底や踏み返し部分が固い為、足趾の裏に胼胝や潰瘍を形成する事が多いと思います。
- ・先芯の素材及び強度や絶縁性能の有無について規格が統一されておらず、職種や企業によって必要とされる性能が様々であり、対応が多岐に渡る印象がある。
- ・不衛生になりがちなので、安全靴はできるだけ衛生管理をお願いしている。
- ・安全靴自体は選択肢が増えていて、ある程度の厚みのある足底装具には対応できていると思います。
傷が酷く大きな免荷が必要な場合には制限があることと、足が細いかたに対応したものが少ないように感じます。
- ・トゥボックスの高さの種類があるとよい。
最初からトゥボックスの高さが高くあり、中底にスペーサなど入れて高さ調整ができる靴がほしい。
- ・既存の中敷をもっと厚みのあるものにしてほしい、クロウトゥなどの患者さんでも履けるようなトゥボックスの高めなものもあるといい。
- ・全体的に硬い、ゴツツイ、重い、踏み返しがしにくい(踏み返し部分がずれやすい)。
- ・装具療法を行う上でとても不便。
- ・インソールの挿入ができない設計が多い。
- ・外力からの安全性のみでなく、靴内環境の安全性も考慮された製品の創出を期待しています。
- ・安全じゃない。トゥボックスが狭い、MPのところで踏み返しができないためトラブル多い、
- ・安全靴はJISによる規格があり、加工したり、オーダーで作ることが困難です。そのようなものに装具を合わせるのは至難の業で、治療、予防を目的としようとしても、なかなかうまくいかなさそうなケースもあり、安全靴自体を何とかしてもらわないと困ります。

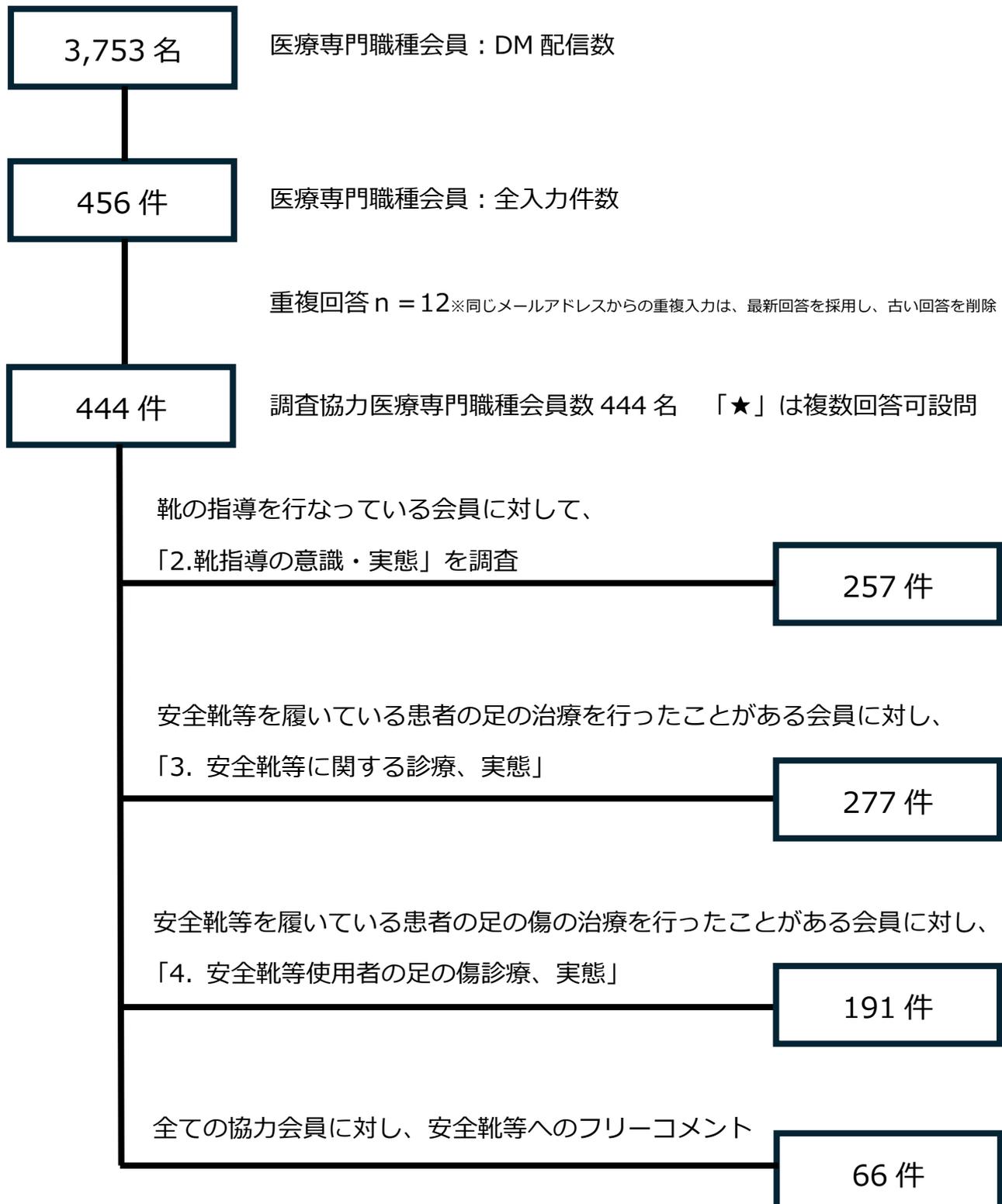
- ・足底装具を安全靴に合わせて作成する際には、先芯内のスペースの狭さに難儀することが多いです。
- ・安全靴の中には鉄鋼関連、建築土木関連、食品製造関連など形状・仕様があると思いますが？
- ・足趾の変形や傷があった際、非常に困る どうしようもない。
- ・安全靴の使用は法的に義務付けられているので、使用中止および使用時間短縮に関しては職場の理解が不可欠である。
- ・トーボックスが足趾に当たると痛いので、足長よりも大きい安全靴を履く方が多いように感じています。トーボックスのデザインを変えるなど対策が出来たらよいかと思いますが、適切なデザインは思いつきません。
- ・前足部の空間が通常の靴よりもより大きく設定してあると助かります。
- ・トゥボックス高めで足幅が広いタイプの安全靴が安価で紹介出来れば助かります。
よろしくお願ひ申し上げます。
- ・安全靴にも、足の健康を意識した機能が必要である。
- ・幅が広すぎる靴が多く、特に女性の足では合いにくい。安全靴よりもコックシューズの方がヒモ・ベルトがなく問題多いです。
- ・足に対して、外からの事しか考えられておらず、足と靴の適合(fitting)については全く考えられていない。また、作業現場の環境によっても安全靴の内容(仕様)が変わり一言に安全靴と言っても種類が色々あるので困る。
- ・足部を固定する安全靴の固定方法(メンファスナー)だと緩めが多くなるのでその点を改善できると良いと思う。
- ・安全靴は昔に比べて、いろいろ機能からデザインから種類が豊富になって、選択肢が増え良くなってきていると感じます。
年配の方は値段を、若い方はデザイン重視で選んでいる方が多い印象があります。
会社指定(支給)の安全靴を履いている方の足に疾患が多い気がします。
安全靴ならではの危険性や注意点を把握した上で、靴を選択できる世の中になれば、もっと快適に働ける方が増えるのかなと思います。
- ・ワークマンで売っている物よりアシックスやミズノを勧めることがある。

以上

1. 調査協力者の背景と回収率

1-1. 調査協力者内訳

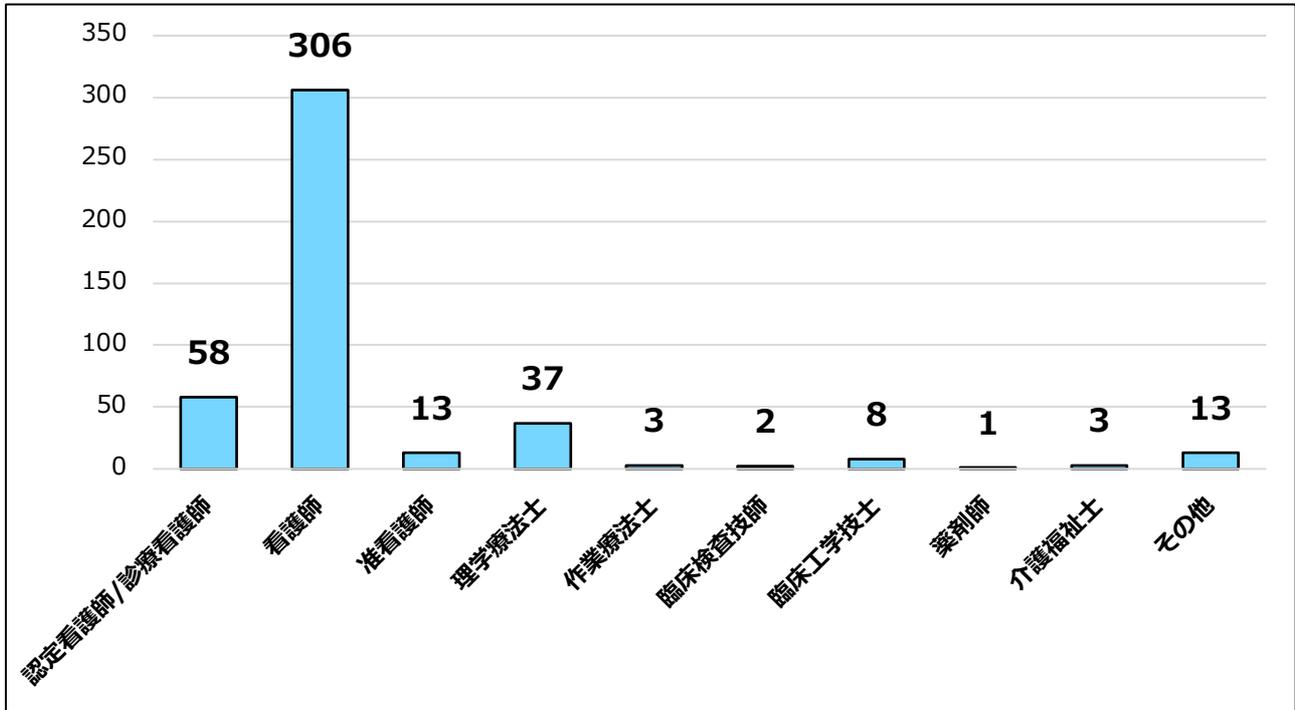
医療専門職種会員（医師会員、義肢装具士会員除く）



1-2. 全体回収率

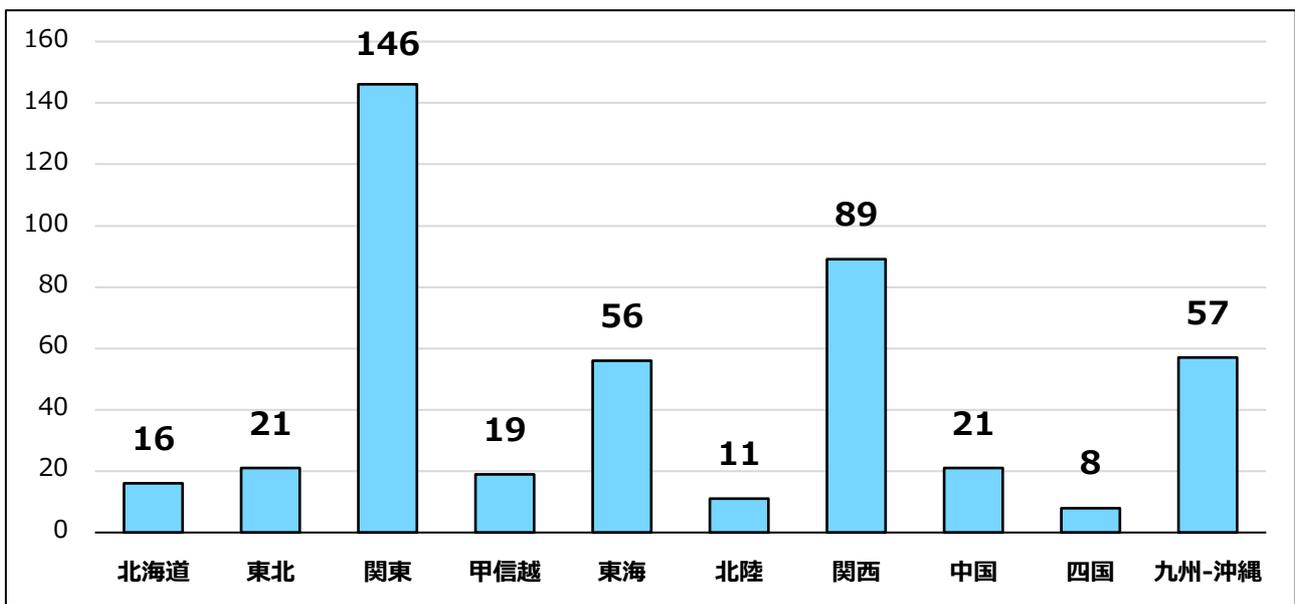
医療専門職種会員 444/3,753 11.8%

1-3. 職種別回収件数

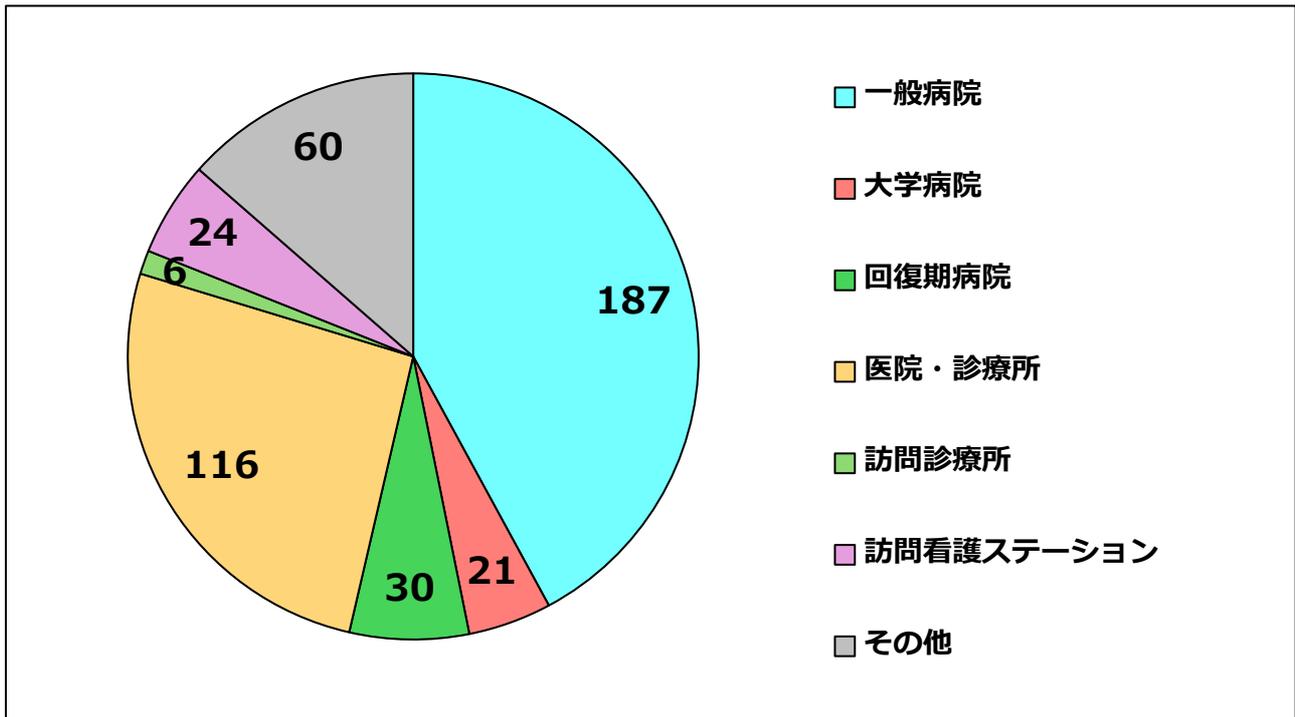


その他内訳：専門看護師 3、特定看護師 2、創傷管理特定行為看護師 1、米国足病医 1、フットケアセラピスト 1、商品企画 1、フットケアスペシャリスト 1、爪の専門技師 1、整形靴製作者 1、看護師資格を有していますが、商品開発部門の事務職 1、

1-4. 地域別回収件数

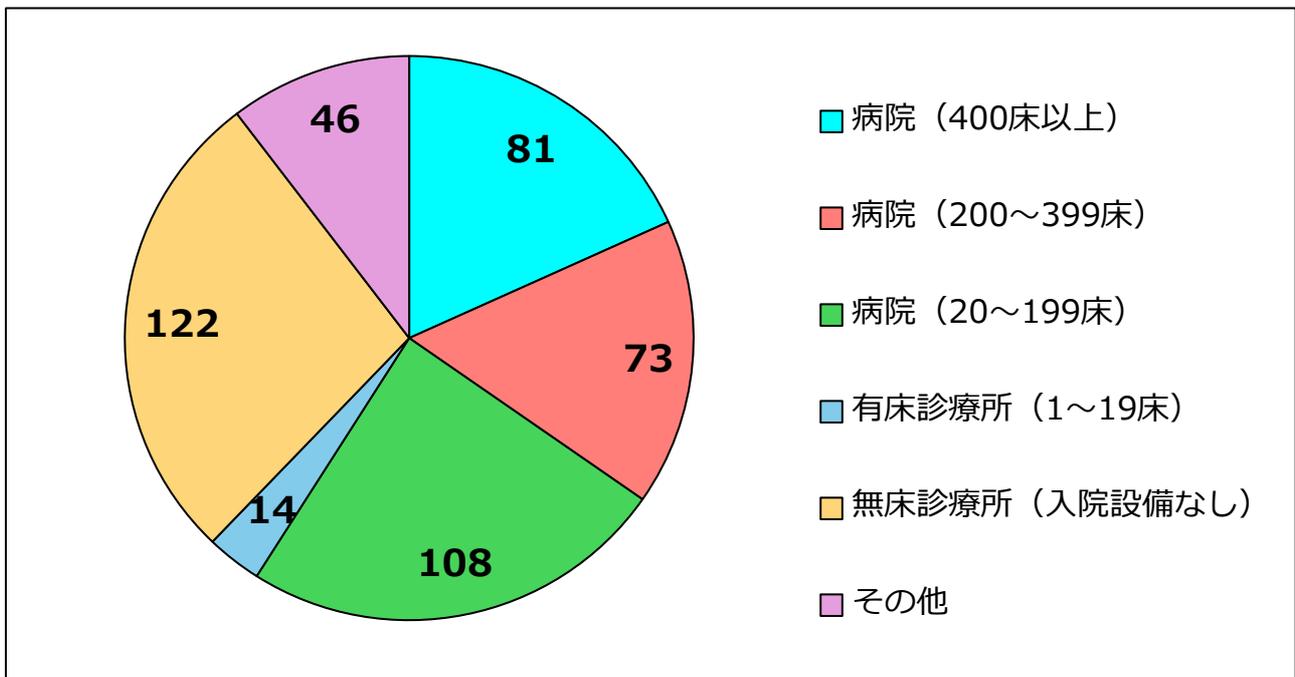


1-5. 調査協力者の所属施設



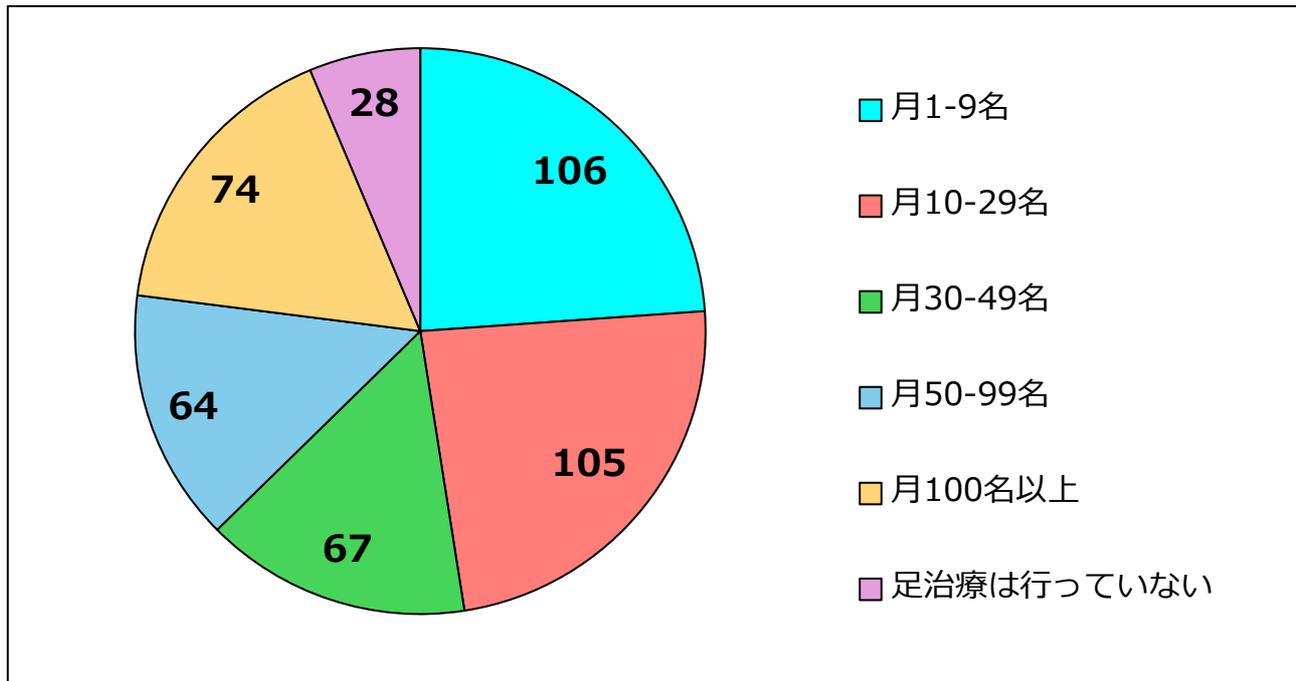
その他内訳：施設特定情報があるため表記しない

1-6. 所属施設の規模



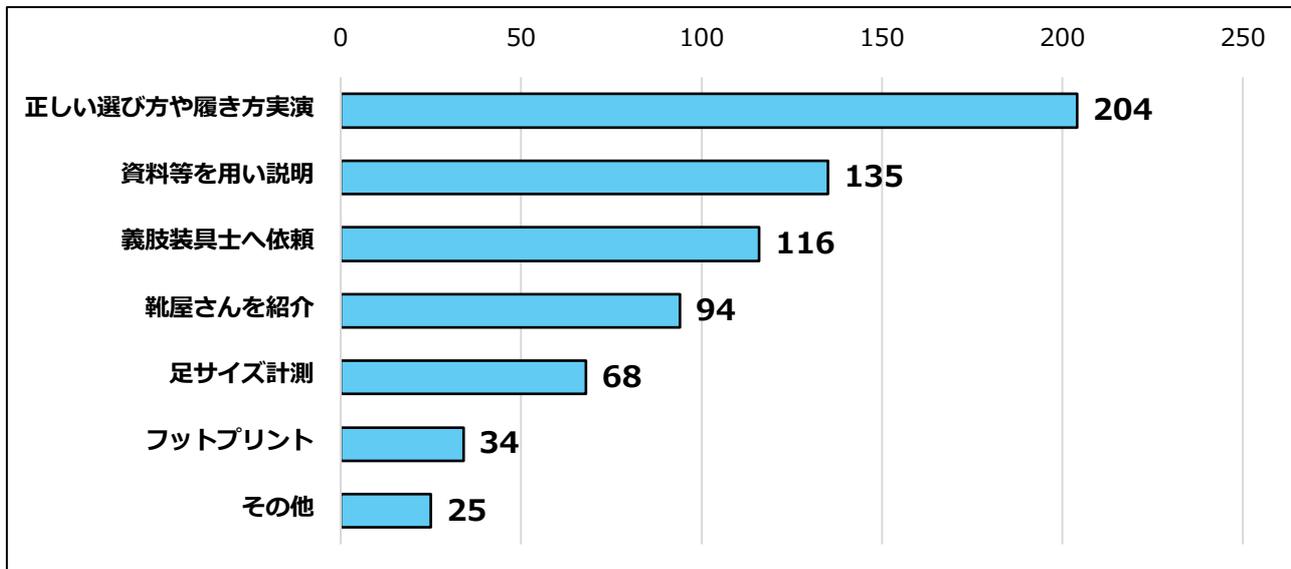
その他内訳：施設特定情報があるため表記しない

1-7. 貴施設での足病変患者の診療状況（実人数）



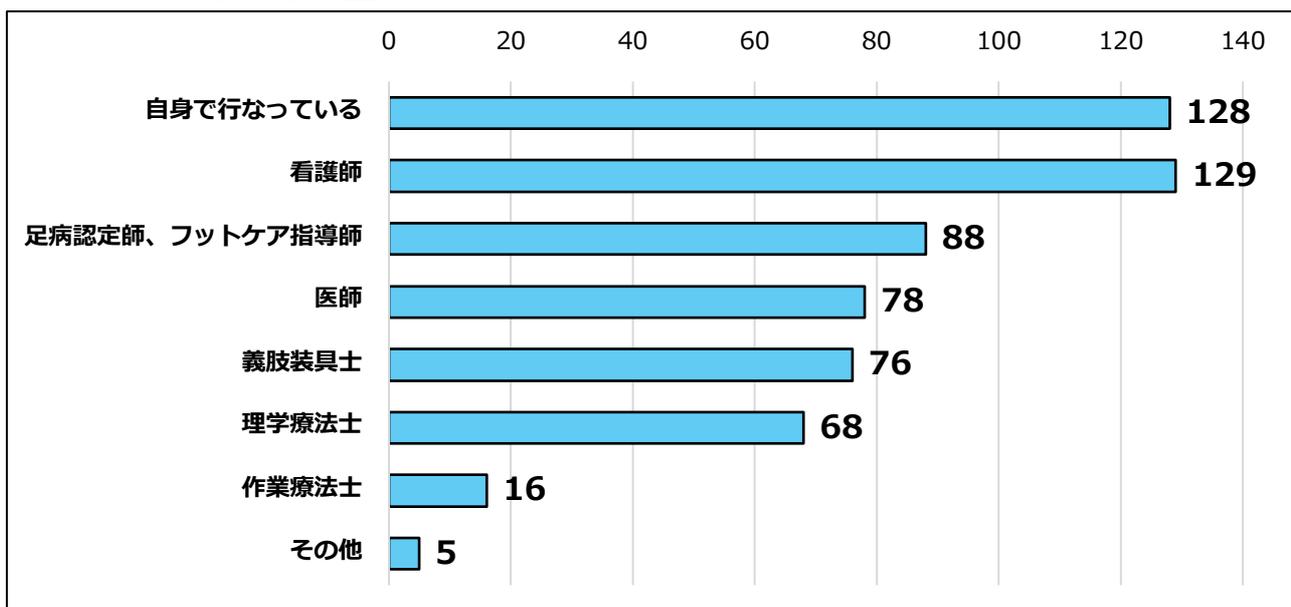
2. 靴指導の意識、実態 (n=257)

2-1★. 行なっている靴の指導内容 (指導者はスタッフ含む)



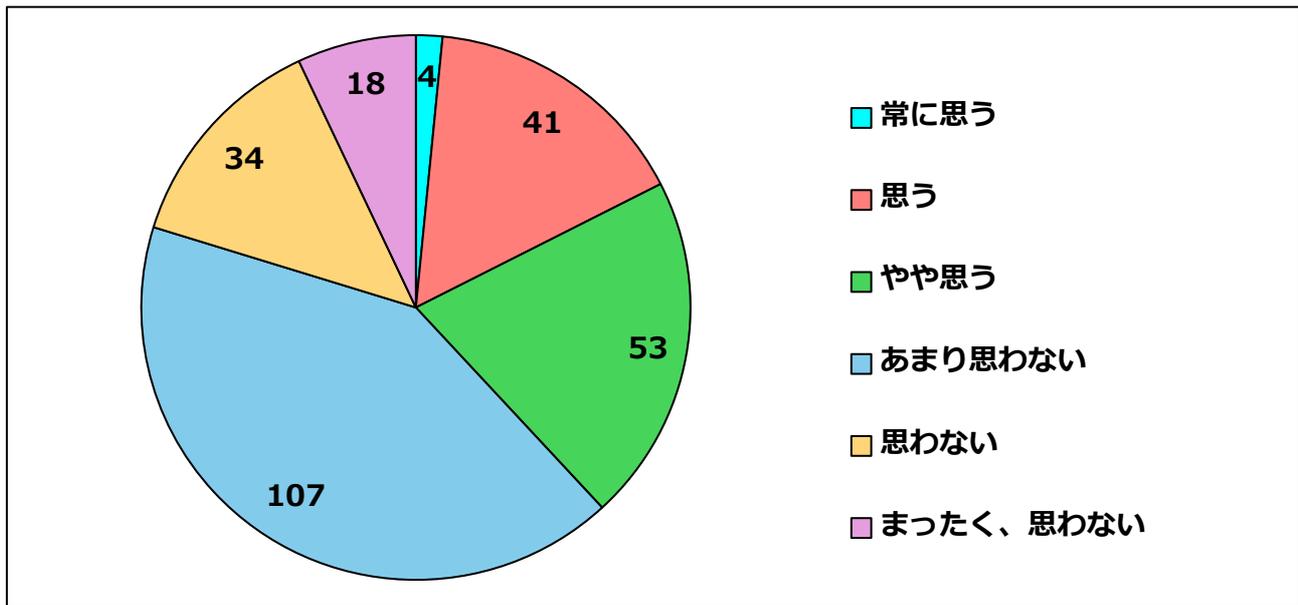
その他内訳：インソール作成2、フリーで動けるシューフィッターさんに月1回サロンに来てもらうようにした1、靴下の選び方 靴の選び方を説明1、院内でフットケアの体制ができていないため、義肢装具士を探して依頼し対応をお願いしている1、家族に連絡したり、ケアマネさんに連絡しています。また、入所中の施設に連絡したり1、歩行解析を行う、靴の販売をする1、直福祉用具の方、リハビリ病院の装具士と連携し購入してもらうことあり1、福祉用具業者に相談する1、靴の構造と機能について説明する 靴型装具について学ぶ1、フットケア1、インソールの販売1、地域の靴店と連携した定期靴外来を多職種で行っている1、口頭のみで説明することもある1、PTによる指導を依頼する。整形靴作成の店舗へ不定期で靴作成など依頼している1、サイズを合わせる1、足趾や足部の運動指導。下肢挙上など1、異常時受診促し、月一フットチェックの実施1、医師が靴の状態と足の形をみて判断1、日頃着用している靴を持参して頂き、靴の状態と着脱姿勢や習慣を確認する1、インソールを作れるシューフィッターと連携している1、施設内の技師装具士、リハビリスタッフ1、靴下1、業者来訪フィッティング時に立会い確認1、透析施設の為、災害時に逃げる為にもクロックスや、サンダルを履かないよう指導。院内の掲示物で、正しい履き物の選び方を掲示している1、踵を踏まないようになど口頭で指導する1

2-2★. 貴施設での主な靴の指導者は？

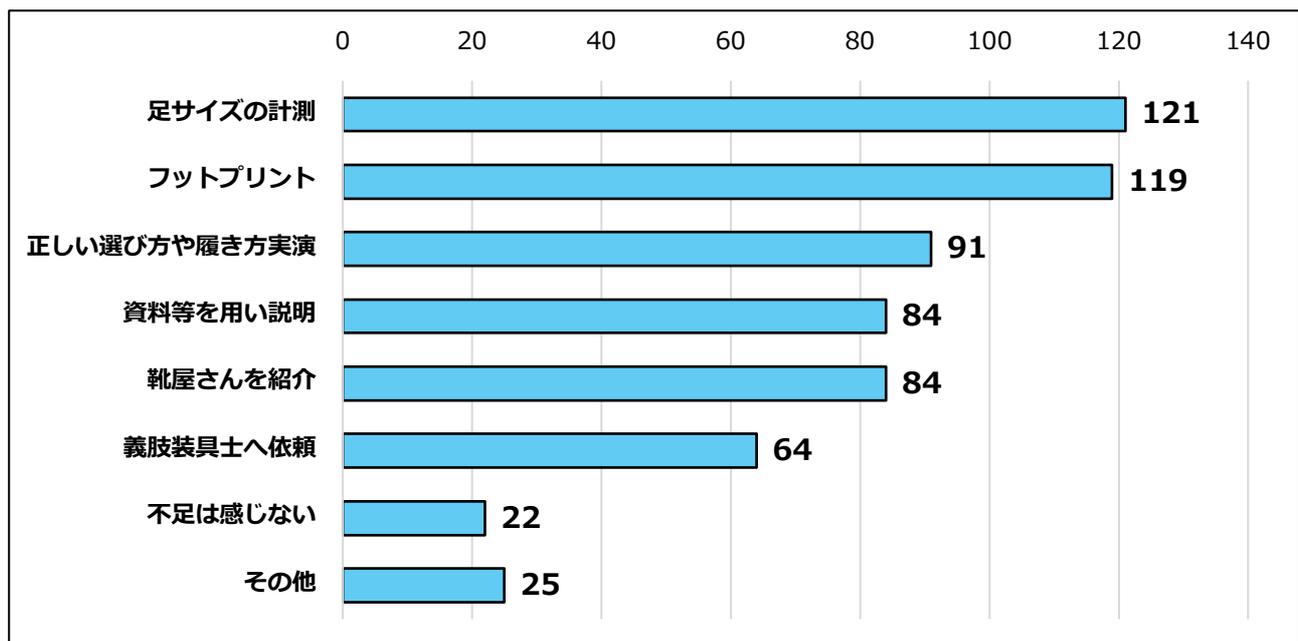


その他内訳：リハビリ担当者1、インソールの作成可能なスタッフ1、状況で1、臨床工学技士1、介護士1

2-3. 靴の指導は十分に行えているか？

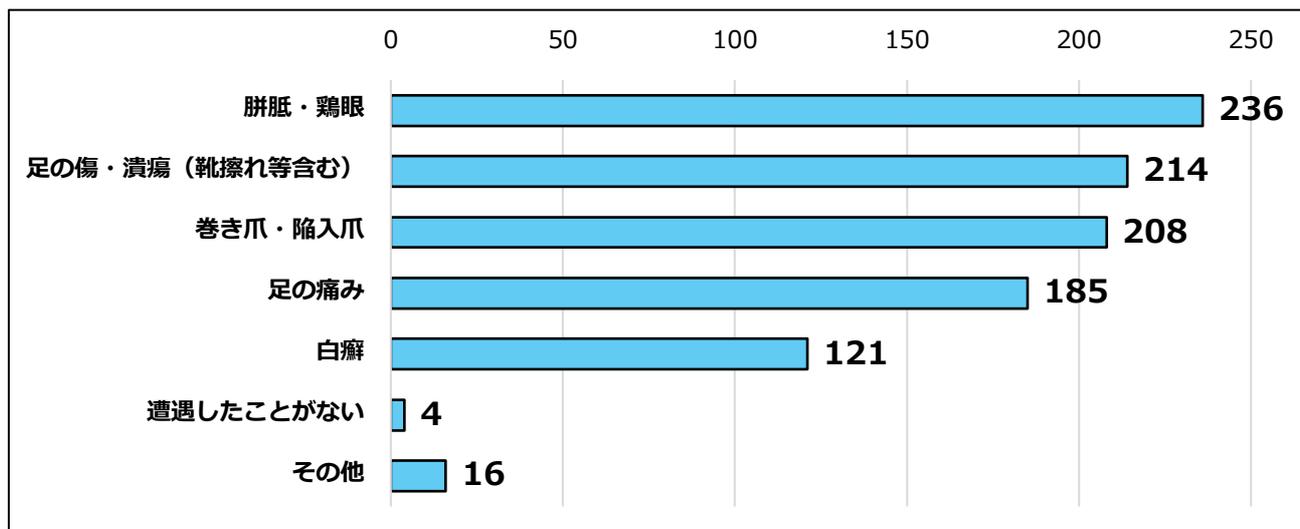


2-4★. 靴の指導で不足している点は？



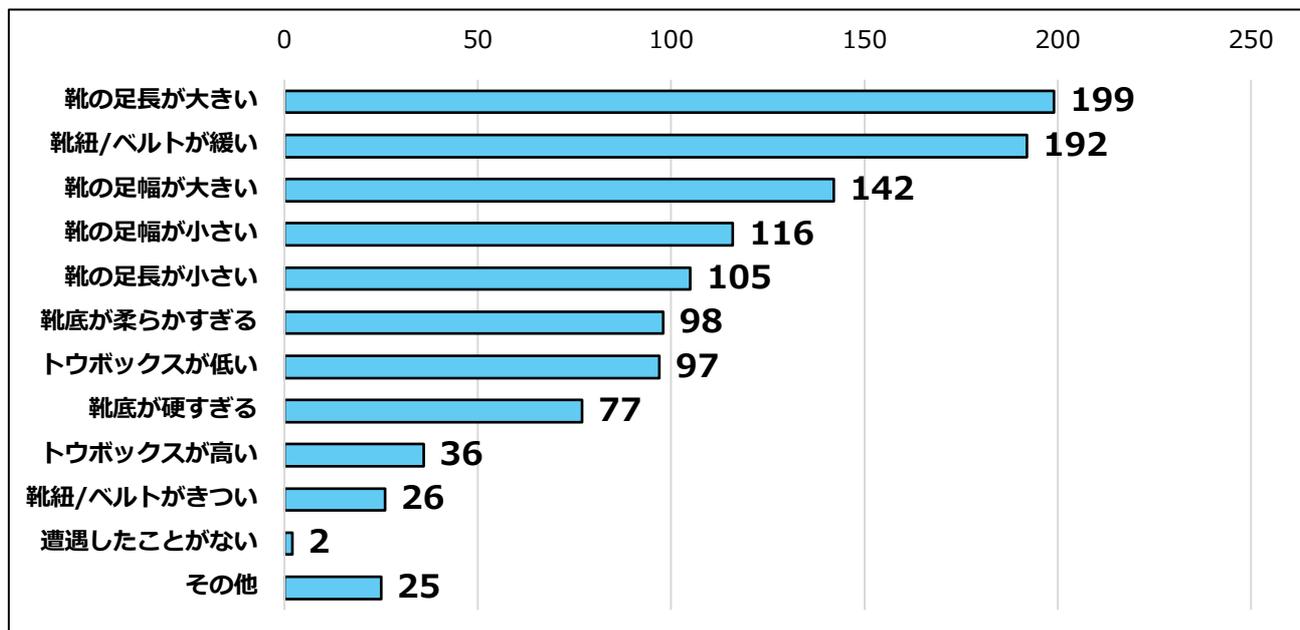
その他内訳：紹介した靴店さんで購入に至っても、履けない（足に沿わない）ケースが出てきました1、四国にフットケアを行っている義肢装具士が十分にいないため、お願いしたくてもできない1、指導をする人が少ない1、足の観察をするので、精一杯でそこまで行えていない1、靴をすすめるが、結局患者は履きやすい靴を選んでしまう場合がある1、個々の患者様の通院している病院が違うため、連携がはかれないことがあったり、お金が絡むため、よりよい物を勧められないことが多々ある1、マンパワー1、適切な提案が具体的に出来ているとは言いがたい1、自己費用がかかるので積極的に勧めきれないところがある。しかし必要となればしっかり説明している1、指導はほとんど行われていない。インソール購入の方のみ、PTが足の計測をしますが、月に数人いるかいないか程度です1、医師からの靴の初期説明が少ない1、靴作成や調整などが必要な患者すべてに適切な指導や介入ができていないとはいえない。治療中の装具は提案できていないことが多い1、スタッフ教育1、本人・家族・スタッフ共に、靴や足についての関心や認識が希薄1、装具外来が月に1回なので、その間のサポートが不足しないように注意している1、どれがということではなくすべての患者に十分に行えているとは思わない1、特養で外部の靴屋に外出は困難なため、見本靴が足りない1、看護師の足に関する知識など、意欲的でないと感じている1、時間 人員不足1、職種間の連携や、理学療法士の参加1、自分たちが介入していないところでは十分な指導が行えていない1、看護師に指導の差がある1、お勧めの靴屋さんが少ない1、職員にも説明しているが、利用者さんが適切に履けていないのをよく見かける1、他のスタッフが指導できていない1、

2-4★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様に生じている病態・症状は？



その他内訳：足のトラブル全般1、部分切断1、外反母趾含む足趾変形1、外反母趾、外反小趾、指の変形、脱臼、壊疽、などなど1、外反母趾・足趾の変形・爪甲後湾症・多重爪・爪甲剥離など1、足の変形1、不安定な歩き方、跛行、靴の変形1、足趾変形1、肥厚爪1、外反母趾1、足部の変形1、入所前の在宅生活時のトラブルが多い（胼胝・鶏眼）1、足関節の崩れと、膝関節・腰痛、足底筋膜炎1、血液混じりの水疱 繰り返し出来た1

2-5★. 不適切な靴選び/履き方をしている患者様の状態で遭遇するものは？

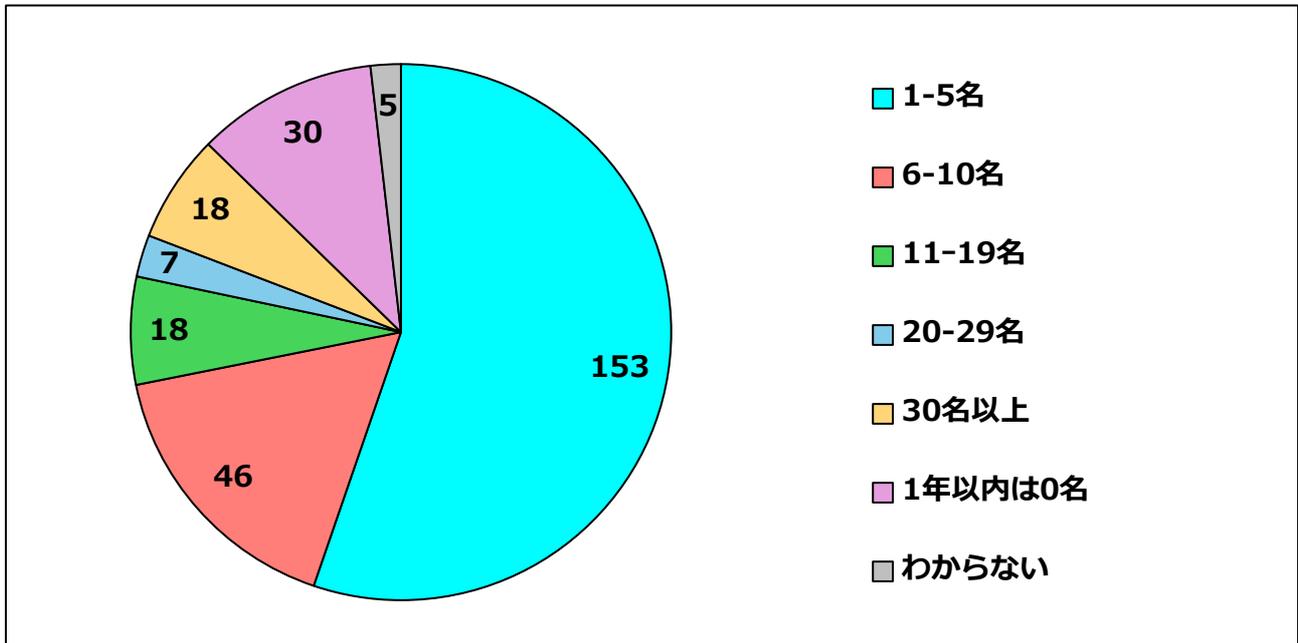


その他内訳：かかとを潰して履く、ASOでもサンダルを履く、潰瘍治療中でも免荷なしの履物1、とにかく正しく靴を履けている人がいない1、踵のないサンダル等を履いている1、踵を潰して履く、サンダルを履く1、ソールがすり減って薄い1、そもそも靴を履かない、紐のないスリッインを履く、踵や中敷きを消耗したまま履いている1、介護用と靴の選択しが少ない1、自身では正しく履けない。また足部や足関節の変形があるが適切な靴を提案できない。費用面での問題もある1、スリッパなど踵を固定しない履き物を履いている1、詳細が分からない方も多々おられます1、踵がないもの、もしくは踵を踏んで歩いている1、靴の素材や形状が、足に合っていないケースがほとんど1、靴底のすり減った靴を履いている1、もともとの変形足をカバーできる靴になっていない1、踵を踏んでいる。購入後から紐の調整をしていない。靴の中を掃除していない1、靴の素材が固すぎる（伸縮性がない）1、クロックス、ムートンブーツ1、ソールがすり減った靴を履き続けている1、ゴム紐を使用している1、靴ひもがあっても脱ぎやすく、履きやすい状態にしている1、靴の形崩れ、ヒールが柔らかい1、汚い1、高齢者が多く、家族が買ってくるので、サンダルだったり、スリッパ、上履きをまだ持って来る方が多い1、紐やベルトなど固定する物がない。靴全体が柔らかい1、サンダル 古い 室内履き1

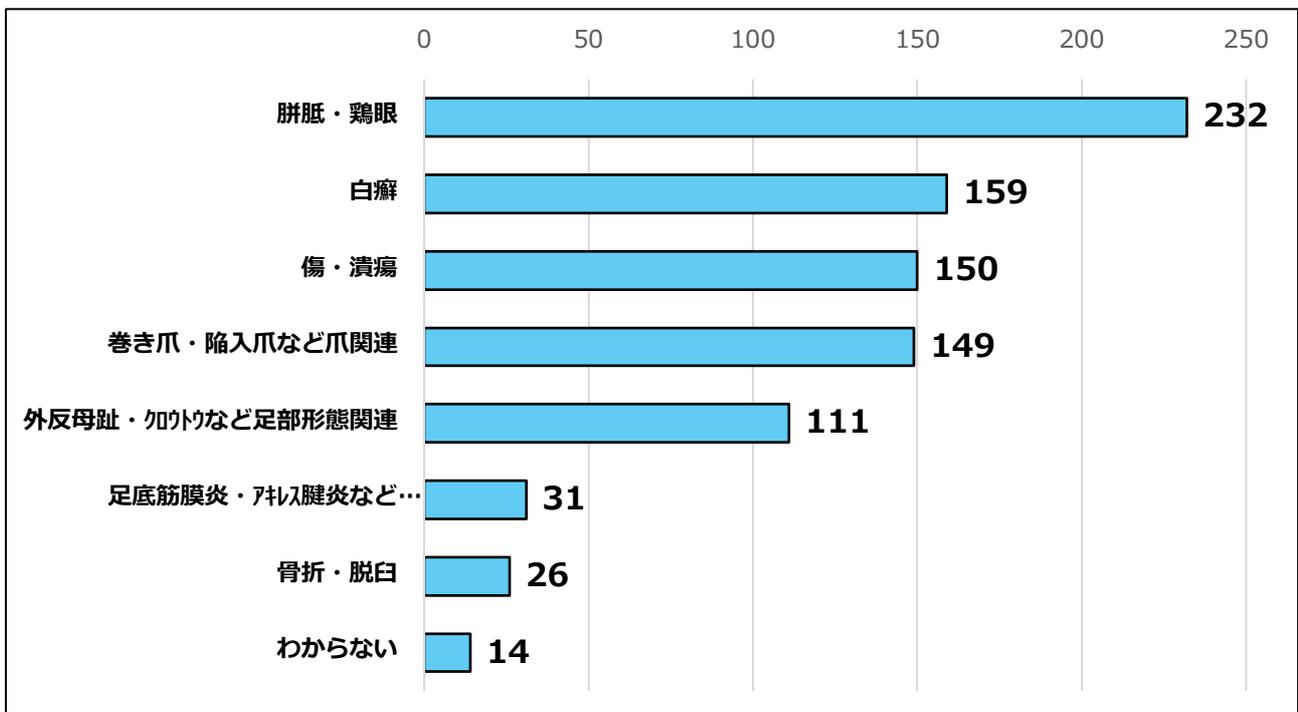
3. 安全靴等に関する診療、実態 (n=277)

3-1. 過去1年以内、安全靴等を履いている患者様の足の診療状況

※傷、胼胝、爪切り、白癬、骨折など全ての治療を含んだ実人数

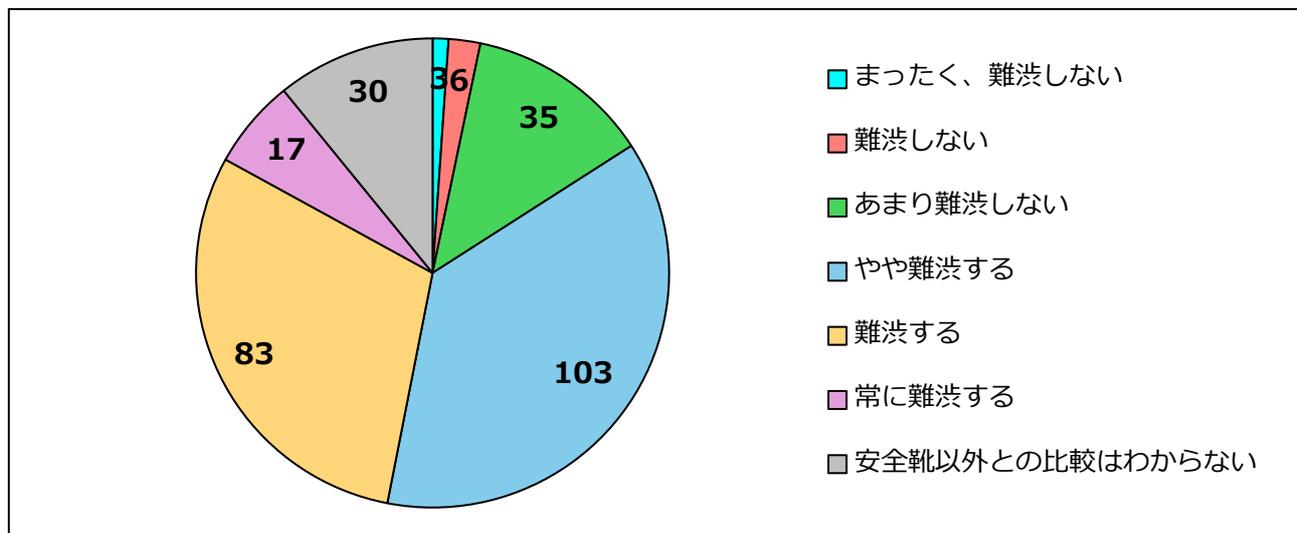


3-2★. 安全靴等を履いている患者様の足の病態、症状は？

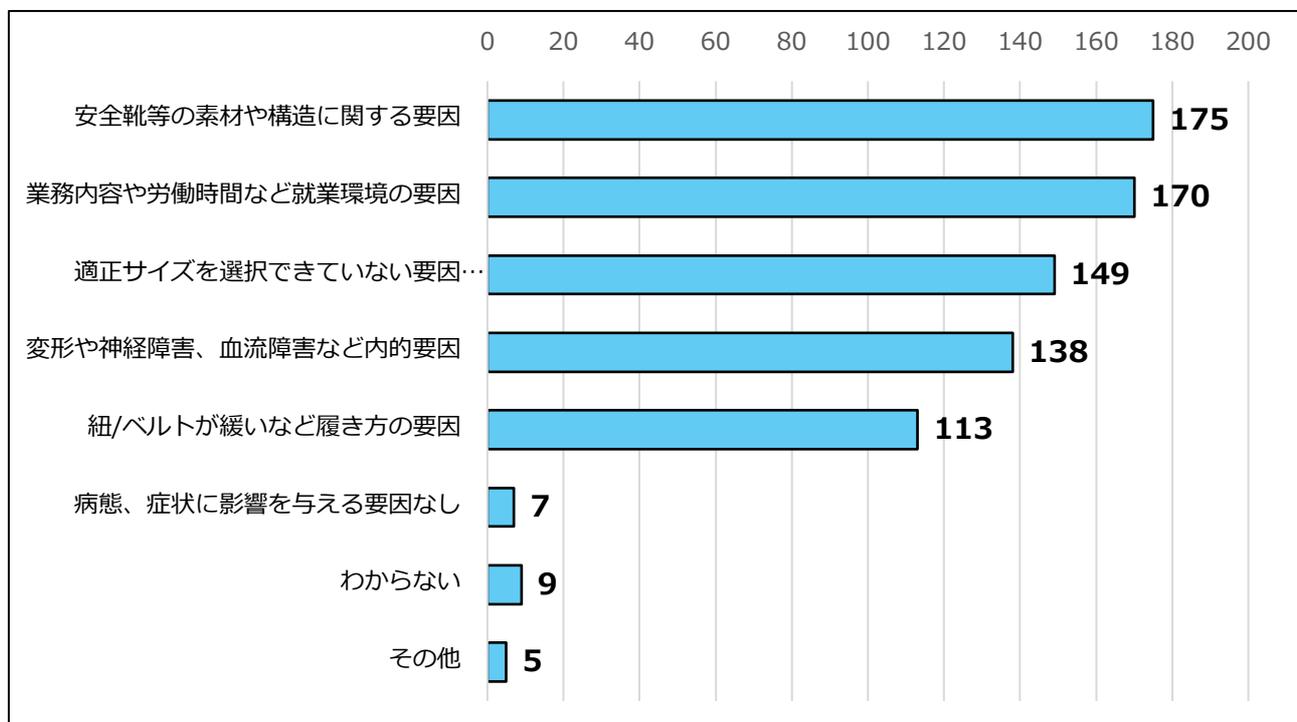


その他内訳：関わっていない2、静脈弁不全1、切断をくりかえした1、不明1、骨髓炎、潰瘍からの止血不可能な出血1、覚えていない1、足の異臭1、靴擦れによる足指切断1、肥厚爪1、糖尿病、透析患者、麻痺があるため足裏の潰瘍1、下肢の浮腫1、血液混じりの水疱1、創周囲の浸軟1

3-3. 安全靴等を履いている患者様の足病変治療は、他の靴を履いている患者様よりも難渋するか？

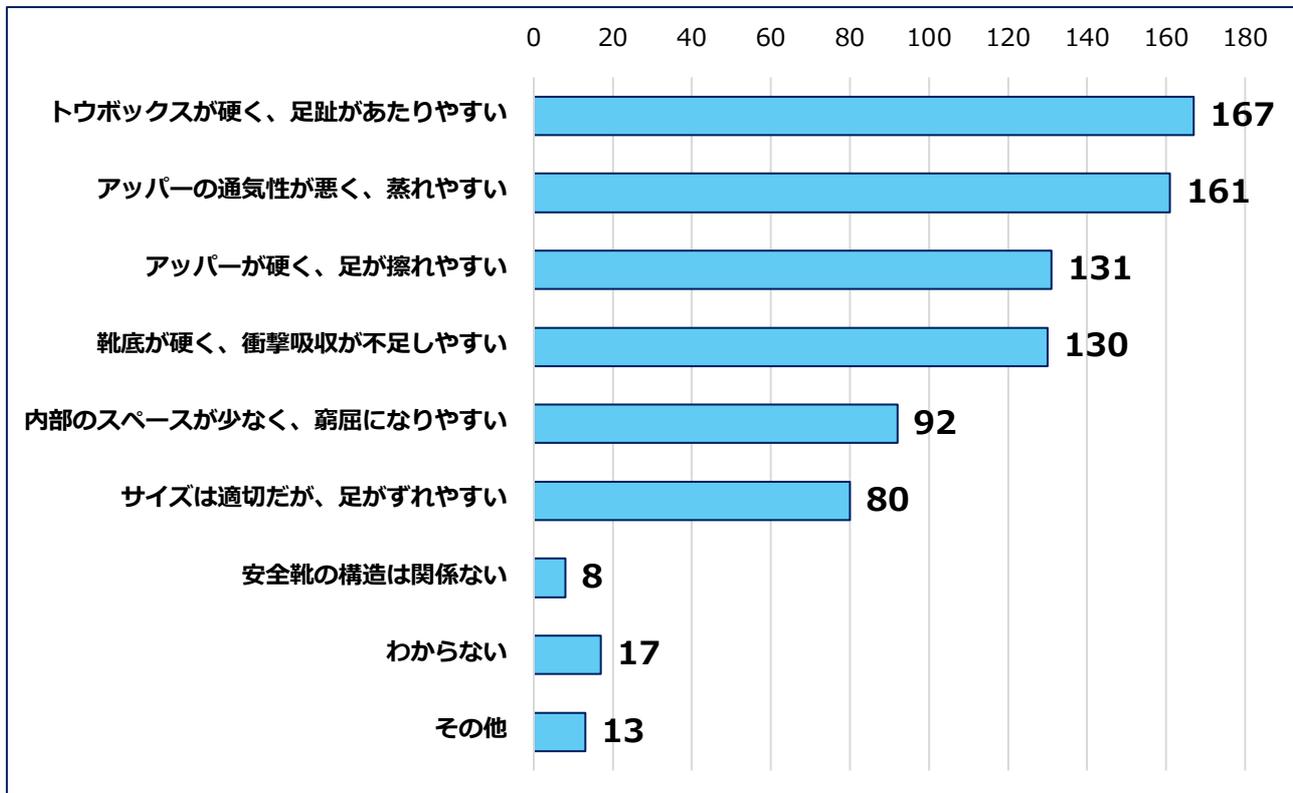


3-4★. 安全靴等を履いている患者様に生じた足病変の病態、症状に影響を与える要因は？



白癬菌が安全靴の使用による重度の巻き爪（炎症）部位から体内に入り大腿部が腫れ上がり下肢切断の例があった1、サイズが合っていない 靴の中で足が動く1、靴の手入れをしていない1、ご本人に安全靴を履くリスクの自覚がない1

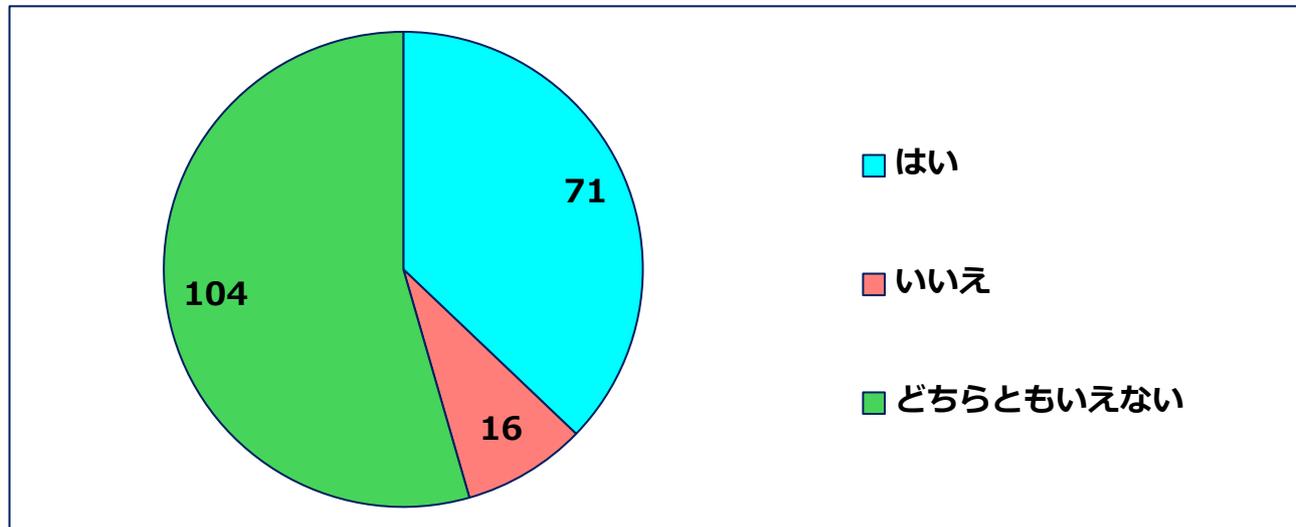
3-5★. 安全靴等を履いている患者様に生じた足病変の病態、症状に、素材や構造等が関係あるか。もし、あるとすればその要因は？



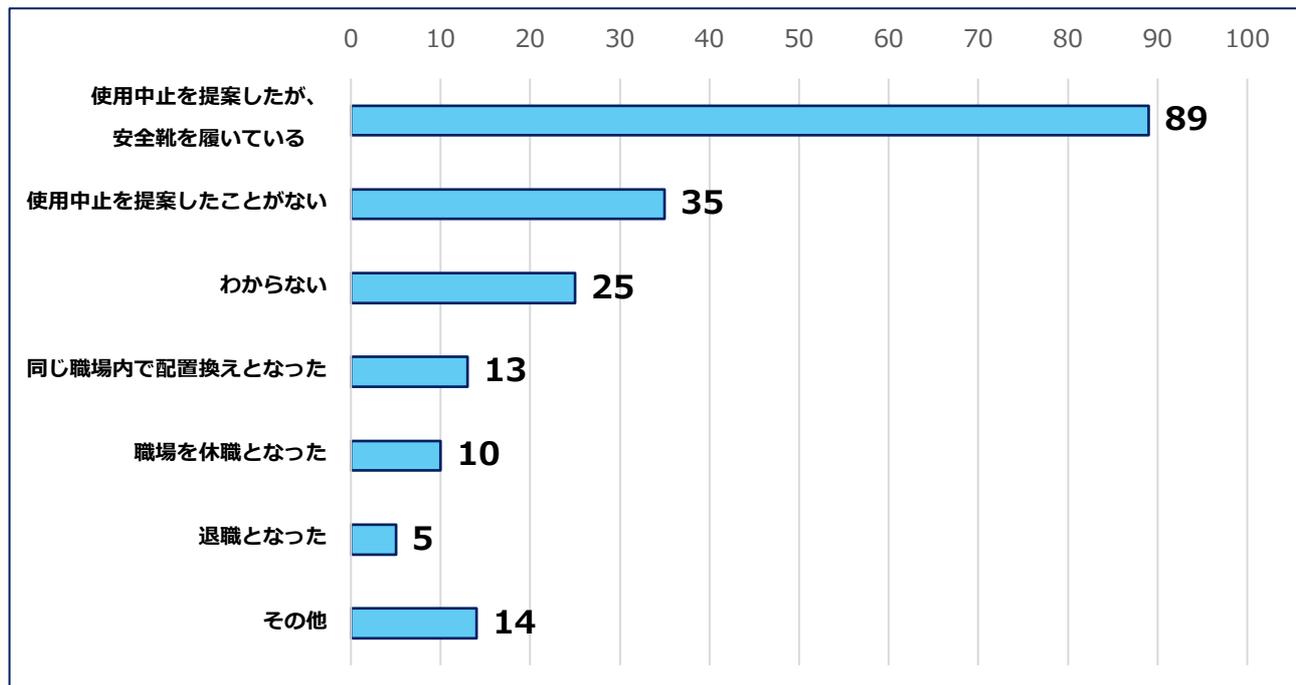
その他内訳：自分の足に合った安全靴を選べない1、そ金属の入っている部分とアッパー布の境目で靴の形が消耗早く、それでも高価なので買い替えずにいたら、ガニ股のため外側に体重がかかり、金属の部分が指を圧迫し、潰瘍を助長した1、透析患者の足は、体重の変化で大きさが変わる1、着用者の教育歴および知識や認識不足1、種々多様1、適切にはけていない1、足趾の可動制限により歩行時に踏み返せない。更に足のアーチの形状が保ちにくく、衝撃吸収がされにくいため足裏や、足全体の疲労を強く訴えています。足底腱膜炎様の症状を自覚している人も多いです。日本人の足教育がほとんどされていない為に、日常での靴の間違った選び方や履き方でトラブルを起こしているうえに、安全靴の足の機能を阻害する要因で更に足や体への負担を増加させていると思います1、アッパーの切り替え部分が皮膚にあたって傷を作っている1、1足を履き続けている。重さが重い1、脱ぎ履きしやすいようにベルトや紐を緩めて履いている為靴の中で足が動いてしまう1、踵部分の柔らかさがしっかりとフィットしにくい1、仕事で安全靴を履いている。雨などでぬれてもその靴を履いたままになっている1

4. 安全靴等使用者の足の傷診療、実態 (n=191)

4-1. 感染、虚血を伴わず骨まで達しない足の傷を、外来で治療する場合、安全靴等の使用中止を提案しますか？



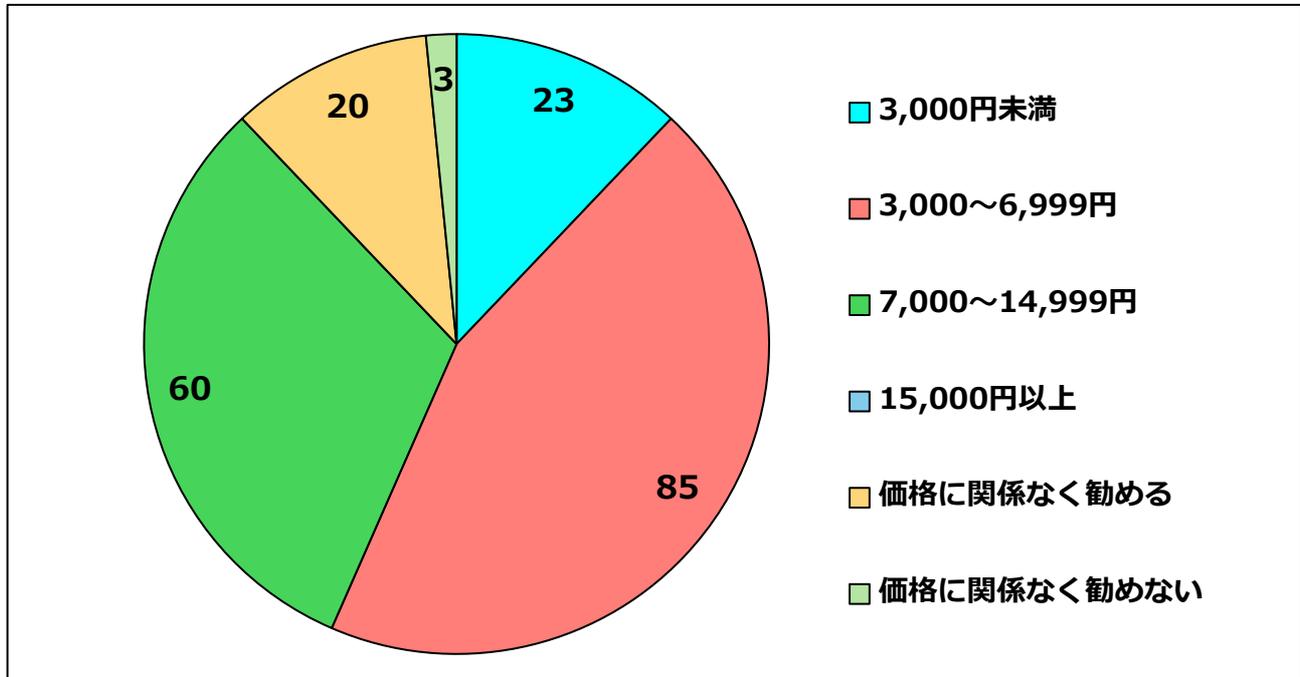
4-2★. 安全靴等の使用中止を提案後、患者様の就業状況で多いものは？



その他内訳：本人が職場と相談して別の履物にもらった1、会社の規則は破れない1、業務転換、しばらくの安全靴の着用を休む1、工事現場の交通整理をしている方だったが、病気に理解のある上司に恵まれており、除圧サンダルでも可能な職場配置にしてくれた。しかし、長期間は難しかったので、工事依頼が少ない年度末に完全除圧で過ごしてもらい、傷を小さくした。潰瘍は軽減したが、工事が始まり、安全靴を履かざるを得ず、安全靴の紐が海洋を圧迫したりしないように紐の穴通しを潰瘍部分は外して調整したりして、仕事は通常勤務に戻った1、患者の足の状況によってまちまち。問題なければ安全靴のまま1、安全靴を履かなくなった1、履いた後、足を洗うなどセルフケア強化1、中止を提案したかったが危険な現場で足を守る面もあると考え、また、安全靴を履かない様に指導する事で就業そのものに影響してしまう可能性があったため提案できなかった1、装具外来で安全靴を変更しインソールを作成した例もあります1、中止したほうがよいが仕事が優先となるので職を失うほうが患者さんにとってダメージが上になる場合があるためそこは患者さんへ選択しを与える1、仕事の靴なので中止も言えず履き続けている1、インソールの調整を行った1、靴型装具の代用で許可が出た1、スニーカータイプの安全靴を履くようになった1、安全上仕方なく履いている1

4-3. 免荷療法を阻害しないコンセプトの安全靴等が開発された場合、
いくらなら患者様へ購入を提案できますか？

※参考：市販されている安全靴、作業靴は3,000～15,000円程度



5. 安全靴等についてのフリーコメント (n=198)

“原文のまま”

- ・安全靴は、硬く靴底もクッション性がなく、多くは、支給されているので足が痛くても履かないといけないう方が多いです。会社によっては、制電性のもの、足先を保護する鉄製、樹脂性など会社指定が細かくあるため足に合わなくても履かないといけないうことが多い。自費購入する場合も高い。
- ・爪の変形、白癬になる方が多いと感じています。
- ・フットケア指導として企業に働きかけられるようになれば、企業側の意識も変わり、個々に合わせた安全靴を導入していけるように思います。学生も実習で利用する為教育現場への働きかけが、本人が今後の安全靴使用で生じる、足トラブルの問題提起をしていくきっかけになるようにも感じます。
- ・足を守るものとして職場環境によっては必要だと思うが、もっときちんと足をサポートできるものがあればいいのにと常日頃思っています。
- ・作業内容によっては、大きな怪我から足を守っている。安全靴の中を工夫すれば、外力、衝撃からの悪化予防が可能でずと考える。
- ・職場で支給されるものである為、履かないでは提案し辛い。
- ・患者さんの足に合った、かつ素材が柔軟性のある安全靴があればいいと思ったことがあります。患者さんからの訴えでは、安全靴を長期に履くことで胼胝や鶏眼ができて困ったことがあるとお聞きしています。
- ・健康な方には良いが、足にトラブルを抱える人に支給された靴以外は認められないのは、どうなのだろうかと感じる。
- ・安全靴インソールを入れることができれば、足指の変形、外反母趾、タコを防げるのでは？と思います。
- ・安全靴を履かないに越した事はないが、仕事しなくてはならず、渋々了承しなくてはならない。安全で尚且つ支障をきたさない靴が開発されたら凄く嬉しいと思います。
- ・通気性が悪く、足の固定が出来ない。
- ・外傷に対する安全性のみが考えられており、足部の機能や快適性などは考慮に入れられていない。
- ・外反母趾の方で、昔安全靴を履いていた、という話を聞いた。重い分、汗をかきやすいのと、通気性が悪い。靴が固そうで、足趾足部アーチ全体の関節の動きが出にくそうなイメージがある。
- ・履いたことないため分からないが水虫が多いかわそうあ。
- ・安全靴を履いていた患者さんは、白癬菌や爪の変形が多い。
- ・とても大切だと思います。
- ・麻痺側の足が浮腫んだりすると足趾が圧迫されて褥瘡になってしまうケースがある。
- ・安全靴は仕事上足を守るために必要なお靴。安全靴にインソールを入れるなど足のトラブル予防に必要なケアがおこなえる環境を作ることが大事だと思います。
- ・会社負担で決まった時期に支給されているケースに出合う機会が多くなります。人により劣化具合もある為、足の有害事象が発覚した際には即新規購入の後推しができればと思う事があります(個人的には申請しにくいご様子の声を聞くため)。
- ・しごとではくものなんである程度はいこたがな。
- ・靴に対する認識の差なのか、「サイズさえそろえればよい」程度の認識の雇用者が多いのではと思います。職場に依頼してもサイズの合った靴は支給されないため、結局は自分で安価な安全靴を購入している方もいます。濡れても替えがないということも聞きますし、「とりあえず配っておけ」程度なのかなと思うこともよくあります。製造業、建設業、警備など、日雇い派遣など雇用条件の不安定な職種でよく利用されている感じも、その印象を増幅しているかもしれません。米軍基地で働いている方は、労働安全上の決まりで定期的に安全靴が支給されるため、たまってたまってしょうがないそうです。「そんな世界があるんだな～」とうらやましくなりました。
- ・足が痛くて転倒している高齢者をたくさんみてきたので重要だと日々感じています。ただ、周囲に詳しい人がいない。靴があつてないことを本人や家族に説明したことは何度かある。用意してくれる家族もいたが、高齢夫婦はなかなか伝わらなかった。
- ・実際に履いたことないため、イメージですが、歩きづらそう。足底が疲れそう。
- ・職場から配布される安全靴が合っていないのが一番大きな問題だと感じます。それには、経営者と労働者の双方の靴への理解が不足していると感じます。
- ・昔、ストレッチャーで足背を乗り上げたことがあり、それ以降勤務中は自分自身が安全靴を履いている。とても守られている感じがして良いが、価格の差や品質によりけりなところがある。
- ・仕事上安全靴を使用しなければならない状況は理解できるので、適切なフットケア指導が必要と感じます。
- ・安全靴は硬く気密性が高いため、爪白癬や趾間白癬のリスクが高い。
- ・平べったくていたそう。白癬になりやすい。
- ・履いてないと危険な場合もあるし、仕事を選べない状況もあるので指導はするが後は本人の足に対する意識を持つように関わ安全靴のタイプでインソールと併せて作成された方がいらっしゃいますが、消耗が激しく作り替えの時期(1年半)までもたなそうです。ることになる。
- ・安全靴を義務付けしている会社側の意識を改善してもらいたい。定期的にフットチェックなど、調査をしてもらいたい。
- ・安全靴を使用しなければならない仕事であれば、中止したら良くなると分かっても、仕事なくなるので提案は出来ない。仕方がない、と終わってしまう。べんちやけいがんケア、白癬治療をして対応しています。
- ・正しいつかいかたやメンテナンスを知らないように思う。
- ・1事例のみの関わりだったのですが、安全靴を使用しなければならない現状、潰瘍の悪化との関連、難しいと実感しました。
- ・安全靴自体に、もう少し個々に合わせた調整機能が備わると良いと思います。
- ・安全靴も問題ではあるが、長靴も非常に問題である。
- ・患者さんの仕事から安全靴は必要なもので、履かないで下さいとは言えません。でも、足背の傷が治りにくいです。フェルト使用を提案しています。

- ・安全靴を履いていた家族がいたが、蒸れるのか白癬だった。重さもあるため疲労するのではないかと思う。
- ・安全靴を履いている患者さんは働いており、比較的若い方が多いので、酷い足病変の方はいないが、胼胝形成が酷い印象。そのため、安全靴を履いている患者さんをピックアップはしています。
- ・どういった安全靴を選んだらいいか等アドバイスしたいがわからない。
- ・安全靴を履き、かつ勤務で2万歩ほど歩く労働環境下では足病変のみに終わらず全身に不調が見られており、改善が困難と感じています。
- ・蒸れやすく、巻き爪を誘発する症例を何度か経験している。
- ・大きな怪我はないが足を痛めているなど思う。
- ・長時間立位ではくことにより、浮腫が生じ、擦れて傷になりやすい。
- ・安全靴(あゆみ)は履かせやすい。軽い為、筋力低下の高齢者でも足が上がりやすい気がする。販売場所が限られており、入手は容易ではない。
- ・蒸れる。
- ・職業上安全靴を履かなくてはいけない場合、創傷を治療すること、創傷を予防する必要性等、職場への理解を得ることが難しい。
- ・転倒防止にもなり良いが、高齢者の場合は自身での靴紐を調整できない等の問題もある。
- ・通気性が悪い 足に体重がかかるためクッション素材の検討。
- ・蒸れ、硬い、また硬い部分が当たってしまう。
- ・日本の安全靴に種類がなく、胼胝や爪変形の原因になっていると思っている。
- ・足に異常がでて履かないといけないうい思いか悪くなってから受診する事が多く、治療を開始しても難治の事が多い印象。また胼胝の患者は多い印象を受けます。完治した後は日常のケアについての指導が再発防止の鍵になるのではと思います。本人の生活にも関わるため、私達から職場へのお声かけをお願いするのも戸惑うことが多いです。
- ・以前に比べると、安全靴のバリエーションは増えている印象なので、適切なサイズの選び方を指導したり、制靴として規定されない職場環境づくりが大切だと思います。患者さんで安全靴の設計にかかわっていた方がいて、話を伺いとても興味深かったです。
- ・一度、ミドリ安全の方と話した事があります。ミドリ安全は結局、いい靴を作りたいが、機能性を上げると、会社での支給が難しくなる、だからと言って、自由ではいけなくて、法律の問題でクリアしないといけない部分もある。サイズもある程度バリエーションは増やしているが、足幅まで手を出すすと在庫が増える、オーダーメイドは時に対応する事がある。正直、靴の種類が増えすぎて、専門の人に仕分けしてもらいたいくらいだと。電気関係の方は、靴底の素材で通電を防がないといけないうい。飲食店は耐熱、耐滑、清潔のため紐はできないなど決まりがある。工事現場は、安全靴を使用しないと行けない決まりがある。患者曰く、交通整理中に車のタイヤで踏まれた事があり安全靴履いていてよかったと感じたこともあった。工事現場に入らなくても、事務員の方でも現場に入らないのに安全靴を強要される事がある。トイレは脱ぎ履きしなければならず、マジックテープが正直言ってたすかる。しかしその方は、母趾内側が陥入爪です。正直安全靴って、どこが安全なんだろうと感じる事が多々あるが、現場や靴メーカーに聞くと、職場に合わせた靴に従業員の足を合わせるどころから始まっているので、安全靴も、子どものスクールシューズも、全ては社会環境が大きく影響していると思います。
- ・工場や工事現場で履くもの。
- ・職場で支給されている靴は安全靴ではないです。
- ・自分自身が、前職(医療職でない)で安全靴を履いていて、履き心地が気に入ったため公私ともに今でも履いている。昔の一時期サイズの合わないものを我慢して履いていた時があり、その時は小指の爪が割れたり肥厚するなどトラブルがあった。今も治りきっていない。しかし、サイズの合うものを見つけて履き続けて10年以上になるが、それ以上の足トラブルはなく経過している。基礎疾患による下肢形状、下肢血流など違いはあるのだろうが、きちんと靴のフィッティングを行うことがいかに大切かが理解できた。安全靴であっても、基礎疾患を持つ患者であっても、足にフィットする靴を選べばリスクを最小に抑えられると考える。さらに靴の内側の素材を改良するなど構造にも気を配れば、下肢創傷のリスクを抑えて安全靴を使用することは可能だと考える。仕事で安全靴を履かざるを得ない患者も多いため、母趾内側が陥入爪です。彼らの就労継続機会を履物のせいで奪ってしまうことがないように、安全靴だからと拒絶するのではなく、より多面的な研究でより多くの可能性を見いだしてもらえるように期待している。
- ・就業に当たって必要なものと思われるが、靴擦れ、蒸れなど起きやすい印象があります。糖尿病患者などの安全靴は不安があります。
- ・通気性は悪そうなイメージが一あります。※患者様に履いている方がいらっしやらないので、調査に協力出来なくて、申し訳ありません。
- ・業務上、履かないと仕事出来ない方が多く、介入が難しいことが多い。
- ・仕事内容によって正しい履き方支援に苦勞する。
- ・構造上硬く、歩くために作られていないため長い時間活動する方にとっては胼胝形成リスクが高くお勧めできないが仕事する以上必要なもので代替できるものもなく困っていた。
- ・安全靴は鉄板入りの靴のことですか？遭遇していないのでわかりません。
- ・あまり事例が少なく大きな問題であると感じたことはない。
- ・足を守るため靴の構造上、頑丈で通気性が悪く、長時間立ち仕事をする職業の方が着用され、長時間はいていることで感覚鈍麻を起こし、神経障害につながり皮膚潰瘍に気づかず放置され重篤化してから気づくため難治性潰瘍になって治癒までに時間がかかる印象です。着用時間の制限を設けたらよいと考えます。
- ・安全靴を履いている足潰瘍の患者さんは、基礎疾患に糖尿病がある方が多いように感じる。靴の硬さの問題はあるが、長時間・長期間同じ靴を履き続けることによる衛生面の問題が影響しているように感じます。
- ・職場の環境上必要で制服の1つと考えています。安全靴の特性を持った、足に負担を掛けない安全靴の改良型が出来たら良いと思います。
- ・フィッティングが難しそう。
- ・あー安全靴かあ...とため息が出ます。お仕事をする上ではどうしても必要なのですが、工夫などできないので困っています。足を守るための安全靴が、疾患を持つ患者さんにとっては危険靴だなあと感じます。安全靴という名前のため、疾患と病変を持った患者さんが安全だからと思って仕事に関係なく履いている人にも出会ったことがあります。
- ・無し。

- ・衝撃性や落下など足を守るために必要であるが通気性や素材の硬さなど、足に悪影響なところがあるので改善されたいと思います。
- ・職種によっては使用に必要なのは仕方がない。仕事だけでなく 足病変リスクが回避できる安産靴が必要
- ・安全靴が必須の職場で、普通の靴で仕事をして怪我をした患者さんがいました。外国人で必要性より履きやすさを重視していたようで。その人の足に合った靴だったら、ちゃんと履いて仕事していたのかなあと思いました。
- ・ヒモ履だとエレベーターや何かに引っ掛かるなどのリスクがある。つま先の形は3つほどあると以前何かの機会に学んだことがあるが、つま先の形と足の厚み、高さなど個別であると思われる。その足にどれほどフィットできるかなど、課題はあると思う。
- ・業務上での使用が必要な場合、履かなくてはならない環境であるなら、新たに自信にあった靴が気軽に購入できればと考えます。相場がわからず、かっぱな事を言っているため、参考にならないかもしれません。すいません。
- ・実際に安全靴を履いていないので、何とも言えませんが、安全靴はクッション性・通気性等悪いイメージがあります。どうぞ傷を作って下さい。悪化させてください。というイメージです。
- ・重くて歩きづらい
- ・以前の勤務先での事です。勤務上、本人が許容範囲内と感じている以上それ以上踏み込めない。
- ・安全上必要は靴と思いますが、足を軽視した構造だと思います。もっと足のことをよく知ってもらいたいです。
- ・男性用はある程度の選択肢があるが、女性(特に足の小さな女性)は選択肢がとて最少なく、足の変形がある人にとっては不適切なものを選ばざるを得ない状況にある。
- ・安全靴は職業柄の履き物と考えており、時間～時間の履き物と理解しております。
- ・安全靴を履く際の注意点を一般に知って欲しい。
- ・患者様含め靴＝楽に履ける大きなものが良いと認識していると思う。実際スリッポンや楽に履けるすぱっとシューズのようなものが流行る。ただ足にとっては悪循環。高齢向けに紐靴にチャックがついてるような靴はフットケア的にとっても良いのではないかと私は考えている。ただデザイン的に子供や壮年期といった幅広い年代にも対応できるものがあるといいのではないかと思う。
- ・外的防御の為、足の形にあった靴の種類がない。
- ・安全靴の使用経験や、取り扱いがないので何とも言えない。
- ・インソールでズレ、圧迫を回避できない？
- ・なるべく早い安全靴使用の廃止が必要です。
- ・DM合併症有している場合リスクが高いが経済的に中止できないケースがあり、潰瘍リスクが回避できない場合ある。価格が低い免負荷出来るソールがあればいい。
- ・固定性の高い安全靴では、足趾や足部、足関節複合体の運動制限が生じるため、上関節へのストレスが増大してしまう。
- ・対応したことがありませんのよく分かりません。
- ・業務上の義務がある場合は致し方ないので、靴の改良が必要 安全靴だけでなく、長ぐつ使用の場合も、トラブル多いように思います。
- ・履く時間が長く、業務的に履かないという選択肢が与えられなさそう。
- ・足を守るための靴は、快適性よりも安全性が重視されているように見えます。ご本人の選択肢はなく、支給された物を履くことが多いと思われ。ソールにソルトな素材を使って、衝撃吸収すると良いのかもしれませんが。安全靴を履く方々は、同時に重い物を持って移動することも多いように感じます。自分の体重以上の荷重があり、胼胝・鶏眼になりやすいと思われ。フィット感に優れて通気がよく、足に合ったインソールで、ある程度ソフトなインソール素材、そして、危険なものから足を守る素材でできたら良いものになるのでしょうか。
- ・会社の規則であることが多いため、注意しにくい。安全という凶器であるという認識が必要なきももある。
- ・胼胝形成を繰り返す
- ・支給されているのか分かりませんが、割とボロボロになるまで履き潰している方が多い気がしています。
- ・硬そう。
- ・せめてサイズはきちんと測ってあげて支給してほしいと思う。
- ・洗えない、足の固定ができない、通気性が悪い。
- ・硬くて痛みが出やすい。
- ・高齢者に関わることが多いため、安全靴とは直接関係ないことが多いですが、もしかすると安全靴を履いていた方が高齢になった時に影響が出るのかもしれないので、勉強する機会があれば勉強したいです。
- ・今のような梅雨の湿度の高い時期や降雨のあと、蒸れて皮膚もふやけ白癬もひどくなり悪臭も出てしまうことがあります。簡単に洗えず乾かず、清潔と言う意味でも安全靴は欠点が多いと思っています。しかし重いものを落としてしまったり刃物など危険な作業には欠かせない靴でもあるため欠点を克服できたらとても良いと思います。常に新しいもの買い換えるのがベターでしょうが、高額なので使い捨てとはいきません。
- ・外来でもっと患者さんが履いている靴などに関心をもって関わっていきたい。
- ・とにかく白癬になりやすく、治らない。
- ・足のカタチは、違うので支給ではなく選択肢があればいいと思います。
- ・構造の問題はあると思うが、職業上やむを得ないことが多いと思います。足と職場に双方の安全性に配慮されたものがいいと思います。
- ・フィット感が得られない。硬すぎる。重い。
- ・個別に合った靴を選択制にできると良い。
- ・危険な作業をされている方にとっては足を守るために必要な靴であるが、このアンケートに回答をしながら、安全靴って良くないものなのだと、感じる質問内容が多く、批判的に傾く内容だと感じた。
- ・サイズがあうものがない、蒸れてしまう。
- ・安全靴をしらない。
- ・創傷を有する場合、安全靴にある程度の保険適応などがあればいいと思う。対象者も生活があるので安全靴を履かないと就業できない環境の問題もあると思われるので何らかの救済措置があれば良いと思う
- ・素材が固い 足のサイズや幅が個人に合わない。
- ・安全靴のメリットとデメリットを企業側が理解できる活動がしていきたいと思っています。
- ・蒸れやすい。

- ・安全靴がどのようなものが一般的なのか、また安全靴を履いている方へのリハビリ含め治療プロトコルはあるのか分からない。
- ・作業状況により大げがの要因になるので、必要だと思います。安全靴も下肢を守る一つのツールではありますが、下肢状況に応じて作業工程の変更等職場環境が変われば良いと思います。
- ・足病リスクのある方にはオススメ出来ない。
- ・重たい、硬い、足がかなり疲れそう、蒸れそう...というぐらいの認識です。
- ・足に悪いと分かっている、仕事上安全のためどうしても履かなければならない規定があることがほとんどで、足に対する配慮がまったくされていないため、会社側の配慮がもっとあれば良いと思う。あと、安全靴自体がもう少し足に優しい構造なら良いと思う。
- ・施設や病院では、安全靴を履いているのは、営繕課や修理業者のみなので、患者さんが履くことはない。病院・施設では、いわゆる介護シューズがほとんどで、多くの場合、サイズが大き過ぎるものを履かれている。これは指導してもほとんど変わらない。本人が履いてみて買うことがほぼないので、家族が大きめのものを買って与えるケースがほとんど。もし患者さんが安全靴を履けば、重すぎて履かなくなるだろうと思われる。
- ・足先保護目的なので重たくて、固く通気性が悪い。洗いにくい。のではないかと感じています。
- ・紐やマジックテープでの固定をしっかりしなければ、足趾の変形やウオノメ・タコも心配です。
- ・感染や虚血による潰瘍など重篤な場合には、一時的に使用を控えるなどもある。爪の変形など長期的な視点で変更したほうが良いときなどは、仕事以外では履かないようにすることを指導しても、なかなかリスクが伝わらず介入が難しい症例もある。短い診療時間内で、効率よく指導できれば良いと考える。
- ・店で販売しているのを見たら通気性が悪く、重たい。靴底の反りが硬い状態であった。
- ・お客様が履いておられた安全靴は、個々の足の形に合った靴ではなく、一括して職場からの支給でした。足の形状によってはアッパー？に入っている金属板が第1趾に当たり、毎回痛みはないものの、固く大きな胼胝が出来ていました。また、足が大きいからとサイズの大きな安全靴を履かれていらっしゃる方もおりました。仕事用の靴は一日で一番長く履く靴ですので、もう少し選択できる余地があれば困る方が少なくなるのではないかと感じます。(内容は違いますが、厨房で働く方も同じように思っています)。
- ・安全靴を着用しなければ行けない職場もありますが、足に対する工夫のある靴を考えるとありがたいです。爪肥厚の方、白癬の方、足趾の変形してしまった方などいますので。
- ・安全上安全靴を履くのは仕方がない。また会社で支給されているものが多い。
- ・安全性を確保する靴です。しかし胼胝が足底に存在しご本人苦痛ははかりしれません。職場支給であるならば障害を作らない安全靴を支給して頂きたい。
- ・足を守るための大切な靴であると思いますが、足に合っているもので正しくはいていただけよう最初に指導、調整していただけたらと思います。
- ・インソールを必須にしてほしい。
- ・自身が安全靴を理解できていないです。
- ・フットケアサロンのお客様でも安全靴による胼胝でお困りの方は多く、家族も安全靴によるトラブルが起こり受診した事もあります。足を保護するためには当然硬さは必要ですが、せめて、より通気性が良い靴が開発されることを期待します。
- ・蒸れやすく白癬をきたしやすくサイズが合っていないことによる胼胝等発生リスクがある。
- ・安全靴の構造や、問題点等何も知識がありません。今後注意して情報収集してみます。
- ・安全靴が具体的にどんなものかわからない。
- ・脳血管障害で軽度の麻痺がある利用者様が、車いすや他の人の足に踏まれることを予防するために安全靴を履いていることがありました。つま先が硬いのはよいのですが、変形や拘縮に対応していないので、歩容に問題があったと記憶しています。足先にゆとりも出来やすいと思いますので、そのフィッティングについて知りたいです。
- ・足を守ることは重要だが中の足本体を守る意識になっていないのが現状。装着を義務としている企業が装着者の足に関心をよせ対策を講じることができる意識・システムを作成してほしい。(個人的に本来なら労災になってもいいくらい、と感じている)。
- ・安全靴に限らずだが、幅広(ウィズ表記で2E以上)のものが多く、患者様自身も広いほうが良いと思っている場合が多い。幅広を謳う靴が多いため、患者への靴の指導が大変であるのと同時に、靴の指導をおこなっても改善される場合が少ない。
- ・足型など自分に合っていない靴、紐付きウォーキングシューズの履き方が間違ってる、筋力、関節運動の低下ですり足になり引掛靴で安定した歩きができている、靴底の減りが大きいのに履いていて重心が傾いているなど、年齢による骨格筋の変化に対して、靴はただ履いているだけの「移動(材料)手段」と思っている方がとても多く力の無さを痛感します。重心バランスの安定性を補うことは「足の健康を守る」には必須であり、つまずきや転倒予防・姿勢の保持が高まりロコモ予防につながります。一般の方への啓発活動は大切であると実感しています。整形靴の方と一緒に足の健康講座によるフットケア啓発活動を実践しています。(足のミカタ:医療従事者、爪ケア、理学療法士、ピラティス者組織)。
- ・安全靴は危険な工事現場で使用して洗浄せず壊れるまで使用していると思われるため不潔になりやすいと思われます。
- ・私は医療機関の従事者ではないため、治療ではなくケアというかたちで足のお悩みに向き合っています。中でも、安全靴の使用による足のトラブルは、ひとつだけでなく複数の症状を抱えている方が多いと感じています。胼胝、鶏眼、巻き爪、肥厚爪、足底腱膜炎、さらには腰痛や膝痛、肩こり、姿勢の乱れなど、さまざまな不調が重なっている方も少なくありません。確かに、安全靴の長時間使用は足に大きな負担をかけ、トラブルを引き起こす要因の一つではありますが、私が現場で感じているのは、安全靴だけが原因ではないということです。足に関する正しい知識が十分に広まっていないために、日常生活でサイズの合っていない緩い靴を履いていたり、靴ひもをきちんと締めずに歩いたり、柔らかすぎる素材やクッション性ばかりを重視した靴を選んでしまったりと、足の骨格を支えない靴を日常的に履いている方が非常に多く見受けられます。そのため、安全靴を履いていない方であっても、同じような足のトラブルに悩まされているケースは少なくないです。だからこそ、安全靴の見直しと同時に安全靴を履く時間以外の普段の靴が適切でなければ、足のトラブルは根本からの改善が難しいのではないかと感じています。
- ・患者さんの仕事上、靴の変更は困難である。緩和するためのエスアイエイドの貼付や、胼胝削りを繰り返す事で悪化を防いでいる。

- ・構造上の改良が必要だと思ふ。
- ・安全靴は職場からの支給が多く、自分自身での購入をされる方が少ない。限られたもので対応職場との交渉、支給など相談が必要になってくる。傷がある場合は、両立支援等の配慮が必要となってくるため難しいと思っています。
- ・あまり好ましい靴とは思えない。外からの危険は、守ってくれそうだが足には優しいというイメージは全くない。
- ・高齢者に奨励されている靴は、トラブルを引き起こすリスクが高過ぎます。
- ・仕事上履かなければいけない靴であり、皮膚状態を悪化させる靴であるため、患者さんもわかっているがやめることができないのでお互い何も言えず処置を続けることになる。
- ・患者さんの仕事上必要ではあるが改善策を考えるべき、インソールで簡易的に補正が可能であれば指導に繋げることが出来る。
- ・なし。
- ・合わない靴を履かざるを得ない状況なのかと思います。
- ・安全靴について知りたい。
- ・安全靴を履いたら、足の観察をすることを伝えたが、実際には出来ない。悪化していた。
- ・安全靴を履いての仕事は蒸れやすく、サイズ違いであると傷も作りやすい為、仕事の合間に脱げる環境を作ったり、個人の足にあったものを選べると良いと感じている。
- ・仕事だから仕方がない。履かなければ仕事を辞めざるを得ない。と言われると、なかなか強く指導も出来ない。JAS規格に合う足病用の安全靴があれば言うことはない。疾病構造からも土木関連の現場で働く方は糖尿病が多いと思う。靴メーカーと本学会が連携して靴を開発する事を切実に願う。
- ・時々、職業上やむを得ない状況で長年安全靴履かないといけず辛くなったという人に対して、履かないという選択肢はないため、もっとこうした方が言えるような方法を知ってればよかった。
- ・靴に対する指導はできていない。
- ・足を守るために履いているが、胼胝ができやすいようだと感じていた。
- ・足が大きい人などは、サイズがあわない。安全靴を履いている方は巻き爪やべんちなど多い。
- ・より良い安全靴も製品化されているのではないかと思う。個人的には知識不足だと感じている
- ・業務上はかなくては行かなくては行けるもので生じる変形や当たることで趾に傷が出来たりすることがあるので、素材やトラブルに対応出来る靴にして欲しい。
- ・透析患者は体重によって、足のサイズも変わるので、ぴったりな靴の選定が難しくサイズがキツくなることもあります。患者さんもお仕事があり、なかなか経済的に困難なこともあります。
- ・ニューバランス社製のように踵部分の硬さがフィットしやすいと思います。そのため、安全靴が外れそうな方には主治医とも相談してお勧めしています。
- ・安全靴を履いている方は、仕事上必須のため履かないという選択肢は難しい。特に支給されるものである場合は、安全靴の種類を変えるのも困難な場合がある。足にトラブルが少ない安全靴ができることを期待します。
- ・足が蒸れて不衛生になるが、足を守るためには必要。
- ・職業上、履かなければならないものなので、仕方なく生じてしまう足のトラブルもあるのではないかと思う。履かない選択肢はないので、どうすれば予防できるか対策が必要と思う。
- ・足には安全ではない靴だと思う。内部をカスタマイズすることができるとよい。
- ・業務上必要な靴であると思うが、ただでさえ、日本人はフットウェアに関する知識がないため、安全靴を履く業務に携わる責任者はフットウェアの知識を持って安全靴を提供していただきたいと思う。現場の安全教育の一環として、従業員に周知して欲しい。
- ・水虫になりやすく、治りにくい印象。
- ・仕事上安全靴が必須で中止すると仕事が出来ない方が殆ど。トラブルがあっても上司にも相談出来ない方が多い。中には船で半年以上陸に戻らない方も居て通院すら難しい方がいる。一般靴と同様の予防策では全く追いつかず、どう足を守ってあげるべきかいつも悩んでいます。
- ・仕事のためには足に悪いとわかっているにもかかわらず安全靴を履くしかない患者様もいるため、一概に使用中止を提案することは出来ない。
- ・安全靴は職業上非常に重要な位置付けをしているはずなのだが、適切に使われていないことで悪者になっている。ご自身の足に合った安全靴を支給される仕組みになれば良いと思う。
- ・べんちのリスク高い為、要注意。こまめな、観察するべき。
- ・安全靴は足にやさしくない履物だが、技術的に足にやさしく外傷予防が可能な靴ができないわけがないと思う。
- ・重く硬い、古くなると硬い部分とそうでない所の接合部が割れてくる。
- ・患者さまの業務や生活上どうしても必要なものである場面が多く、代替案を提案しにくい。
- ・安全靴に疑問を感じる。
- ・特にありません。
- ・安全靴が足に合わないと感じる方が多くいらっしゃるが「靴の構造」「職務規定」など対策が困難である(諦めていた)と思っていました。しかし、このようなアンケートを拝見した時、良い方向に進んでいくかもと、うれしく感じました。
- ・今回の調査をきっかけに問題意識を持っている方が多いことがわかりました。今後、安全靴に困っている患者さんや医療従事者のためになる結果が導出されることを祈っています。
- ・安全靴が爪に及ぼす影響について理解できていない。
- ・硬くて重いイメージがあり、紐を結べなかったり、結ぶのが面倒な利用者さんが多い当施設では、使用することはないかと思う。軽量で安価で履きやすい物があれば、試してみたい。
- ・周りで使用している人が少ない。
- ・職業上、履かないという選択肢がない方への対応が難しい。今は、色々できていますが、良いものは高額になるので、なかなか勧めるのが難しい。
- ・「安全靴」という名称の変更も必要。何に対する「安全、なのか。
- ・あまり履かないでもらいたいが、安全の理由等で職場からの義務になっていることもあり難しい問題だと感じている。
- ・靴だけの要因でない場合も考えられます。自分の病気に真摯に向き合い、そこから靴への関心を抱いて頂けるような働きかけが必要です。
- ・父親が履いていた、すでに他界しているが足の臭いが強烈だった事を思い出す。

- ・外側からの外傷による足を守るためには必要ですが、靴の内側からも守って欲しいので、インソールの工夫や、トゥボックス、タンなど内側にクッション性のある生地をつけるなどの工夫をして欲しいです。
- ・蒸れやすいため白癬のリスクの認識は高いが、それ以外の影響について認識が低い。
- ・インソール、靴下、サイズアップ、フィット感など、正しく指導し選択、着用する必要があると思います。
- ・仕事でのしよなので中止は難しい。蒸れいて真菌症などになりやすい。
- ・安全靴を使用しなければ仕事に出れないなどしぼりがあり、実際に必要のない部署の方も使用しているケースが多い。
- ・仕事の内容を考えると必要と思うが、購入する際足の状態に合わせてはいると思う。
- ・履く必要があるのでやめさせられない。経済的に厳しい人が多い。
- ・安全カバーが外付けされる機能があればいい。
- ・靴の構造上、足病変リスクが高くなり、一旦トラブルが起こると改善困難なケースが多いと思います。安全靴は足を守る目的の靴なので、改善が望ましいです。
- ・履かなければ仕事ができないが、足のトラブルが起こりやすい、白癬が治らないなど。

以上